秋田県文化財調査報告書第515集

遺跡詳細分布調査報告書

２０１９・３

秋 田 県 教 育 委 員 会

シンボルマークは、北秋田市白坂（しろざか）遺跡出土の
「岩偶」です。
縄文時代晩期初頭、1992年８月発見、高さ７㎝、凝灰岩。

遺跡詳細分布調査報告書

２０１９・３

秋 田 県 教 育 委 員 会

序

本県には、これまでに発見された約5,000か所の遺跡をはじめとして、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した彩り豊かな文化を創造していくうえで、欠くことのできないものであります。

一方、県内道路網や河川の整備など、豊かで快適な生活を築くための地域開発が大規模に行われ、埋蔵文化財保護との調和を図ることが急務となっております。遺跡分布調査と遺跡確認調査はそのための基礎資料となるものです。

本報告書は、平成30年度に国庫補助事業として実施した、国道建設事業、河川改修事業及び主要地方道建設事業などに係る遺跡分布調査と遺跡確認調査の結果をまとめたものです。特に大館工業団地開発事業に伴う片貝家ノ下遺跡の確認調査では、昨年度から引き続き地中レーダー探査を行い、墳墓と想定される遺構の南限が判明し、遺跡の保存活用にとって重要な手がかりとなる地中データが得られました。

報告書をまとめるにあたり、調査に協力いただきました関係各機関に感謝申し上げるとともに、今後とも埋蔵文化財の保護につきまして御理解と御協力をいただきますようお願い申し上げます。

平成31年３月

秋田県教育委員会

教育長　米　田　　進

例　　言

１　本報告書は、平成30年度に秋田県教育委員会が国庫補助を得て実施した、遺跡分布調査と遺跡確認調査の報告書である。なお、本書収録の報告は平成30年４月から11月までの実施分であり、平成30年12月以降の実施分については来年度に報告する予定である。また、平成30年１月から３月に実施した遺跡分布調査の結果報告を平成29年度補足分として掲載した。

２　本報告書に収録の遺跡分布調査は主に秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室が担当し、報告を作成した。遺跡確認調査は秋田県埋蔵文化財センターが担当し、報告を作成した。全体を秋田県埋蔵文化財センターが編集した。

３　本報告書に掲載した地図は、国土交通省・秋田県が作成した平面図を使用した他、国土地理院発行の1/50,000地形図、1/25,000電子地形図、地理院地図を複製した（承認番号　平30情複、第1193号）。なお、第３章第１節の地形図には方位記号を付けていないが、全て上が世界測地系第Ｘ系座標北を示している。

25,000分の１電子地形図（平成27年10月19日調製）

「象潟」（第２・９・10・64図）、「小砂川」（第２・10・64図）、「大館」（第３図）、「十文字」（第４・17・18・35）、「北浦」（第５・42図）、「羽川」（第６図）、「羽後和田」（第６・59・76図）、「土崎」（第７・52図）、「新波」（第８・48・76図）、「抱返り渓谷」（第11図）、「白沢」（第12・28図）、「二ツ井」（第14・40・43図）、「前郷」（第19図）、「浅舞」（第20・23・51図）、「横手」（第20・32・50図）、「角館」（第21図）、「羽後水沢」（第22図）、「秋田西部」（第24・30・61図）、「秋田東部」（第24・30・61図）、「西馬内」（第25図）、「稲庭」（第26・37図）、「菅生」（第26図）、「毛馬内」（第27・29図）、「小坂」（第29図）、「陸中濁川」（第29図）、「小坂鉱山」（第29図）、「金沢本町」（第31・34・38図）、「六郷」（第33図）、「刈和野東部」（第36・54図）、「羽後長野」（第36図）、「湯沢」（第37図）、「湯瀬」（第39図）、「本荘」（第41・60図）、「早口」（第44図）、「刈和野」（第45・48・53図）、「中直根」（第46図）、「小安温泉」（第47図）、「下岩川」（第49図）、「森岳」（第49図）、「鹿渡」（第49図）、「小又口」（第49図）、「角間川」（第51図）、「悪戸野」（第55図）、「大曲」（第55図）、「太平湖」（第57・58図）、「能代」（第68図）、「横堀」（第72図）、「扇田」（第80図）

50,000分の１地形図

「浅舞（平成12年１月１日）」（第56図）

地理院地図（web）※該当地形図の図幅名を記載

「横堀（平成30年11月30日作成）」（第16図）

「鷹巣西部（平成30年11月30日作成）」（第13・15・40図）

目　　次

序
例言
目次
第１章　はじめに ･････････････････････ 1
第２章　実施要項 ･････････････････････ 1
　第１節　遺跡分布調査 ･････････････････ 1
　第２節　遺跡確認調査 ･････････････････ 6
第３章　調査の記録 ･････････････････････ 8
　第１節　遺跡分布調査 ･････････････････ 8
　　１　平成29年度補足分 ･･････････････ 8
　　（１）国道７号遊佐象潟道路事業 ･･････ 8
　　（２）長倉地区電線共同溝事業 ････････ 8
　　（３）石成歩道事業 ･････････････････ 9
　　（４）地方道路交付金工事
　　一般国道101号（浜間口工区）････ 9
　　（５）雄物川下流部河道掘削事業 ･･････10
　　（６）流域治水対策河川工事
　　新城川 ･････････････････････････10
　　（７）広域河川改修工事
　　新波川 ･････････････････････････11
　　２　平成30年度分 ･･････････････････11
　　（１）国道７号遊佐象潟道路事業 ･･････11
　　（２）国道46号刺巻線形改良事業 ･･････12
　　（３）一般国道７号白沢跨線橋架替 ････12
　　（４）一般国道７号鷹巣大館道路Ⅱ期
　　（追加分） ･････････････････････13
　　（５）一般国道７号能代地区線形改良 ･･13
　　（６）一般国道７号二ツ井今泉道路 ････14
　　（７）国道13号横堀道路改築事業 ･･････14
　　（８）石成歩道事業 ･････････････････15
　　（９）十文字歩道事業 ･･････････････16
　　(10) 地方道路交付金工事（交安）
　　一般国道108号（黒沢工区）･･････16
　　(11) 地方道路等整備事業主要地方道
　　横手東由利線（清水町工区） ････17
　　(12) 県単道路改築事業一般県道
　　日三市角館線（川原工区） ･･････17
　　(13) 地方道路交付金事業（改築）
　　国道101号（竹生工区）･･････････18
　　(14) 地方道路交付金事業（改築）
　　国道107号（大沢工区）･･････････18
　　(15) 地方街路整備工事一般県道
　　土崎港秋田線
　　（３・４・29秋田環状線） ･･････19
　　(16) 地方道路交付金工事（改築）
　　主要地方道大曲大森羽後線
　　（安良町工区） ･････････････････19
　　(17) 地方道路交付金工事（改築）
　　国道398号（稲庭バイパス）･･････20
　　(18) 地方道路交付金工事（交通安全）
　　一般国道103号（五ノ岱工区）････20
　　(19) 県単道路補修工事（交通安全）
　　主要地方道白沢田代線（白沢工区）
　　･････････････････････････････21
　　(20) 県単道路改築工事　一般国道
　　国道282号（横道工区）･･････････21
　　(21) 地方街路整備工事（都）
　　川尻広面線（横町工区）･････････22
　　(22) 県単道路改築工事　一般県道
　　耳取後三年停車場線（後三年工区）
　　･････････････････････････････22
　　(23) 地方道路交付金事業（交通安全）（主）
　　横手東由利線（中山工区） ･･････23
　　(24) 地方道路交付金工事主要地方道
　　角館六郷線（千屋第一工区） ････23
　　(25) 県単道路改築工事　一般県道
　　川西六郷線（上深井工区） ･･････24
　　(26) 地方道路交付金事業（交通安全）（一）
　　川連増田平鹿線（石成工区） ････24

(27) 地方道路交付金工事
一般国道105号（ばば田工区）‥‥25
(28) 地方道路等整備事業
国道398号（下山谷工区）‥‥‥‥‥25
(29) 地方道路交付金事業（交通安全）
県道　大曲横手線（杉目工区）‥‥26
(30) 地方道路交付金工事（交通安全）
一般県道根瀬尾去沢線（松館工区）
‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥26
(31) 地方道路交付金工事（改築）
一般県道西目屋二ツ井線
（荷上場バイパス）　‥‥‥‥‥‥‥27
(32) 地方街路交付金事業都市計画道路
停車場栄町線（裏尾崎町工区）‥‥27
(33) 地方道路交付金工事
一般国道101号（浜間口工区）‥‥28
(34) 二ツ井地区河道掘削　‥‥‥‥‥‥28
(35) 鷹巣地区河道掘削　‥‥‥‥‥‥‥29
(36) 雄物川河川激甚災害対策
特別緊急事業　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥29
(37) 鳥海ダム建設事業　‥‥‥‥‥‥‥30
(38) 成瀬ダム建設事業　‥‥‥‥‥‥‥30
(39) 広域河川改修工事
一級河川淀川‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥31
(40) 河川改修工事　三種川　‥‥‥‥‥31
(41) 通常砂防工事（上内町１）　‥‥‥32
(42) 河川災害復旧助成事業
一級河川　上溝川　‥‥‥‥‥‥‥‥32
(43) 災害対策等緊急工事
馬踏川　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥33
(44) 河川災害関連事業
一級河川　淀川　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥33
(45) 河川災害関連事業
一級河川　土買川　‥‥‥‥‥‥‥‥‥34
(46) 河川災害復旧助成事業
一級河川　楢岡川　‥‥‥‥‥‥‥‥‥34
(47) 横手西部農業水利事業　‥‥‥‥‥35
(48) 立木販売事業　‥‥‥‥‥‥‥‥‥36
(49) 製品生産請負事業　‥‥‥‥‥‥‥36
(50) 公務員宿舎整備　‥‥‥‥‥‥‥‥37
(51) 本荘工業団地地形路線測量業務　‥37
第２節　遺跡確認調査　‥‥‥‥‥‥‥‥‥38
１　県・市連携文化施設整備事業
久保田城跡（平成29年度調査分）‥‥38
２　国道７号遊佐象潟道路事業
神田遺跡　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥44
３　一般国道７号能代地区事故対策事業
高塙遺跡　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥50
４　国道13号横堀道路改築事業
赤塚遺跡　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥56
５　地方道路等整備工事（建設）
主要地方道秋田雄和本荘線（相川工区）
向田表遺跡　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥63
６　大館工業団地開発事業
片貝家ノ下遺跡　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥69
報告書抄録

第１章　はじめに

国庫補助を得て実施した遺跡詳細分布調査のうち、平成30年１月～３月に実施した平成29年度の補足分は、国道７号遊佐象潟道路事業等に係る試掘調査等７件と県・市連携文化施設整備事業に係る確認調査１件である。平成30年４月～11月には、国道７号遊佐象潟道路事業、一般国道７号能代地区線形改良、一般国道13号横堀道路改築事業、鳥海ダム建設事業、成瀬ダム建設事業、秋田県建設部による主要地方道建設事業及び河川改修事業等に係る試掘調査等51件と、国道７号遊佐象潟道路事業等に係る遺跡確認調査等５件を実施した。これらの調査はすでに策定してある調査要項に基づいて、秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室職員、秋田県埋蔵文化財センター職員が、地元教育委員会の協力を得て実施したものである。

第２章　実施要項

第１節　遺跡分布調査

１　調査の目的

開発予定地内を踏査・試掘して遺跡の有無を確認し、遺跡の保護策を講ずる。

２　調査の方法

（１）計画地域の範囲内で遺物の表面採集及び試掘調査を実施して遺跡の所在を確認するとともに、遺跡の性格についても把握する。

（２）確認された遺跡は地図に記入する。

（３）遺跡の状況、遠景を写真撮影し、遺跡の概要も記録する。

３　事業主体者

秋田県教育委員会

４　調査担当者

秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室

学芸主事	袴田　道郎（職名は当時）	学芸主事	赤上　秀人
学芸主事	堀川　昌英	文化財主任	髙橋　和成
文化財主事	伊豆　俊祐		

調査に当たっては次の各教育委員会の方々に御協力いただいた。

鹿角市教育委員会	赤坂　朋美	鹿角市教育委員会	木ノ内　瞭
大館市教育委員会	嶋影　壮憲	由利本荘市教育委員会	三原裕姫子
由利本荘市教育委員会	板垣　俊一	にかほ市教育委員会	伊藤　　学
湯沢市教育委員会	藤原裕希子		

５　調査対象地域及び事業名

※平成29年度補足分（平成30年１月～３月）

No.	事業者	事　　業　　名	事業地	調査期間	調査内容	調査結果
1	国土交通省秋田河川	国道７号遊佐象潟道路事業	にかほ市	３月23～24日	試掘	事業地内で周知の遺跡３か所（神田遺跡、ヲフキ遺跡、菅先遺跡）を確認した。
2	国土交通省能代河川	長倉地区電線共同溝事業	大館市	１月29日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
3	国土交通省湯沢河川	石成歩道事業	横手市	１月17日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
4	建設部	地方道路交付金工事一般国道101号（浜間口工区）	男鹿市	３月９日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
5	国土交通省秋田河川	雄物川下流部河道掘削事業	秋田市	２月２・26日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
6	建設部	流域治水対策河川工事 新城川	秋田市	２月16～17日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
7	建設部	広域河川改修工事 新波川	秋田市	３月26・28日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。

※平成29年度補足分工事立会（平成30年１月～３月）

No.	事業者	事　　業　　名	事業地	調査期間	立会結果	備　　考
1	農林水産省	横手西部農業水利事業	横手市	１月18日	遺構・遺物は確認されなかった。	石塚上台遺跡
2	生活環境部	きみまち阪園地遊歩道等整備工事	能代市	２月20日	遺構・遺物は確認されなかった。	倭后阪遺跡

※平成30年度分（平成30年４月～ 11月）

No.	事業者	事　　業　　名	事業地	調査期間	調査内容	調査結果
1	国土交通省秋田河川	国道７号遊佐象潟道路事業	にかほ市	６月６・14～15日 11月５日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
2	国土交通省秋田河川	国道46号刺巻線形改良事業	仙北市	９月13日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
3	国土交通省能代河川	一般国道７号白沢跨線橋架替	大館市	５月23～24日 ６月13日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
4	国土交通省能代河川	一般国道７号鷹巣大館道路Ⅱ期（追加分）	北秋田市	５月29日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
5	国土交通省能代河川	一般国道７号能代地区線形改良	能代市	８月８・29日 ９月26日 10月29日	試掘	事業地内で周知の遺跡４か所（烏野上岱遺跡、竜毛沢Ⅰ遺跡、竜毛沢Ⅳ遺跡、竜毛沢Ⅴ遺跡）を確認した。うち１か所（竜毛沢Ⅰ遺跡）では遺構・遺物は確認されなかった。
6	国土交通省能代河川	一般国道７号二ツ井今泉道路	北秋田市	11月16日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
7	国土交通省湯沢河川	国道13号横堀道路改築事業	湯沢市	４月16･25日、５月21日、６月25～26日、７月２～３･11～12･17日、11月12～13･15日	踏査・試掘	事業地内で新たな遺跡５か所（横堀中屋敷遺跡、赤塚遺跡、山口遺跡、立浪遺跡、柳原遺跡）を確認した。
8	国土交通省湯沢河川	石成歩道事業	横手市	６月11日、11月21日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
9	国土交通省湯沢河川	十文字歩道事業	横手市	11月13日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
10	建設部	地方道路交付金工事（交安）一般国道108号（黒沢工区）	由利本荘市	４月11日	踏査	試掘調査不要と判断した。
11	建設部	地方道路等整備事業主要地方道横手東由利線（清水町工区）	横手市	４月11日	踏査	試掘調査不要と判断した。
12	建設部	県単道路改築事業一般県道日三市角館線（川原工区）	仙北市	４月13日	踏査	試掘調査不要と判断した。
13	建設部	地方道路交付金事業（改築）国道101号（竹生工区）	能代市	４月16日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
14	建設部	地方道路交付金事業（改築）国道107号（大沢工区）	横手市	４月23日 11月12日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
15	建設部	地方街路整備工事一般県道土崎港秋田線（3･4･29秋田環状線）	秋田市	５月７日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
16	建設部	地方道路交付金工事（改築）主要地方道大曲大森羽後線（安良町工区）	羽後町	５月15日 ９月14日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
17	建設部	地方道路交付金工事（改築）国道398号（稲庭バイパス）	湯沢市	５月21日 ６月15日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
18	建設部	地方道路交付金工事（交通安全）一般国道103号（五ノ岱工区）	鹿角市	５月23日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
19	建設部	県単道路補修工事（交通安全）主要地方道白沢田代線（白沢工区）	大館町	５月29日 ６月13日	試掘	事業地は周知の遺跡（大館野遺跡）の範囲内だが、遺構・遺物は確認されなかった。
20	建設部	県単道路改築工事一般国道国道282号（横道工区）	小坂町	６月13日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
21	建設部	地方街路整備工事（都）川尻広面線（横町工区）	秋田市	６月15日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
22	建設部	県単道路改築工事　一般県道耳取後三年停車場線（後三年工区）	美郷町	７月25日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
23	建設部	地方道路交付金事業（交通安全）（主）横手東由利線（中山工区）	横手市	７月27日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
24	建設部	地方道路交付金工事主要地方道角館六郷線（千屋第一工区）	美郷町	７月30日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
25	建設部	県単道路改築工事　一般県道川西六郷線（上深井工区）	美郷町	８月１日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。

No.	事業者	事　　業　　名	事業地	調査期間	調査内容	調査結果
26	建設部	地方道路交付金事業(交通安全)(一)川連増田平鹿線(石成工区)	横手市	８月９日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
27	建設部	地方道路交付金工事一般国道105号(ばば田工区)	大仙市	９月３日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
28	建設部	地方道路等整備事業国道398号(下山谷工区)	湯沢市	９月14日	踏査	試掘調査不要と判断した。
29	建設部	地方道路交付金事業(交通安全)県道　大曲横手線(杉目工区)	横手市	９月21日	試掘	事業地は周知の遺跡(条里制跡)の範囲内だが、遺構・遺物は確認されなかった。
30	建設部	地方道路交付金工事(交通安全)一般県道根瀬尾去沢線(松館工区)	鹿角市	９月28日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
31	建設部	地方道路交付金工事(改築)一般県道西目屋二ツ井線(荷上場バイパス)	能代市	10月２日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
32	建設部	地方街路交付金事業都市計画道路停車場栄町線(裏尾崎町工区)	由利本荘市	10月19日	試掘	周知の遺跡(代官小路遺跡)の範囲内だが、遺構・遺物は確認されなかった。
33	建設部	地方道路交付金工事一般国道101号(浜間口工区)	男鹿市	10月30日	試掘	周知の遺跡(地蔵台遺跡)の範囲内だが、遺構・遺物は確認されなかった。
34	国土交通省能代河川	二ツ井地区河道掘削	能代市	10月９日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
35	国土交通省能代河川	鷹巣地区河道掘削	大館市	10月19日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
36	国土交通省湯沢河川	雄物川河川激甚災害対策特別緊急事業	大仙市	５月14日 11月２日	試掘	事業地内で周知の遺跡１か所(峰吉川中村遺跡)を確認した。
37	国土交通省鳥海ダム	鳥海ダム建設事業	由利本荘市	８月９～10日 10月26日	踏査・試掘	事業地内で周知の遺跡１か所(高野台遺跡)を確認した。
38	国土交通省成瀬ダム	成瀬ダム建設事業	東成瀬村	10月22～23日	試掘	事業地内で新たな遺跡２か所(北ノ又沢Ⅱ遺跡、北ノ又沢Ⅲ遺跡)を確認した。
39	建設部	広域河川改修工事一級河川淀川	大仙市	４月19日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
40	建設部	河川改修工事　三種川	三種町	４月24日 10月17日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
41	建設部	通常砂防工事(上内町１)	横手市	７月９日	試掘	事業地は周知の遺跡(愛宕山遺跡・朝草刈城跡)の範囲内だが、遺構・遺物は確認されなかった。
42	建設部	河川災害復旧助成事業　一級河川　上溝川	横手市	10月９～10日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
43	建設部	災害対策等緊急工事　馬踏川	秋田市	11月２日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
44	建設部	河川災害関連事業　一級河川淀川	大仙市	11月７日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
45	建設部	河川災害関連事業　一級河川土買川	大仙市	11月８日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
46	建設部	河川災害復旧助成事業　一級河川　楢岡川	大仙市	11月21日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
47	農林水産省	横手西部農業水利事業	横手市	９月14日	踏査	事業地内で周知の遺跡１か所(柏木遺跡)を確認した。
48	林野庁	立木販売事業	北秋田市	９月19日	試掘	事業地は周知の遺跡(大印A遺跡)の範囲内だが、遺構・遺物は確認されなかった。
49	林野庁	製品生産請負事業	北秋田市	10月18日	試掘	事業地は周知の遺跡(小又川遺跡)の範囲内だが、遺構・遺物は確認されなかった。
50	防衛省	公務員宿舎整備	秋田市	７月31日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。
51	産業労働部	本荘工業団地地形路線測量業務	由利本荘市	６月27日	試掘	事業地内で遺跡は確認されなかった。

※平成30年度分工事立会（平成30年４月～11月）

No.	事業者	事　　業　　名	事業地	調査期間	立会結果	備　　考
1	国土交通省 秋田河川	国道７号遊佐象潟道路事業	にかほ市	４月６・９日	ヲフキ遺跡では耕作土中より近世磁器が出土したが、遺構は確認されなかった。神田遺跡では遺構・遺物は確認されなかった。	ヲフキ遺跡、神田遺跡
2	国土交通省 能代河川	一般国道７号鷹巣大館道路Ⅱ期（追加分）	北秋田市	６月８日	遺構・遺物は確認されなかった。	からむし岱Ⅱ遺跡
3	国土交通省 湯沢河川	国道13号横堀道路改築事業	湯沢市	８月23日	遺構・遺物は確認されなかった。	山口遺跡
4	建設部	県単道路補修工事（交通安全） 主要地方道白沢田代線 （白沢工区）	大館市	９月４日	遺構・遺物は確認されなかった。	大館野遺跡
5	建設部	県単道路補修工事（災害防除）	鹿角市	11月19日	遺構・遺物は確認されなかった。	三ヶ田館跡
6	建設部	地方道路交付金工事（交通安全）主要地方道白沢田代線 （大森工区）	大館市	11月21日	遺構・遺物は確認されなかった。	大森野遺跡
7	国土交通省 湯沢河川	雄物川河川激甚災害対策特別緊急事業	大仙市	11月26日	カマド状遺構２基を検出したが、工法変更により遺構の掘削を回避した。	峰吉川中村遺跡
8	建設部	河川災害復旧助成事業　一級河川　上溝川	横手市	10月17日	遺構・遺物は確認されなかった。	観音寺廃寺跡

第２節　遺跡確認調査

１　調査の目的

開発事業計画に係る遺跡の広がり、埋没の度合い、時代とその性格を知るために当該地域での遺物の表面採集及び小規模の発掘調査（遺構確認面までの掘り下げが主体）を行い、当該埋蔵文化財の保護と保存を図る。また、早急な内容の把握が求められる重要な遺跡については、地中レーダー探査により遺跡内の様相を把握し、当該埋蔵文化財の保護と保存に向けた情報・資料を得る。

２　調査の方法

（１）地形を考慮したトレンチ及び試掘坑を設定して行う。また、遺構等が確認された場合、できる限り面的に調査範囲を広げて平面形を追求し遺構種別の特定に努める。

（２）確認された遺構・遺物、遺物包含層、堆積土の厚さ等は、実測図等により記録する。また、遺跡の全景と調査状況、遺構・遺物の確認状況等は写真撮影し、画像を記録する。

（３）使用する地形図は開発部局で作成した最大縮尺の図面とする。

３　事業主体者

秋田県教育委員会

４　調査担当者

秋田県埋蔵文化財センター　主任文化財専門員(兼)班長　磯村　亨
副　主　幹　村上　義直
文化財主事　巴　亜子　小山　美紀　森谷　康平

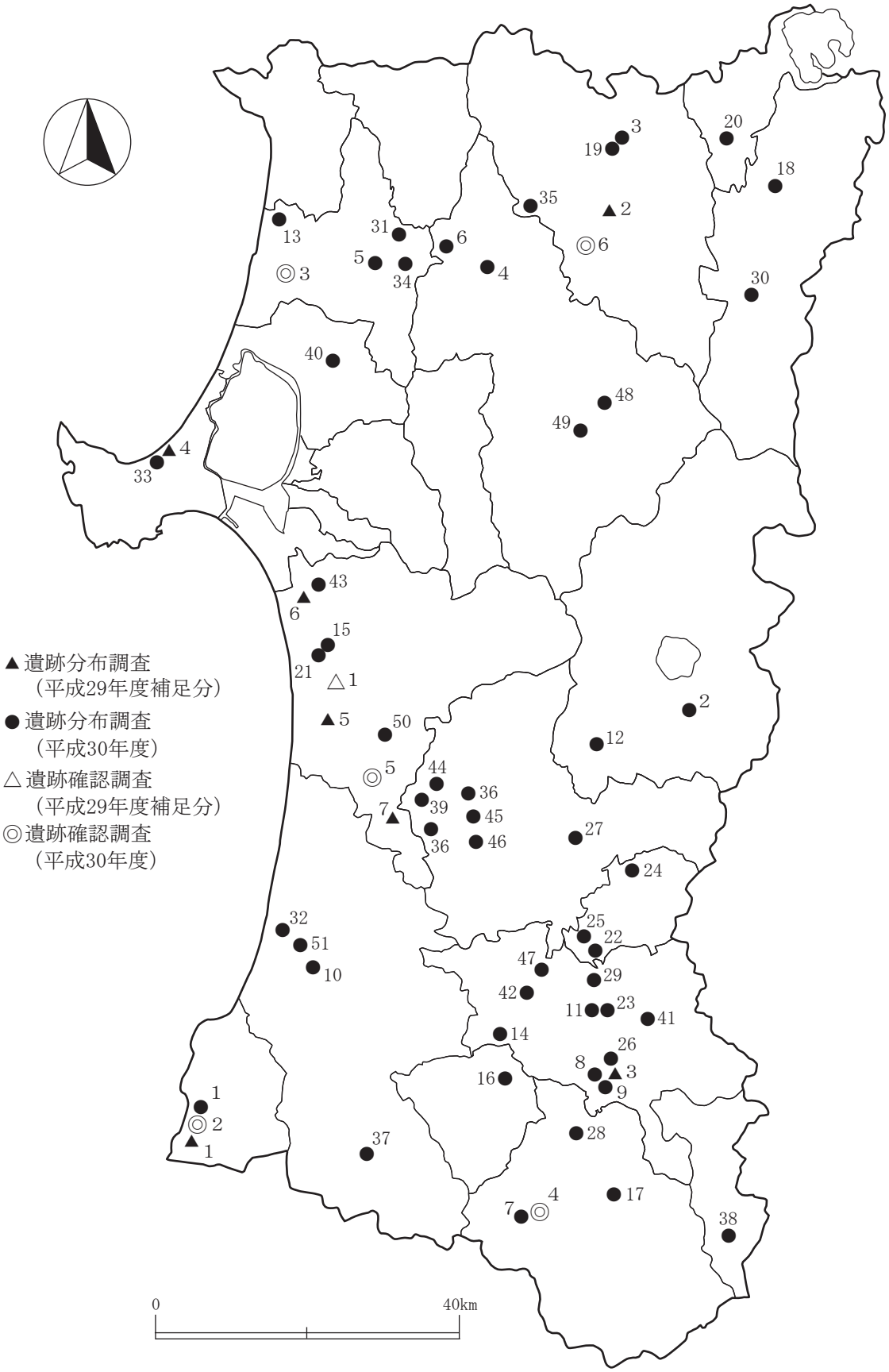
５　調査対象遺跡及び事業名

※平成29年度補足分

No.	事　業　名	遺跡名（所在地）	調査期間	担当者
1	県・市連携文化施設整備事業	久保田城跡（秋田市）	平成30年２月５日～２月８日	磯村・村上

※平成30年度補足分

No.	事　業　名	遺跡名（所在地）	調査期間	担当者
2	国道７号遊佐象潟道路事業	神田遺跡（にかほ市）	平成30年７月13日～７月31日	巴・小山・森谷
3	一般国道７号能代地区事故対策事業	高塙遺跡（能代市）	平成30年７月６・９日	巴・小山・森谷
4	国道13号横堀道路改築事業	赤塚遺跡（湯沢市）	平成30年９月25日～10月４日	巴・小山・森谷
5	地方道路等整備工事(建設)主要地方道秋田雄和本荘線(相川工区)	向田表遺跡（秋田市）	平成30年５月28日～６月１日	巴・小山・森谷
6	大館工業団地開発事業	片貝家ノ下遺跡（大館市）	平成30年６月19・20日	村上



第１図　遺跡分布調査・遺跡確認調査地点図

第３章　調査の記録

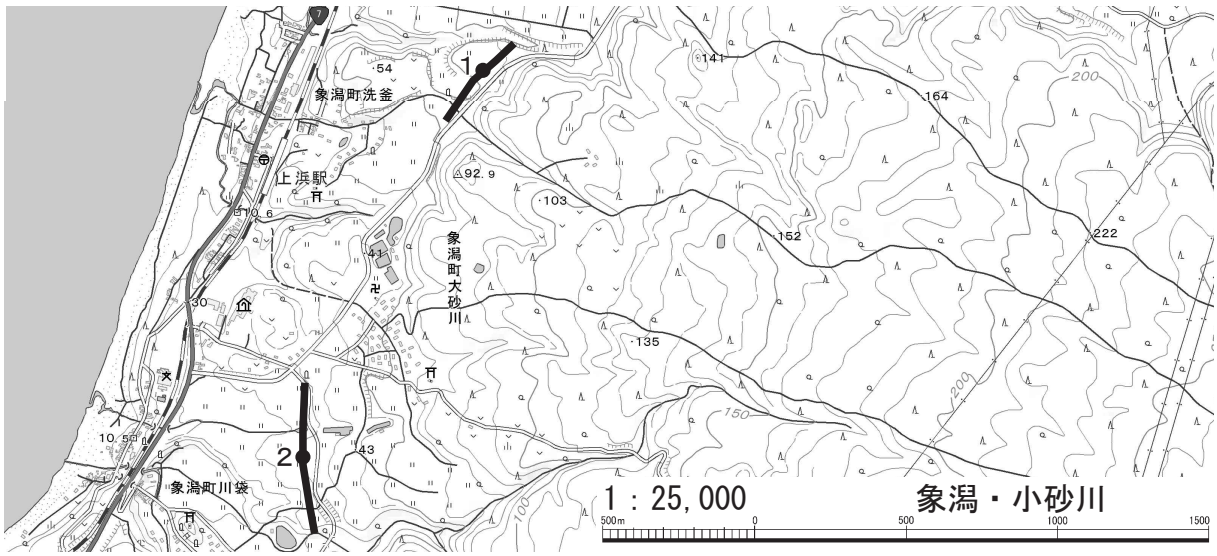
第１節　遺跡分布調査

１　平成29年度補足分

（１）国道７号遊佐象潟道路事業

事業予定地のうち、中心杭No.244～266、314～323間の試掘調査を実施した。調査の結果、周知の遺跡３か所が事業に係ることを確認した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	神田遺跡	にかほ市象潟町洗釜	縄文	水田	土器埋設遺構 縄文土器	周知の遺跡
2	ヲフキ遺跡 菅先遺跡	にかほ市象潟町大砂川	縄文 他	水田、雑種地	土坑、縄文土器、石器	周知の遺跡

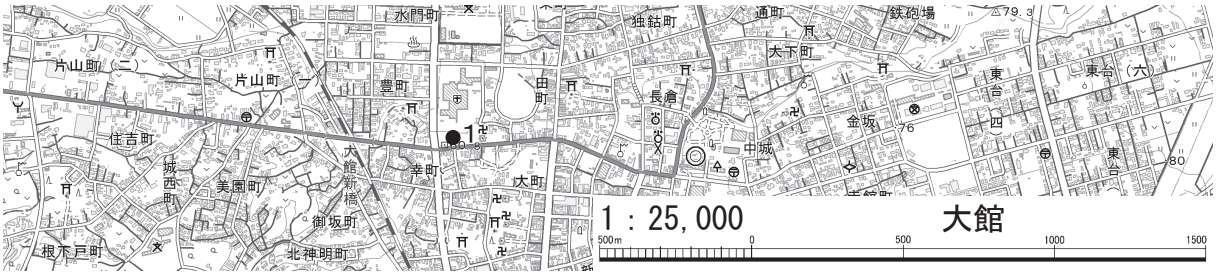


第２図　国道７号遊佐象潟道路事業　遺跡分布調査位置図

（２）長倉地区電線共同溝事業

事業予定地の西端部（下り車線側）について試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、今回の対象地については埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	大館市長倉	・・	歩道	なし	

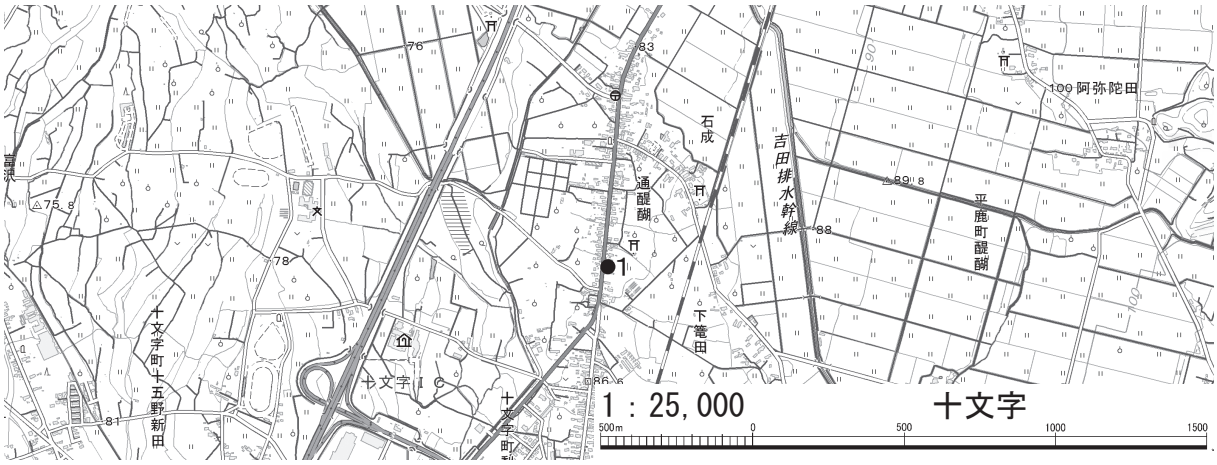


第３図　長倉地区電線共同溝事業　遺跡分布調査位置図

（３）石成歩道事業

事業予定地のうち、中心杭No.25～27間（上り車線側）の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、今回の対象地については埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	横手市平鹿町醍醐	・・	宅地	なし	

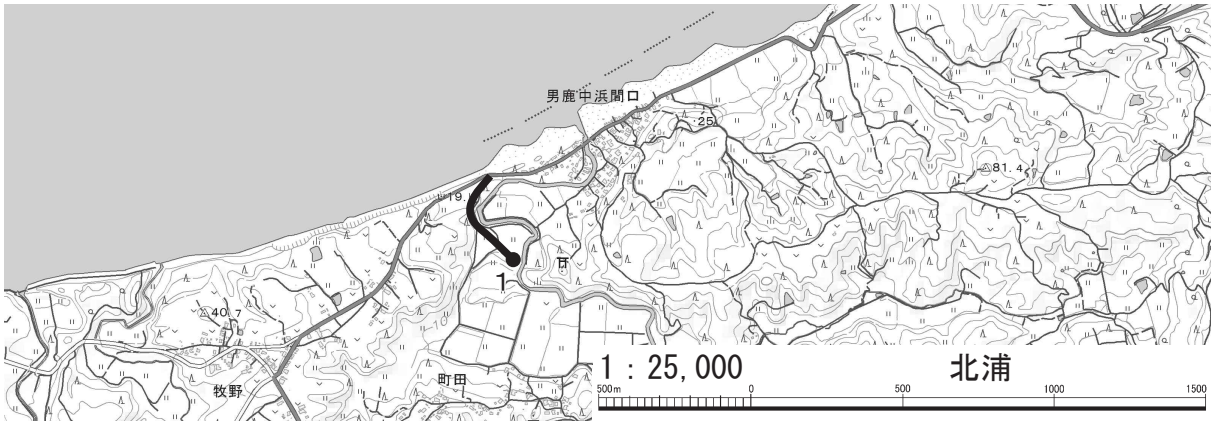


第４図　石成歩道事業　遺跡分布調査位置図

（４）地方道路交付金工事一般国道101号（浜間口工区）

事業予定地のうち、本線No.86～89及び工事用進入路No.０～４間の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、今回の対象地については埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	男鹿市男鹿中浜間口	・・	水田	なし	

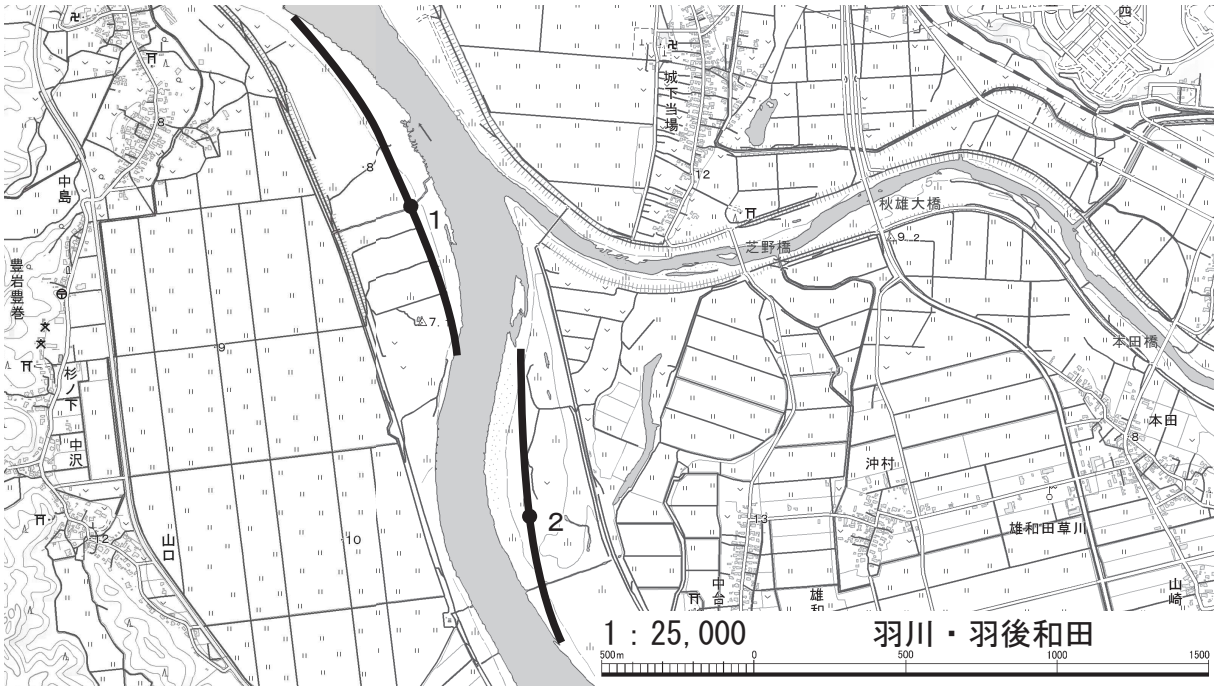


第５図　地方道路交付金工事一般国道101号（浜間口工区）　遺跡分布調査位置図

（５）雄物川下流部河道掘削事業

事業予定地の一部について試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、今回の対象地については埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	秋田市豊岩	・・	河川敷	なし	
2	・・・・・	秋田市四ツ小屋	・・	河川敷	なし	

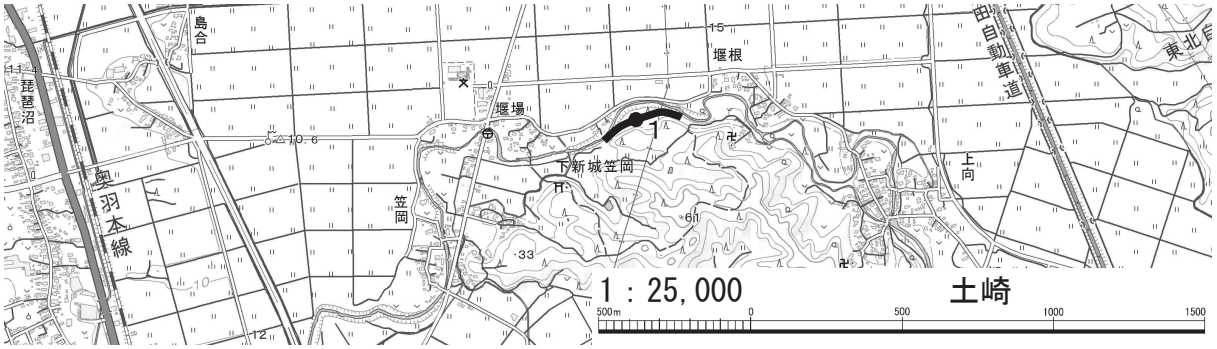


第６図　雄物川下流部河道掘削事業　遺跡分布調査位置図

（６）流域治水対策河川工事　新城川

事業予定地のうち、No. １～16間の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、今回の対象地については埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	秋田市下新城笠岡堰場	・・	水田	なし	

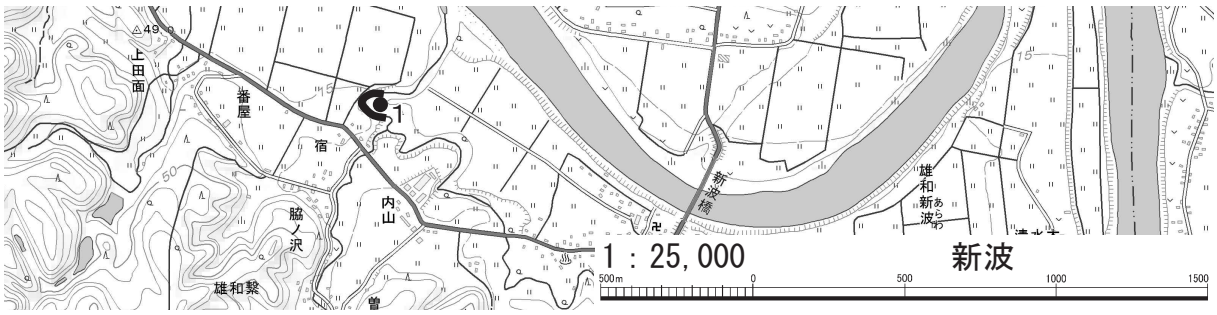


第７図　流域治水対策河川工事　新城川　遺跡分布調査位置図

（７）広域河川改修工事　新波川

事業予定地のうち、No. ７～12間の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、今回の対象地については埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	秋田市雄和新波新町	・・	山林	なし	



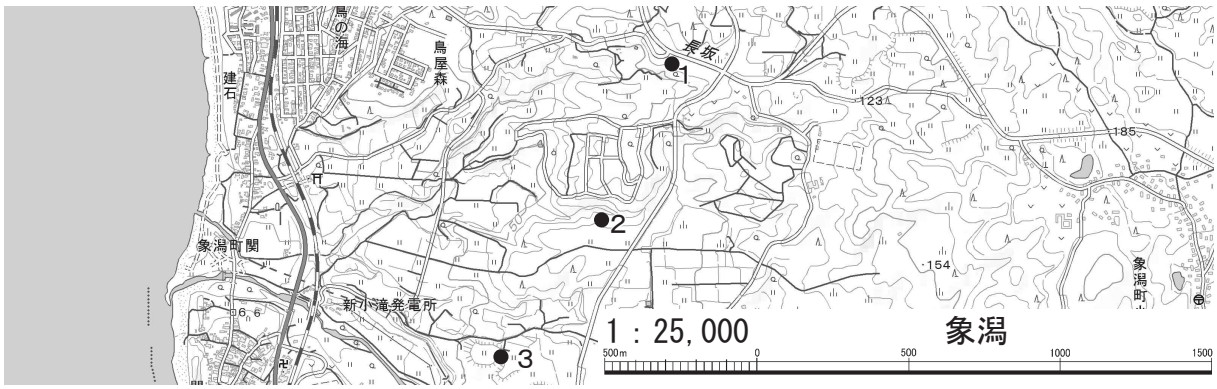
第８図　広域河川改修工事　新波川　遺跡分布調査位置図

２　平成30年度分

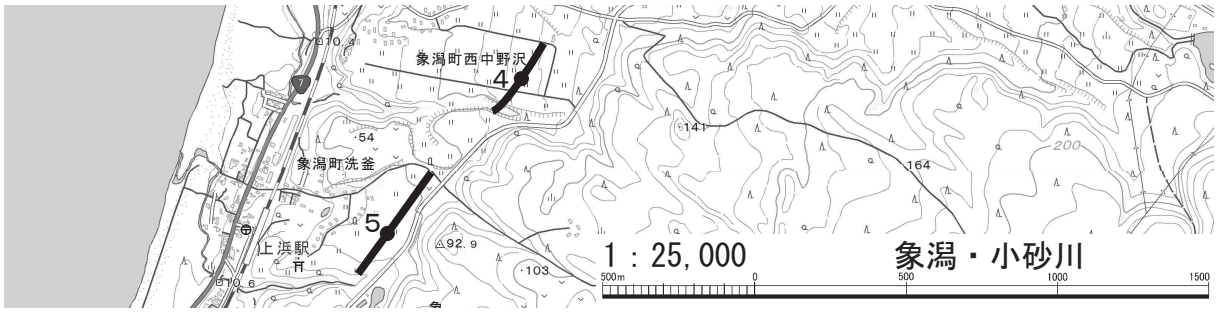
（１）国道７号遊佐象潟道路事業

事業予定地のうち、中心杭No. 296～314、333～347、425～428、480～485間、No. 427付近工事用道路部分の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、今回の対象地については埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	にかほ市象潟町関字大道	・・	山林	なし	
2	・・・・・	にかほ市象潟町関字平森	・・	山林	なし	
3	・・・・・	にかほ市象潟町関字館森	・・	水田	なし	
4	・・・・・	にかほ市象潟町西中野沢	・・	水田	なし	
5	・・・・・	にかほ市象潟町洗釜	・・	水田	なし	



第９図　国道７号遊佐象潟道路事業　遺跡分布調査位置図（１）

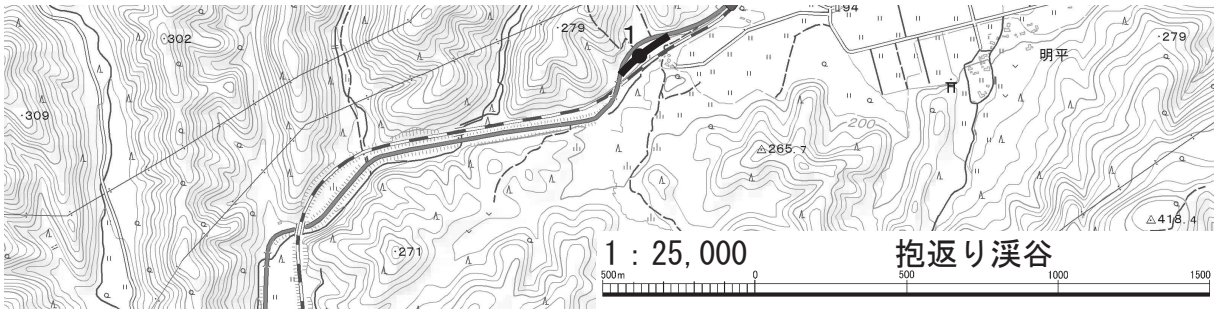


第10図　国道７号遊佐象潟道路事業　遺跡分布調査位置図（２）

（２）国道46号刺巻線形改良事業

事業予定地のうち、中心杭No. ７～10間の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、今回の対象地については埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	仙北市田沢湖刺巻	・・	山林	なし	

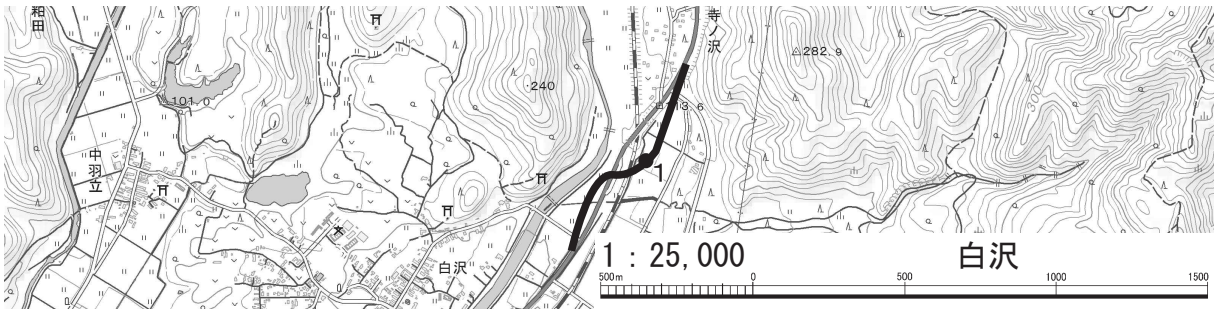


第11図　国道46号刺巻線形改良事業　遺跡分布調査位置図

（３）一般国道７号白沢跨線橋架替

事業予定地内の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	大館市白沢	・・	水田、山林	なし	

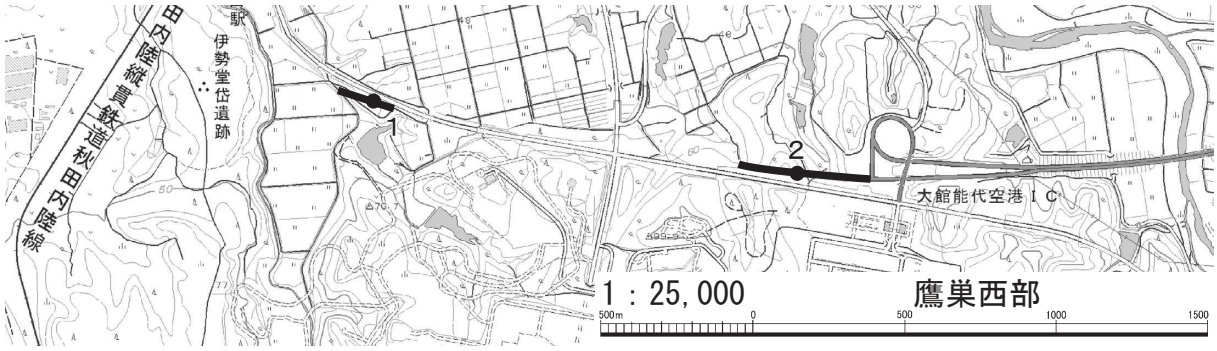


第12図　一般国道７号白沢跨線橋架替　遺跡分布調査位置図

（４）一般国道７号鷹巣大館道路Ⅱ期（追加分）

事業予定地のうち、中心杭No.24～31、323～341間の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	北秋田市脇神字下からむし岱、奥小ケ田	・・	水田、原野	なし	
2	・・・・・	北秋田市脇神字からむし岱	・・	山林	なし	

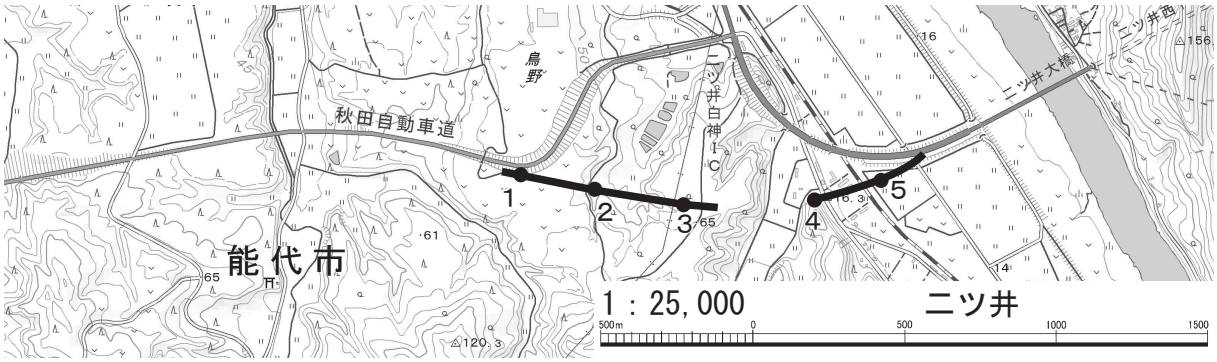


第13図　一般国道７号鷹巣大館道路Ⅱ期（追加分）　遺跡分布調査位置図

（５）一般国道７号能代地区線形改良

事業予定地のうち、中心杭No.19～57、71～96間の試掘調査を実施した。調査の結果、周知の遺跡４か所を確認したが、竜毛沢Ⅰ遺跡については、遺構・遺物ともに確認できず、慎重工事対応と判断した。ほかの遺跡については、今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	烏野上岱遺跡	能代市二ツ井町駒形字烏野上岱、多郎兵衛沢	縄文ほか	原野	なし	周知の遺跡
2	・・・・・	能代市二ツ井町切石字烏坂	・・	山林	なし	
3	竜毛沢Ⅳ遺跡 竜毛沢Ⅴ遺跡	能代市二ツ井町切石字竜毛沢	古代 中世	山林	土師器	周知の遺跡
4	竜毛沢Ⅰ遺跡	能代市二ツ井町切石字竜毛沢	古代 中世	山林	なし	周知の遺跡
5	・・・・・	能代市二ツ井町切石字白砂下、厩ケ台	・・	宅地、水田	なし	

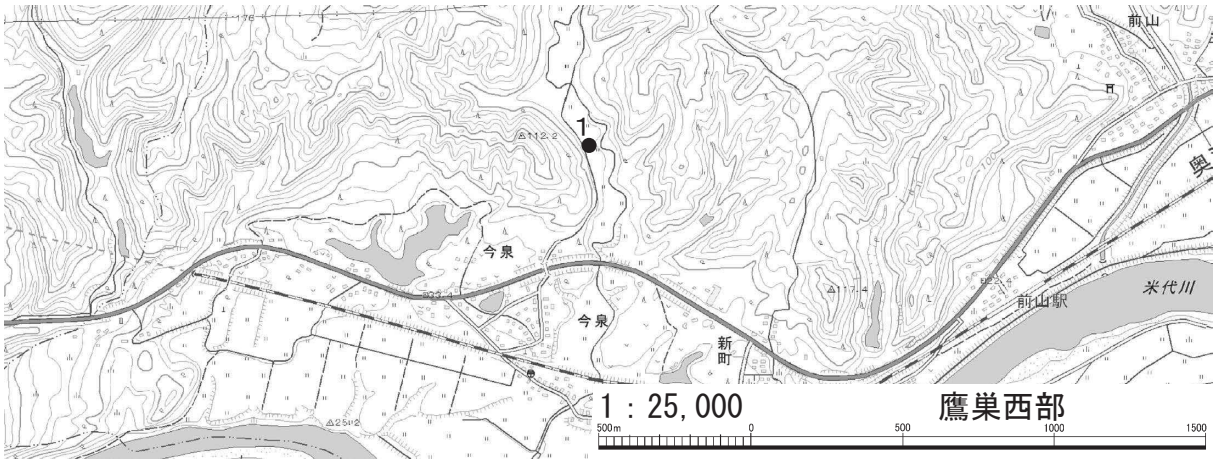


第14図　一般国道７号能代地区線形改良　遺跡分布調査位置図

（６）一般国道７号二ツ井今泉道路

事業予定地の一部について試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、今回の対象地については埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	北秋田市今泉字造坂	・・	水田	なし	

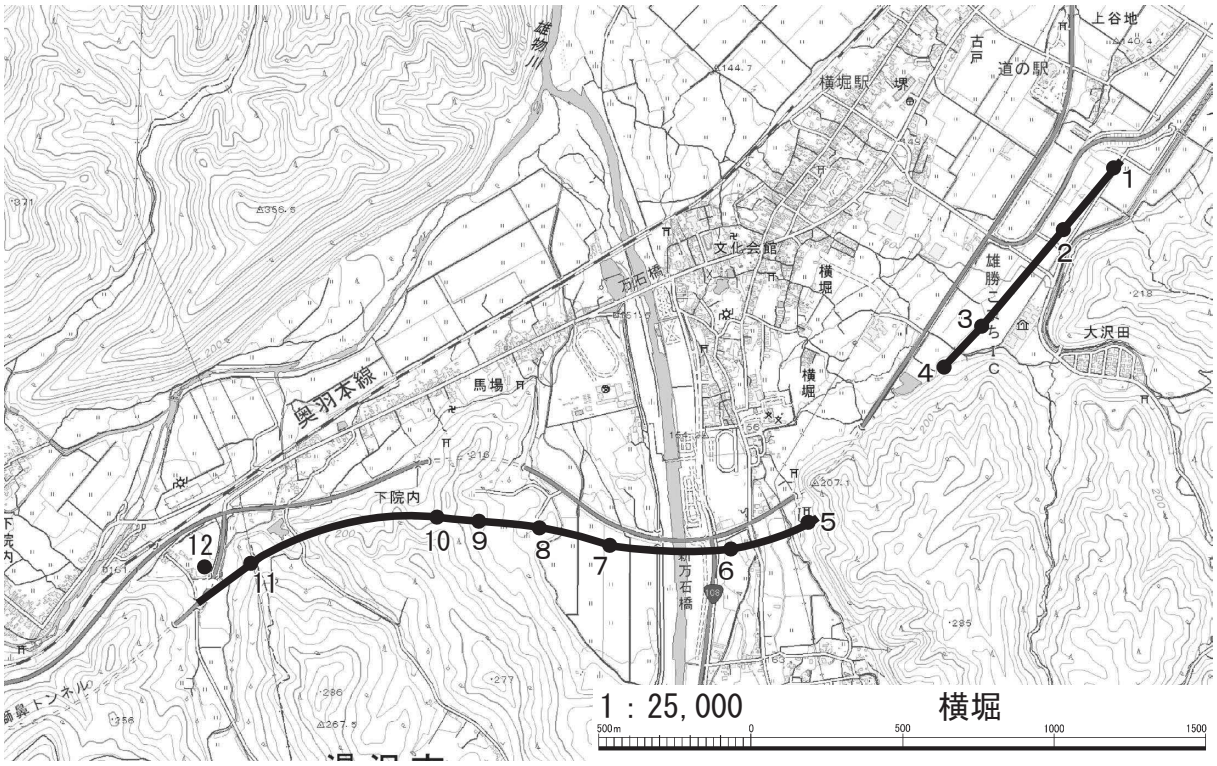


第15図　一般国道７号二ツ井今泉道路　遺跡分布調査位置図

（７）国道13号横堀道路改築事業

事業予定地のうち、中心杭No.521～628、661～686、692～694、700～706間及び(仮)下院内ＩＣ部分の試掘調査、踏査を実施した。調査の結果、新発見の遺跡５か所が事業に係ることを確認した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	湯沢市桑崎字上谷地	・・	水田	なし	
2	・・・・・	湯沢市小野字大沢田	・・	水田	なし	
3	横堀中屋敷遺跡	湯沢市横堀字中屋敷	縄文	水田	柱穴様ピット 縄文土器	新発見の遺跡
4	・・・・・	湯沢市横堀字前林	・・	水田	なし	
5	・・・・・	湯沢市横堀字真木沢	・・	山林	なし	
6	赤塚遺跡	湯沢市横堀字赤塚	縄文	水田	土坑・縄文土器	新発見の遺跡
7	・・・・・	湯沢市下院内字小白岩	・・	水田	なし	
8	・・・・・	湯沢市下院内字山口	・・	荒蕪地	なし	
9	山口遺跡	湯沢市下院内字山口	古代	山林	土師器	新発見の遺跡
10	・・・・・	湯沢市下院内字山口、前林	・・	山林	なし	
11	立浪遺跡	湯沢市下院内字立浪、宝山	縄文	山林、畑	土坑、Ｔピット 縄文土器、石器	新発見の遺跡
12	柳原遺跡	湯沢市下院内字柳原	不明	水田	柱穴様ピット	新発見の遺跡

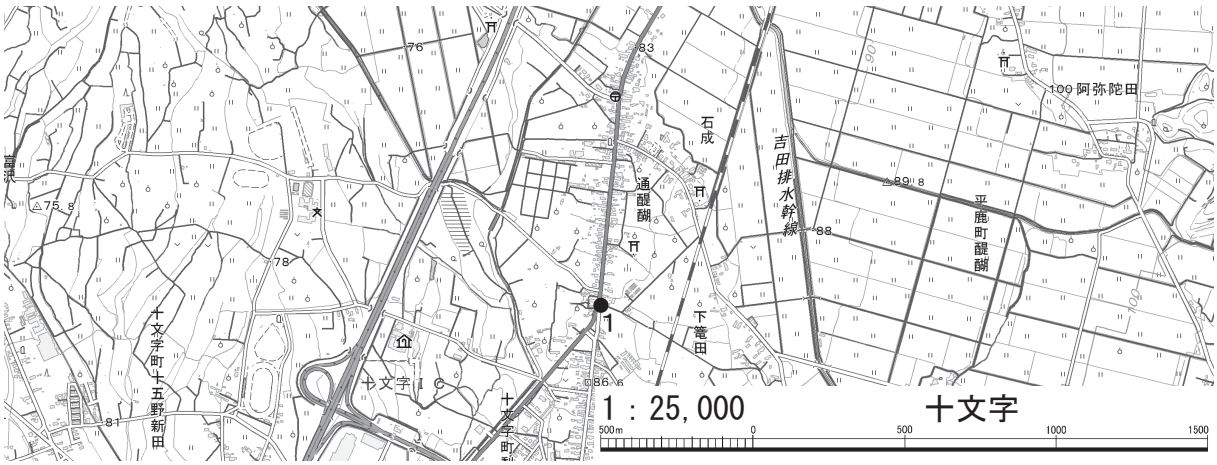


第16図　国道13号横堀道路改築事業　遺跡分布調査位置図

（８）石成歩道事業

事業予定地のうち、中心杭No.17～23間（上り車線側）について試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	横手市平鹿町醍醐	・・	道路	なし	

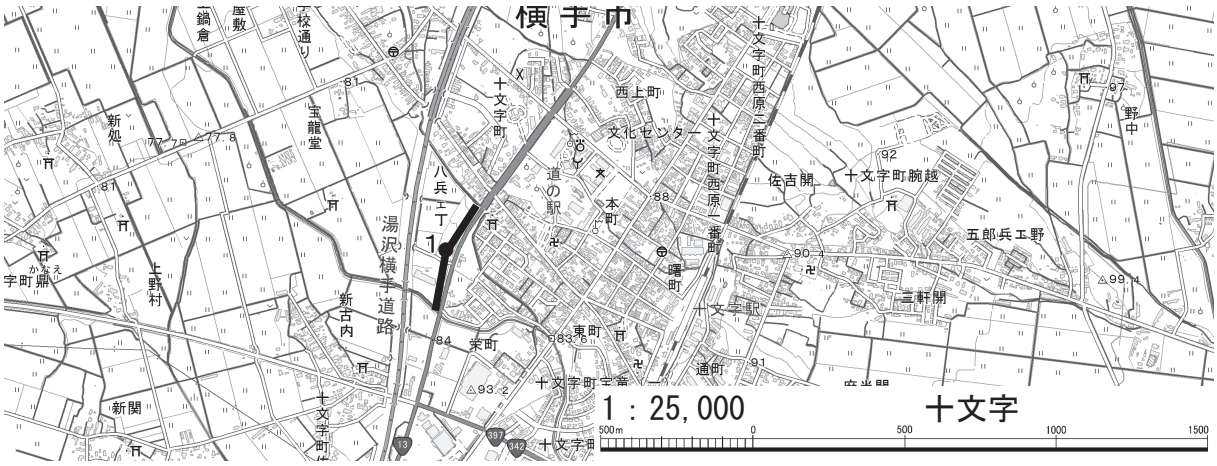


第17図　石成歩道事業　遺跡分布調査位置図

（９）十文字歩道事業

事業予定地のうち、中心杭No.16～33間について試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、今回の対象地については埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	横手市十文字町上鍋倉	・・	水路、水田	なし	

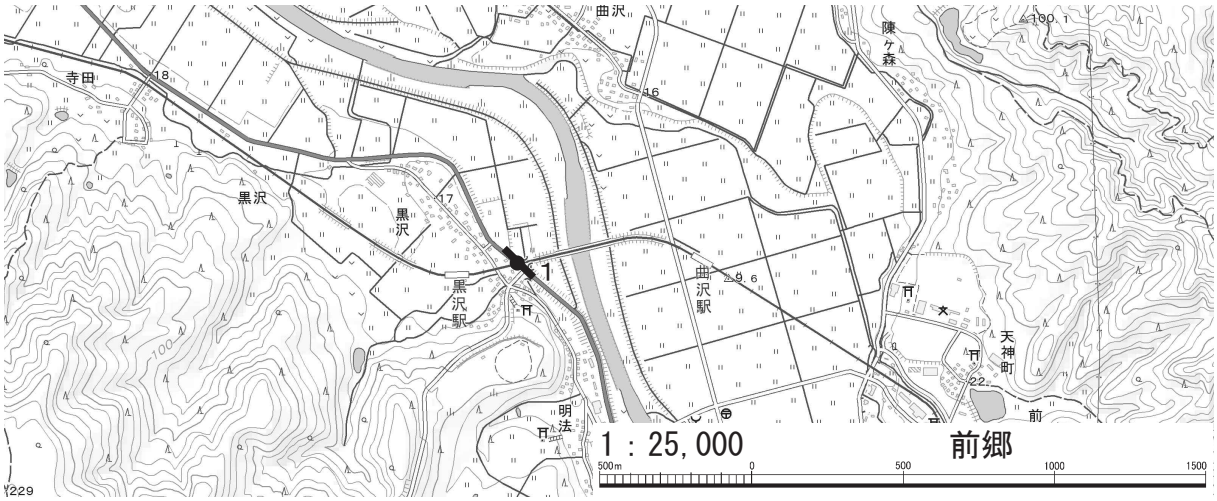


第18図　十文字歩道事業　遺跡分布調査位置図

(10) 地方道路交付金工事（交安）一般国道108号（黒沢工区）

事業予定地の踏査を実施した。調査の結果、用地幅が狭く大部分が現道法面であることから、試掘調査は不要と判断した。本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	由利本荘市黒沢	・・	道路、水路	なし	

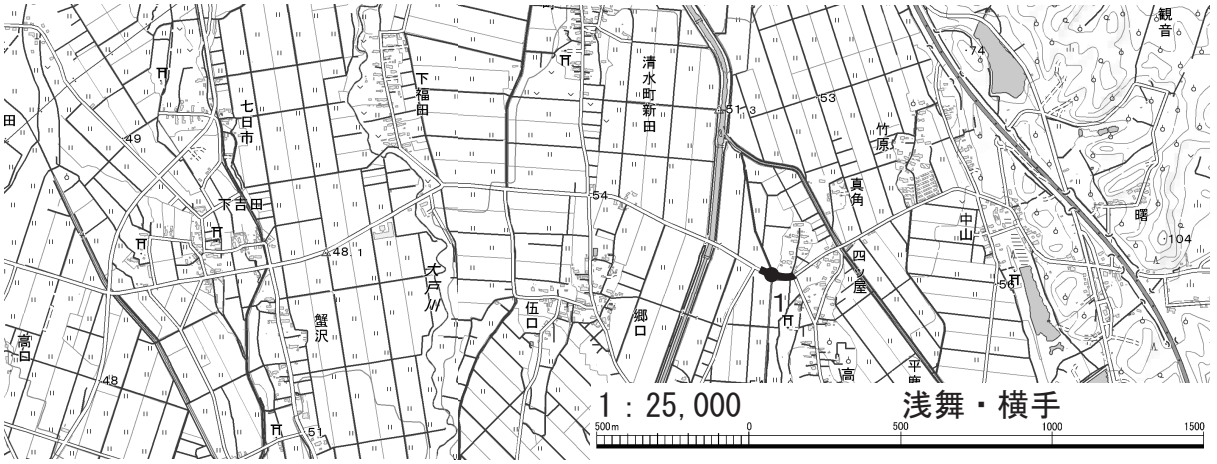


第19図　地方道路交付金工事（交安）一般国道108号（黒沢工区）　遺跡分布調査位置図

(11)地方道路等整備事業主要地方道横手東由利線(清水町工区)

事業予定地の踏査を実施した。調査の結果、用地幅が狭く大部分が現道法面であることから、試掘調査は不要と判断した。本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	横手市清水町	・・	道路、水路	なし	

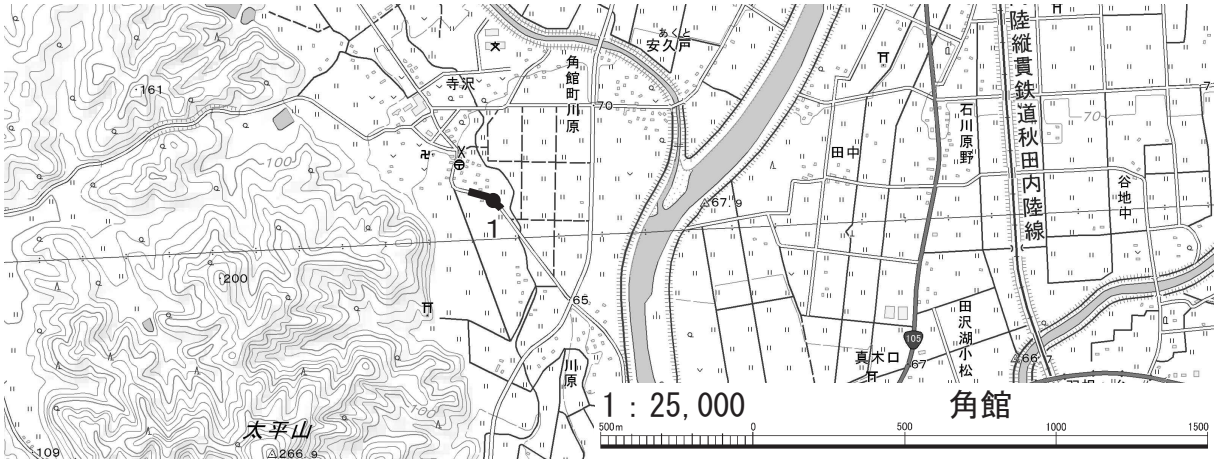


第20図　地方道路等整備事業主要地方道横手東由利線(清水町工区)　遺跡分布調査位置図

(12)県単道路改築事業一般県道日三市角館線(川原工区)

事業予定地の踏査を実施した。調査の結果、用地幅が狭く大部分の現況が水路であることから、試掘調査は不要と判断した。本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	仙北市角館町川原	・・	水路	なし	

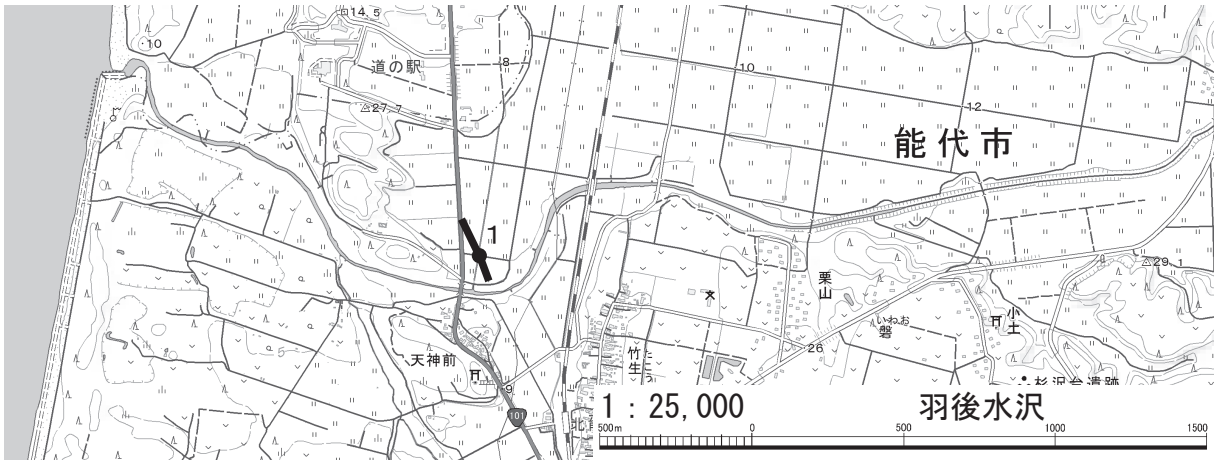


第21図　県単道路改築事業一般県道日三市角館線(川原工区)　遺跡分布調査位置図

(13) 地方道路交付金事業（改築）国道101号（竹生工区）

事業予定地のうち、道路中心杭No.０～７間の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、今回の対象地については埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	能代市竹生	・・	水田	なし	

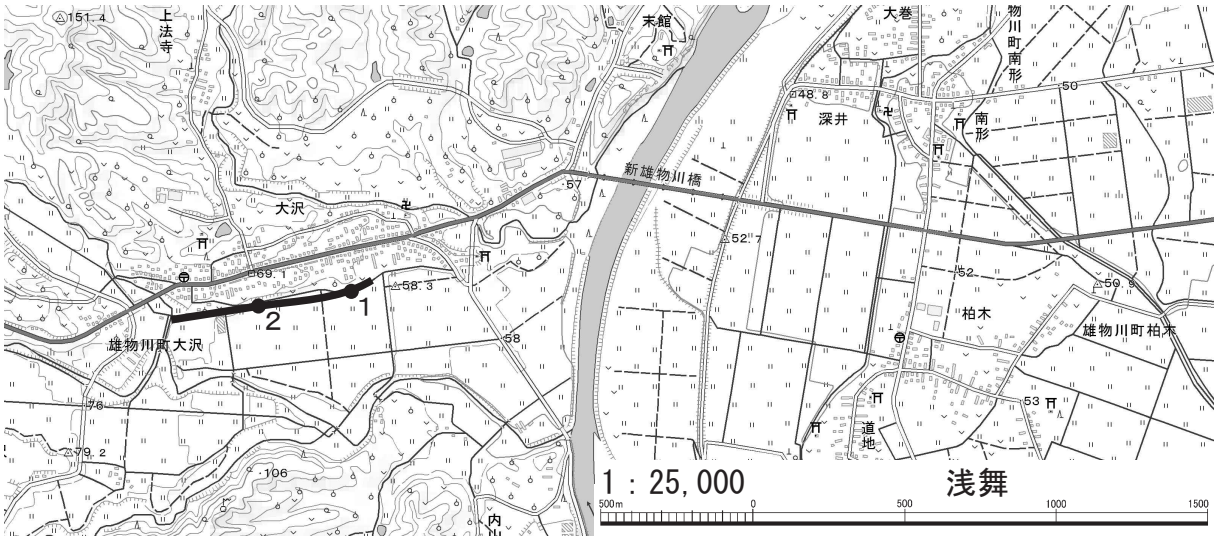


第22図 地方道路交付金事業（改築）国道101号（竹生工区） 遺跡分布調査位置図

(14) 地方道路交付金事業（改築）国道107号（大沢工区）

事業予定地のうち、中心杭No.16～17、26～60間の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、今回の対象地については埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	横手市雄物川町大沢字大沢	・・	水田	なし	
2	・・・・・	横手市雄物川町大沢字大沢	・・	水田、荒蕪地	なし	

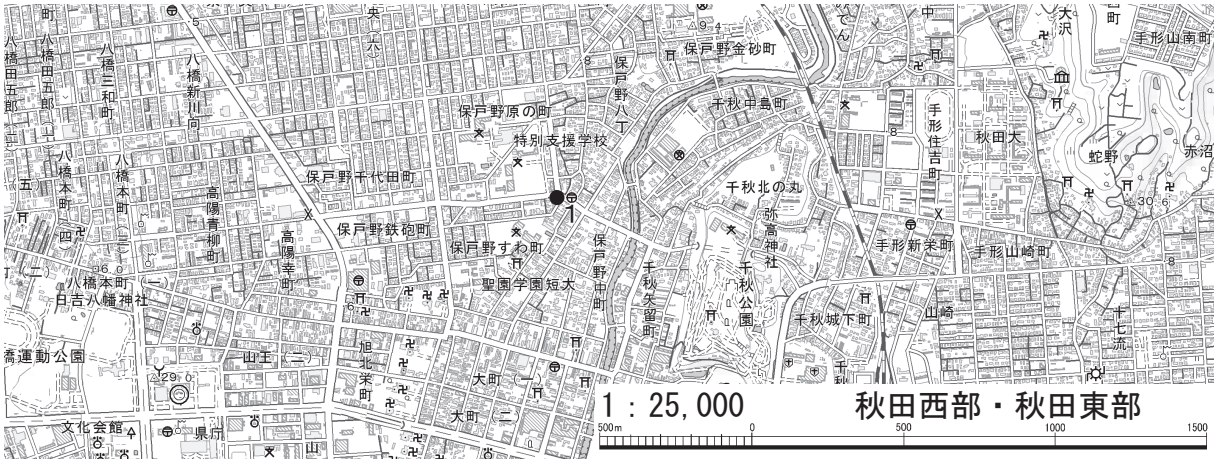


第23図　地方道路交付金事業（改築）国道107号（大沢工区）　遺跡分布調査位置図

(15) 地方街路整備工事一般県道土崎港秋田線（３・４・29秋田環状線）

事業予定地の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、今回の対象地については埋蔵文化財対応は生じないと判断した。本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	秋田市保戸野すわ町	・・	旧宅地	なし	

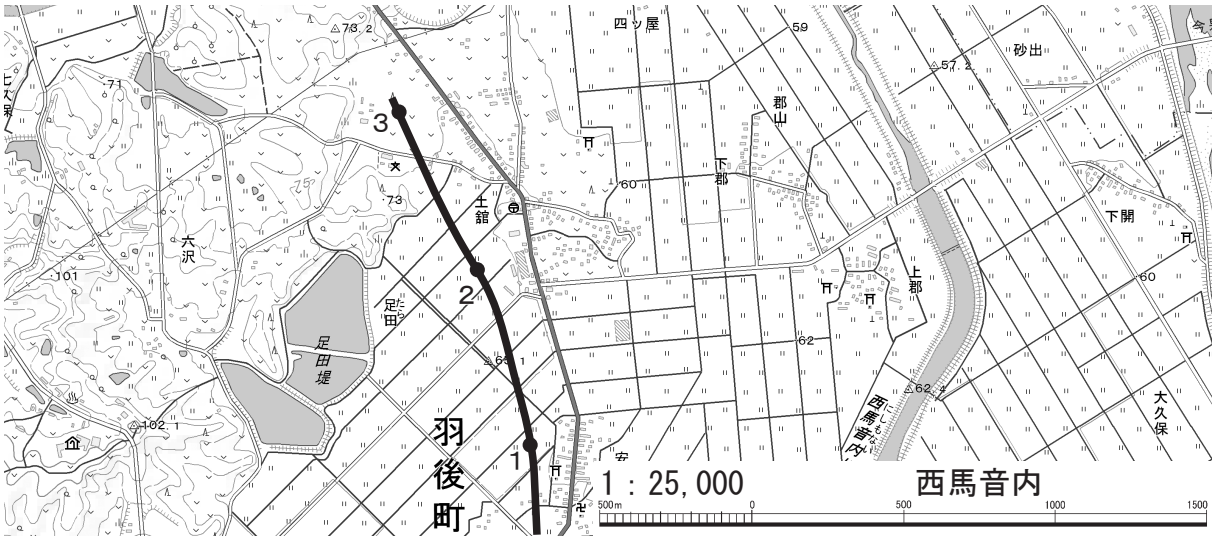


第24図　地方街路整備工事一般県道土崎港秋田線（３・４・29秋田環状線）　遺跡分布調査位置図

(16) 地方道路交付金工事（改築）主要地方道大曲大森羽後線（安良町工区）

事業予定地のうち、中心杭No. ９～16、20～33、58～63、69～74、81～84間の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、今回の対象地については埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	羽後町西新成	・・	水田	なし	
2	・・・・・	羽後町足田字古堤上	・・	水田	なし	
3	・・・・・	羽後町足田字大谷地	・・	水田	なし	

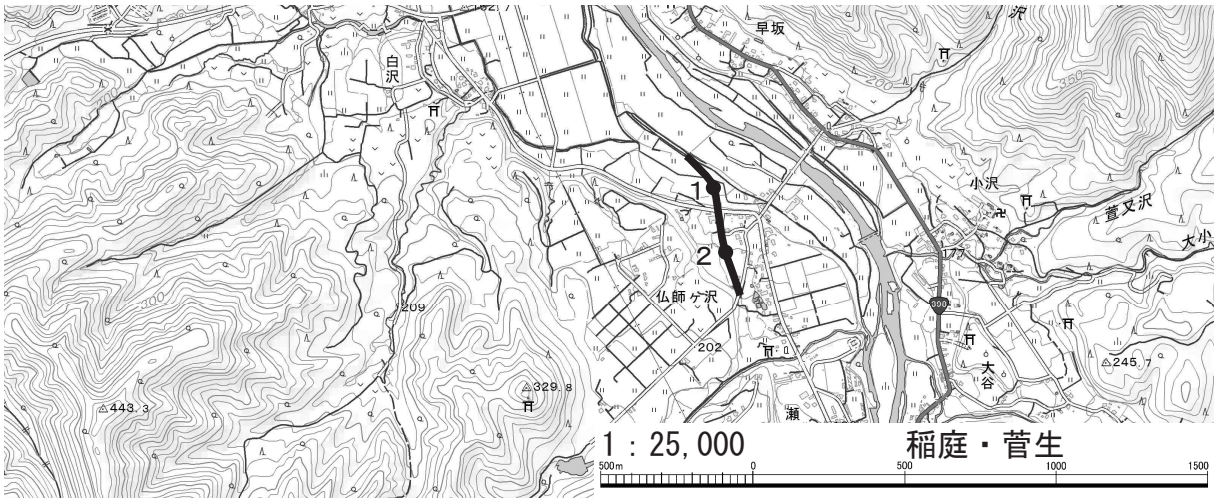


第25図　地方道路交付金工事（改築）主要地方道大曲大森羽後線（安良町工区）　遺跡分布調査位置図

(17) 地方道路交付金工事（改築）国道398号（稲庭バイパス）

事業予定地のうち道路中心杭No.１～６、63～73間の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、今回の対象地については埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	湯沢市皆瀬字沼田	・・	水田	なし	
2	・・・・・	湯沢市皆瀬字仏師ヶ沢	・・	水田	なし	

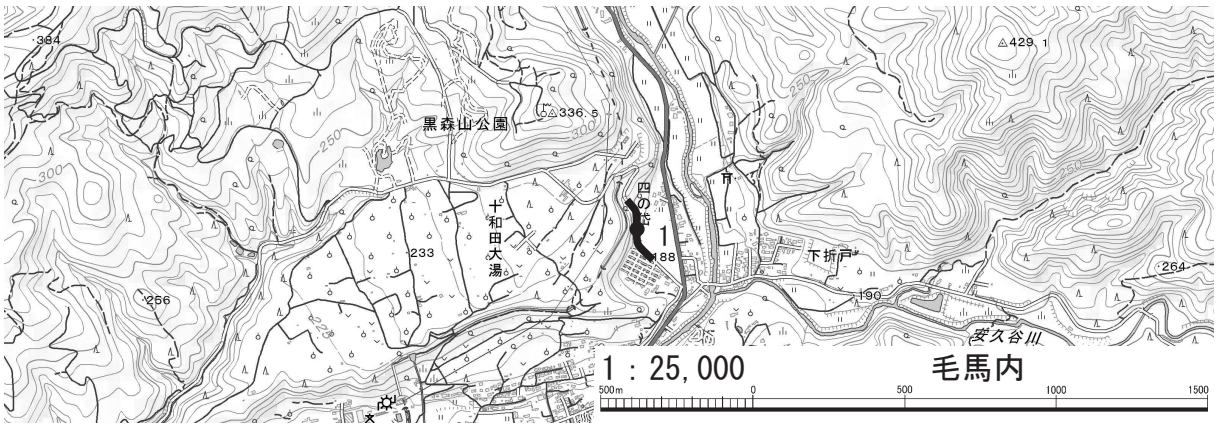


第26図　地方道路交付金工事（改築）国道398号（稲庭バイパス）　遺跡分布調査位置図

(18) 地方道路交付金工事（交通安全）一般国道103号（五ノ岱工区）

事業予定地のうち、中心杭No.31～38間の範囲の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、今回の対象地については埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	鹿角市十和田大湯五ノ岱	・・	畑、荒蕪地	なし	

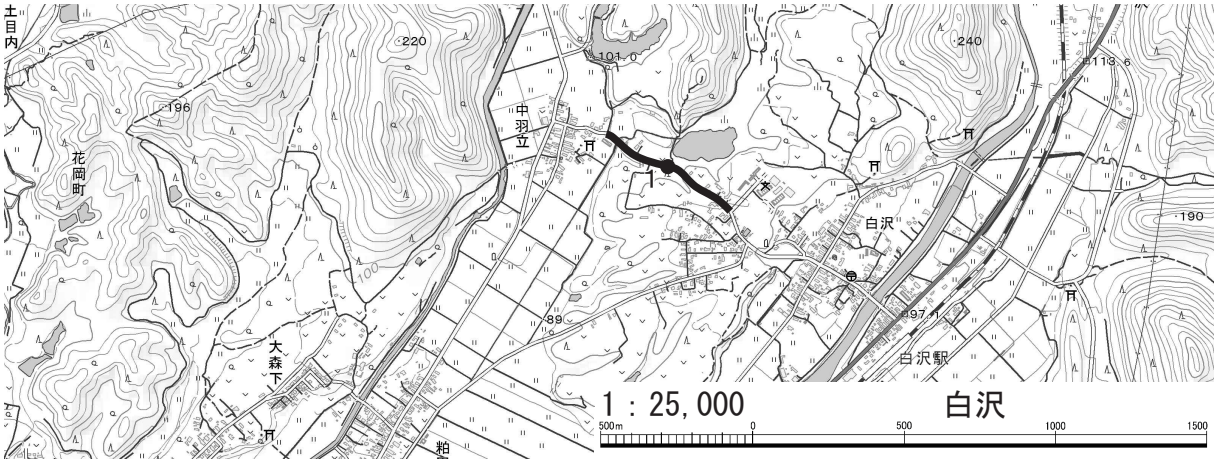


第27図　地方道路交付金工事（交通安全）一般国道103号（五ノ岱工区）　遺跡分布調査位置図

(19)県単道路補修工事(交通安全)主要地方道白沢田代線(白沢工区)

事業予定地の試掘調査を実施した。周知の遺跡の範囲内であるが、調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、工事立会対応と判断した。本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	大館野遺跡	大館市白沢字白沢	縄文 平安	山林	なし	周知の遺跡

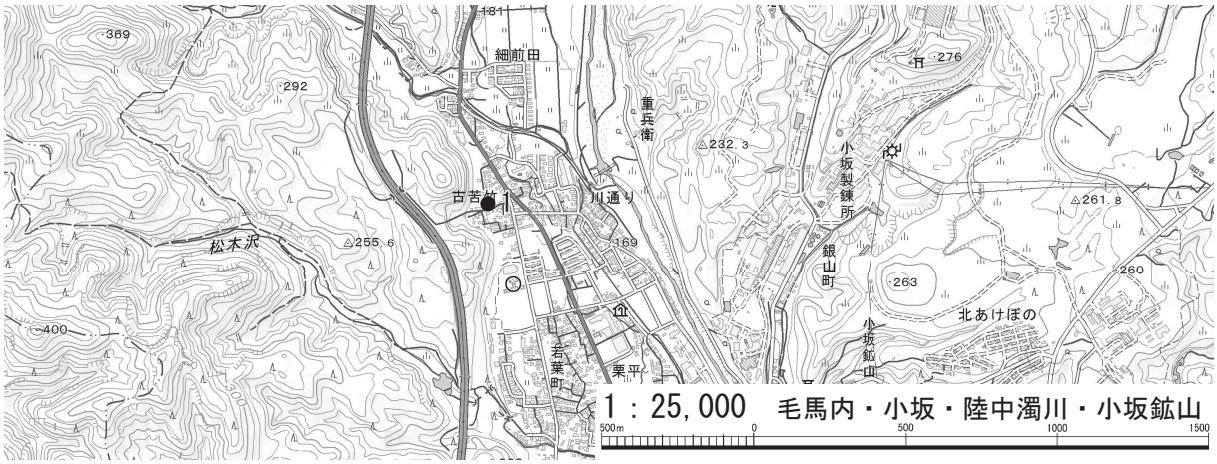


第28図　県単道路補修工事(交通安全)主要地方道白沢田代線(白沢工区)　遺跡分布調査位置図

(20)県単道路改築工事　一般国道　国道282号(横道工区)

事業予定地のうち、中心杭No.１～７間の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、今回の対象地については埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	小坂町小坂字横道	・・	荒蕪地	なし	

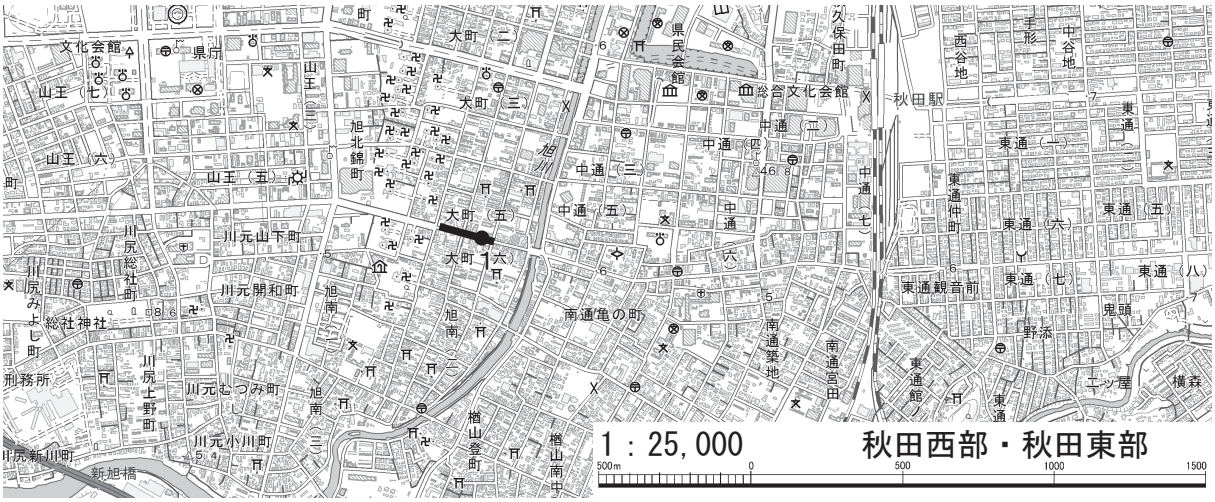


第29図　地方道路交付金工事　一般国道　国道282号(横道工区)　遺跡分布調査位置図

(21)地方街路整備工事(都)川尻広面線(横町工区)

事業予定地のうち、No.17～27間(北側)の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、今回の対象地については埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	秋田市大町五丁目	・・	旧宅地	なし	

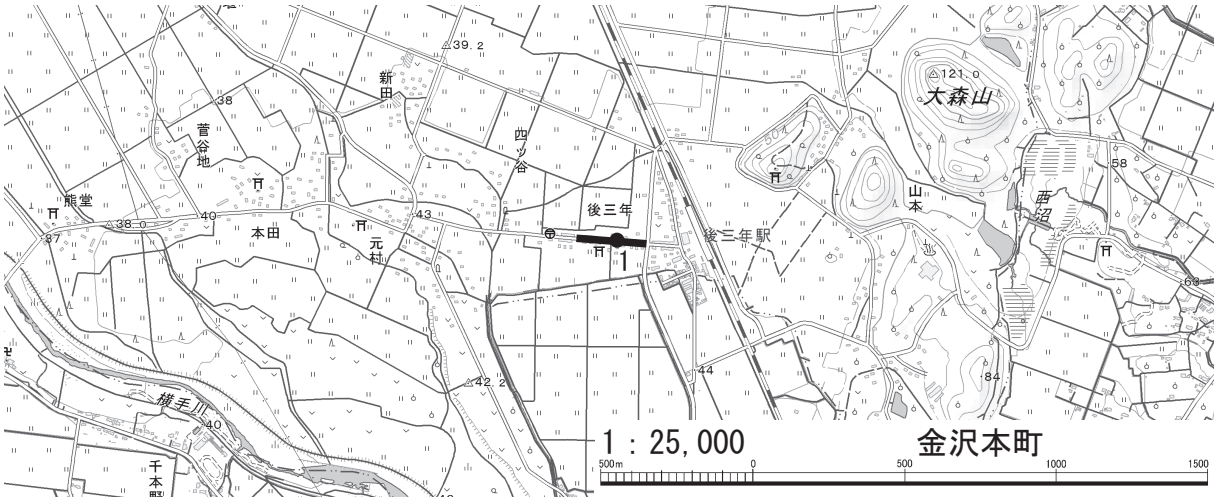


第30図　地方街路整備工事(都)川尻広面線(横町工区)　遺跡分布調査位置図

(22)県単道路改築工事　一般県道　耳取後三年停車場線(後三年工区)

事業予定地のうち、中心杭No.０～12間の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、今回の対象地については埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	美郷町金沢西根	・・	荒蕪地、水田	なし	

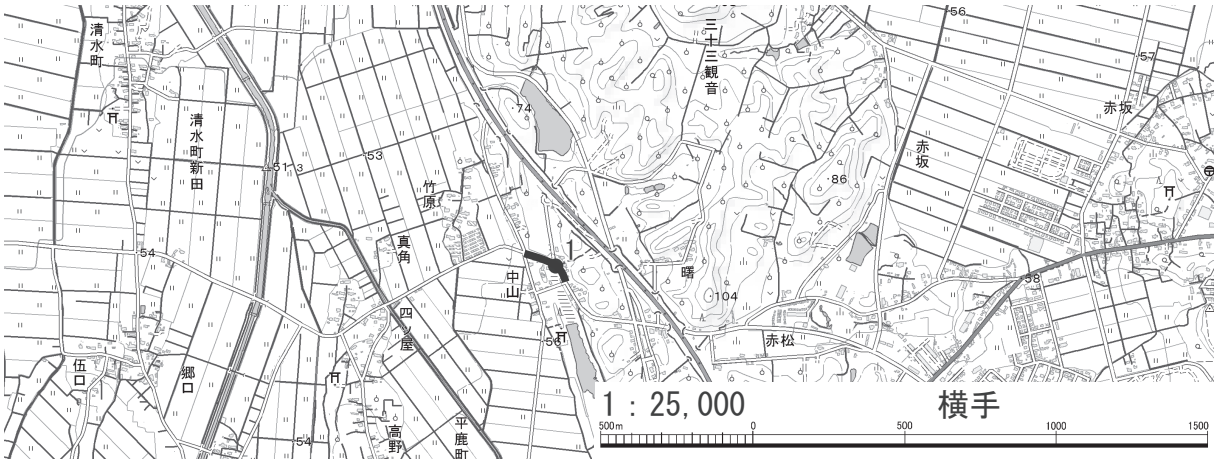


第31図　県単道路改築工事　一般県道　耳取後三年停車場線(後三年工区)　遺跡分布調査位置図

(23) 地方道路交付金事業（交通安全）（主）横手東由利線（中山工区）

事業予定地のうち、中心杭No.６～10、13～17間の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、今回の対象地については埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	横手市平鹿町上吉田	・・	旧宅地	なし	

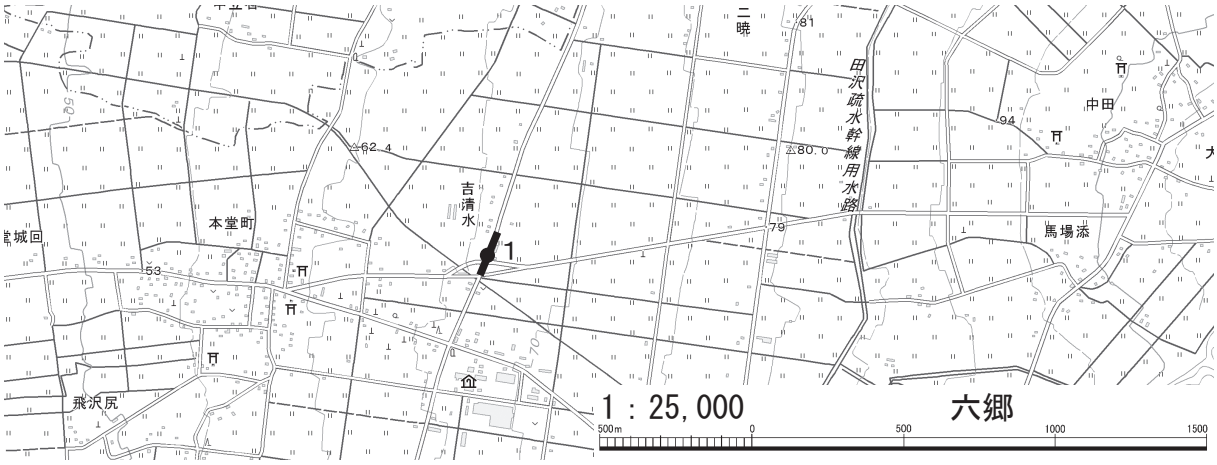


第32図　地方道路交付金事業（交通安全）（主）横手東由利線（中山工区）　遺跡分布調査位置図

(24) 地方道路交付金工事主要地方道角館六郷線（千屋第一工区）

事業予定地のうち中心杭No.42～51、63～66間の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、今回の対象地については埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	美郷町本堂城回	・・	水田	なし	

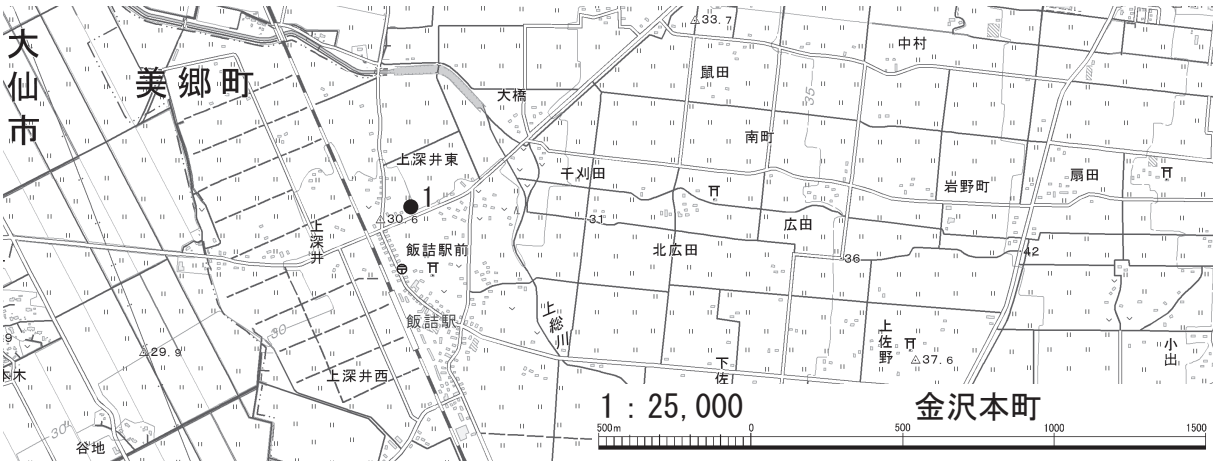


第33図　地方道路交付金工事主要地方道角館六郷線（千屋第一工区）　遺跡分布調査位置図

(25)県単道路改築工事　一般県道　川西六郷線(上深井工区)

事業予定地のうち、中心杭No.21～26、30～31間の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	美郷町上深井	・・	水田	なし	

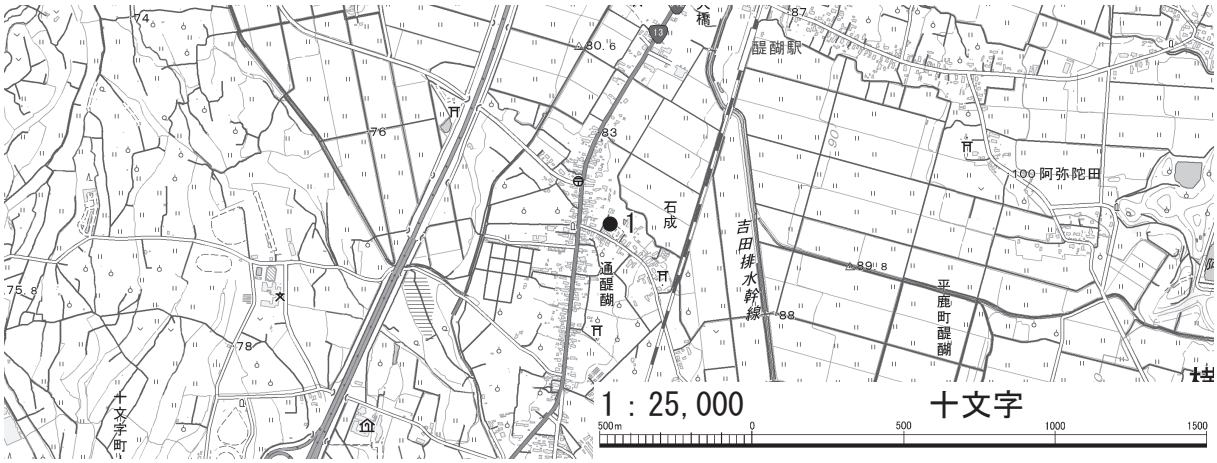


第34図　県単道路改築工事　一般県道　川西六郷線(上深井工区)　遺跡分布調査位置図

(26)地方道路交付金事業(交通安全)(一)川連増田平鹿線(石成工区)

事業予定地のうち、中心杭No.１～10間の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、今回の対象地については埋蔵文化財対応は生じないと判断した。事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	横手市平鹿町石成	・・	旧宅地	なし	

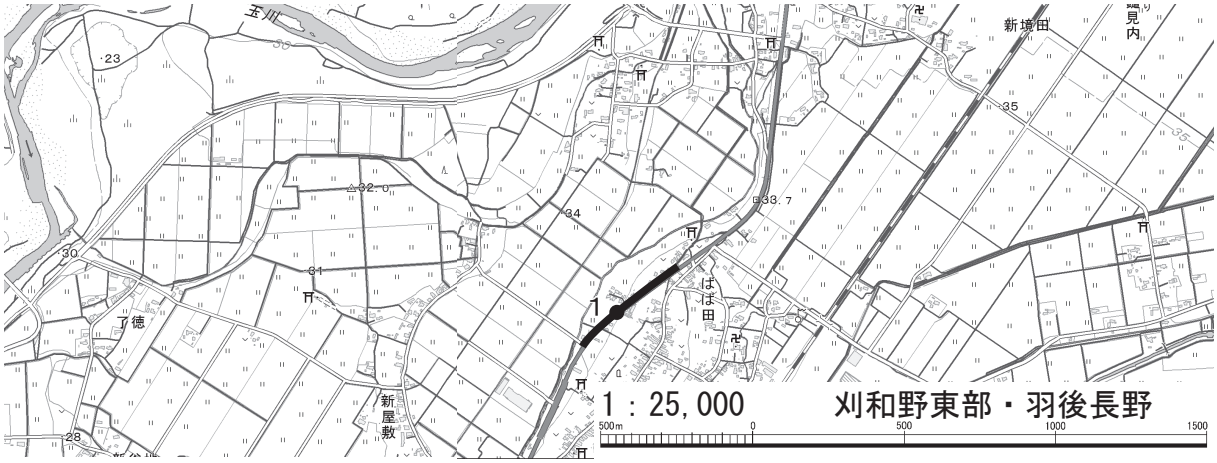


第35図　地方道路交付金事業(交通安全)(一)川連増田平鹿線(石成工区)　遺跡分布調査位置図

(27) 地方道路交付金工事一般国道105号（ばば田工区）

事業予定地の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、今回の対象地については埋蔵文化財対応は生じないと判断した。本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	大仙市四ツ屋字ばば田	・・	水田	なし	

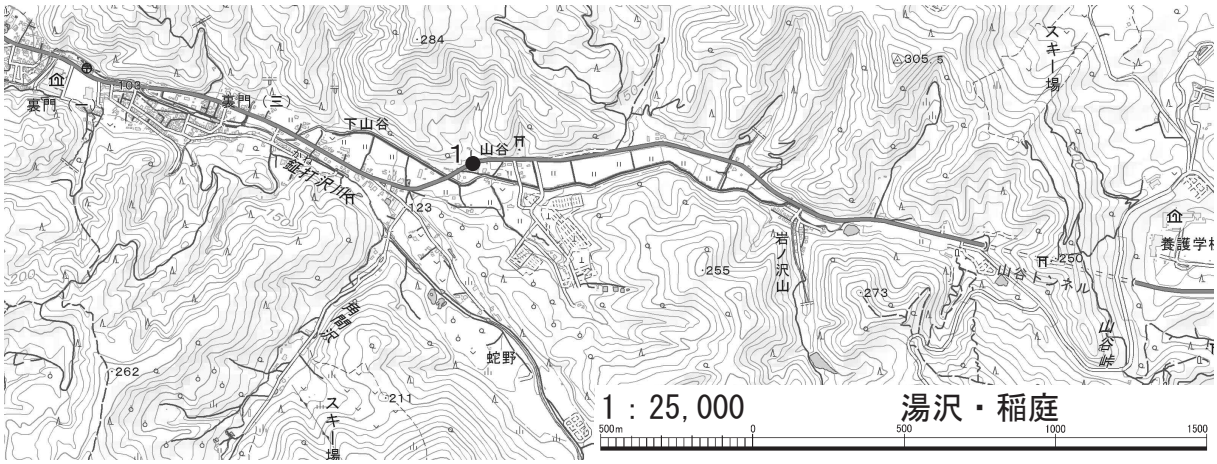


第36図　地方道路交付金工事一般国道105号（ばば田工区）　遺跡分布調査位置図

(28) 地方道路等整備事業国道398号（下山谷工区）

事業予定地のうち、中心杭No. ６～８間の踏査を実施した。調査の結果、旧地形は斜面と沢と推定され、用地幅が狭いため試掘調査は不要と判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	湯沢市字下山谷	・・	水路、道路	なし	

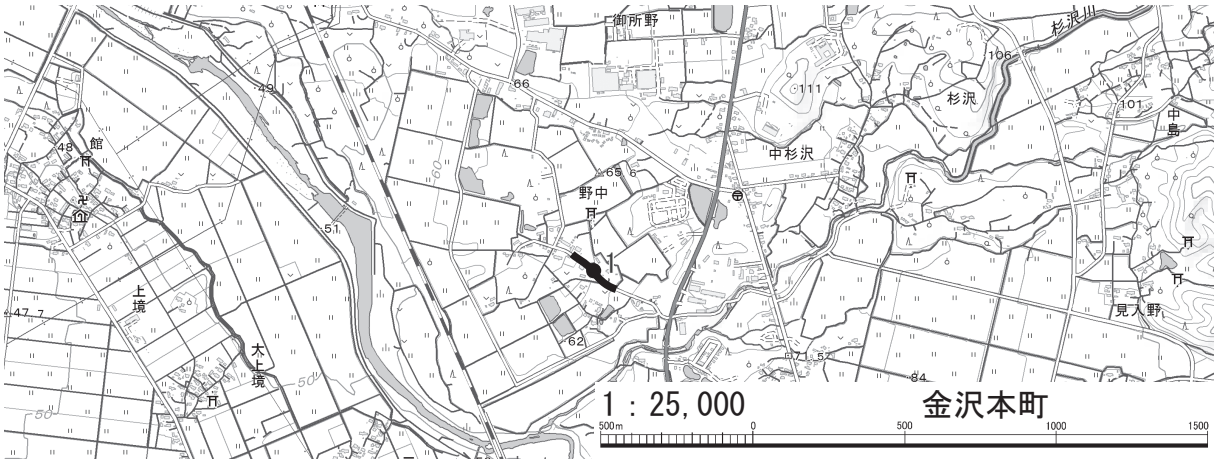


第37図　地方道路等整備事業国道398号（下山谷工区）　遺跡分布調査位置図

(29)地方道路交付金事業(交通安全)県道　大曲横手線(杉目工区)

事業予定地のうち、中心杭No.８～18間の試掘調査を実施した。周知の遺跡の範囲内であるが、調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、工事立会対応と判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	条里制跡	横手市杉目	・・	水田	なし	周知の遺跡

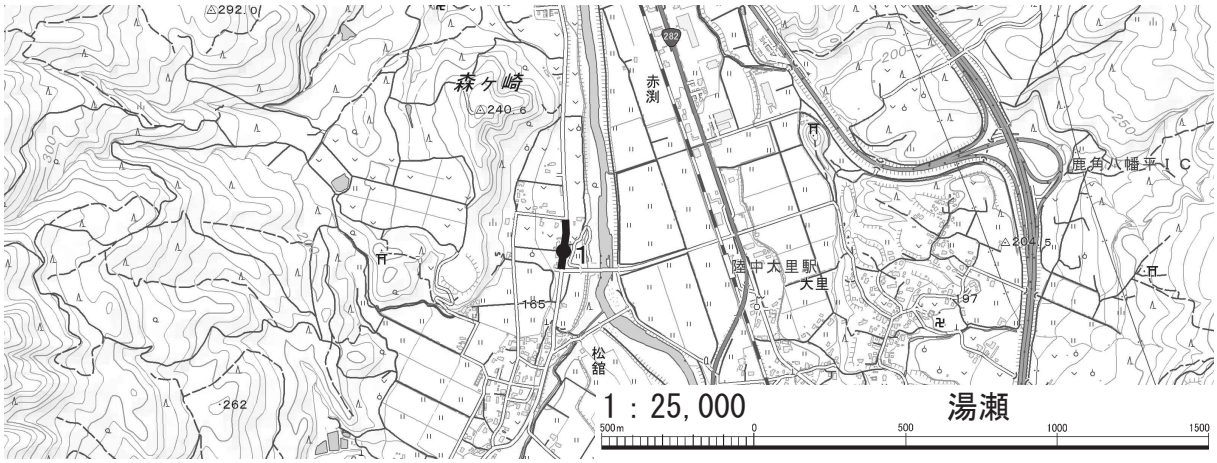


第38図　地方道路交付金事業(交通安全)県道　大曲横手線(杉目工区)　遺跡分布調査位置図

(30)地方道路交付金工事(交通安全)一般県道根瀬尾去沢線(松館工区)

事業予定地のうち、No.57～63間の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、今回の対象地については埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・	鹿角市八幡平字松館下モ平	・・	山林	なし	

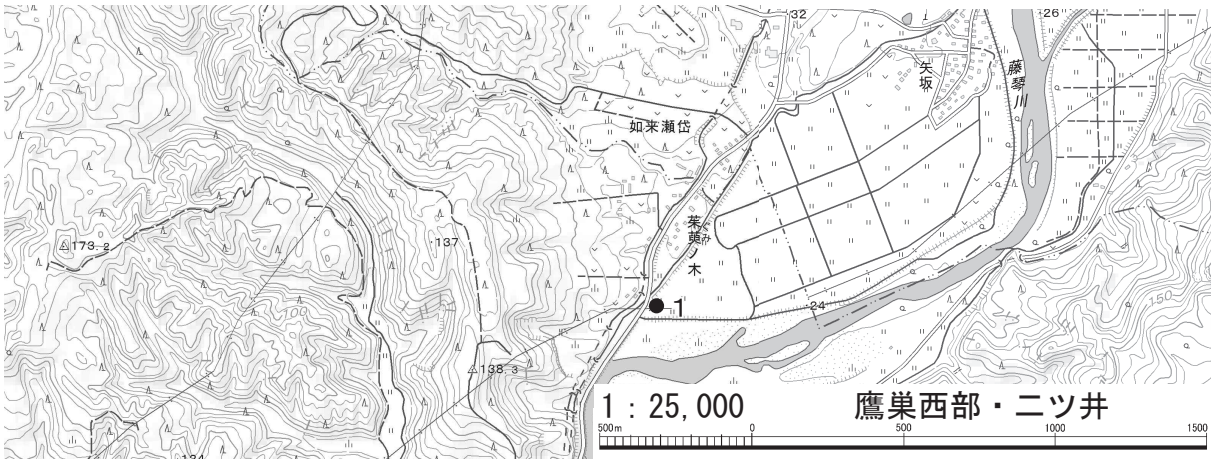


第39図　地方道路交付金工事(交通安全)一般県道根瀬尾去沢線(松館工区)　遺跡分布調査位置図

(31) 地方道路交付金工事（改築）一般県道西目屋二ツ井線（荷上場バイパス）

事業予定地のうち、道路中心杭No.49～51間の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、今回の対象地については埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	能代市二ツ井町荷上場	・・	水田	なし	

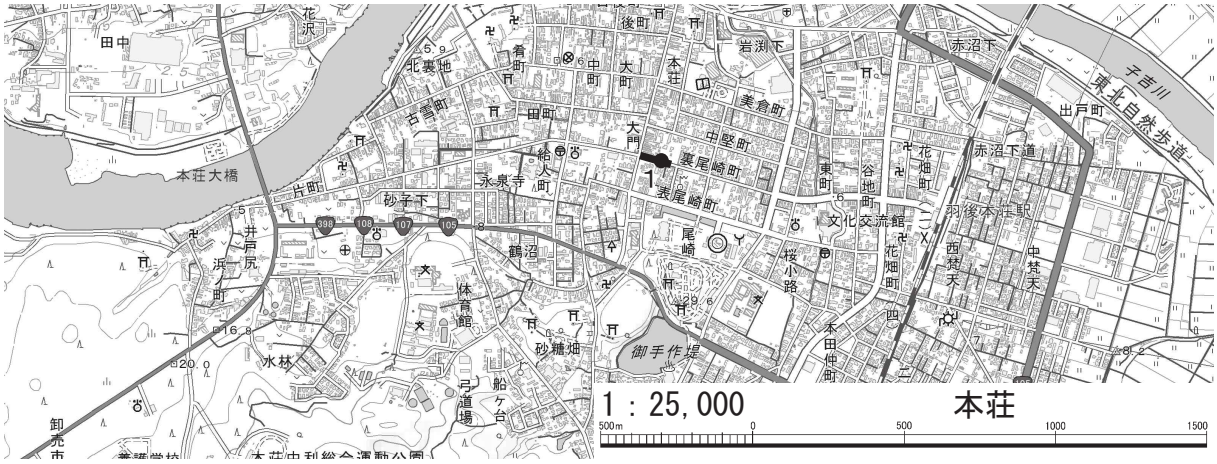


第40図 地方道路交付金工事（改築）一般県道西目屋二ツ井線（荷上場バイパス） 遺跡分布調査位置図

(32) 地方街路交付金事業都市計画道路停車場栄町線（裏尾崎町工区）

事業予定地のうち、No.15～18間（南側工区）について試掘調査を実施した。周知の遺跡の範囲内であるが、調査の結果、遺構・遺物とも確認できなかった。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	代官小路遺跡	由利本荘市裏尾崎町	近世	旧店舗	なし	周知の遺跡

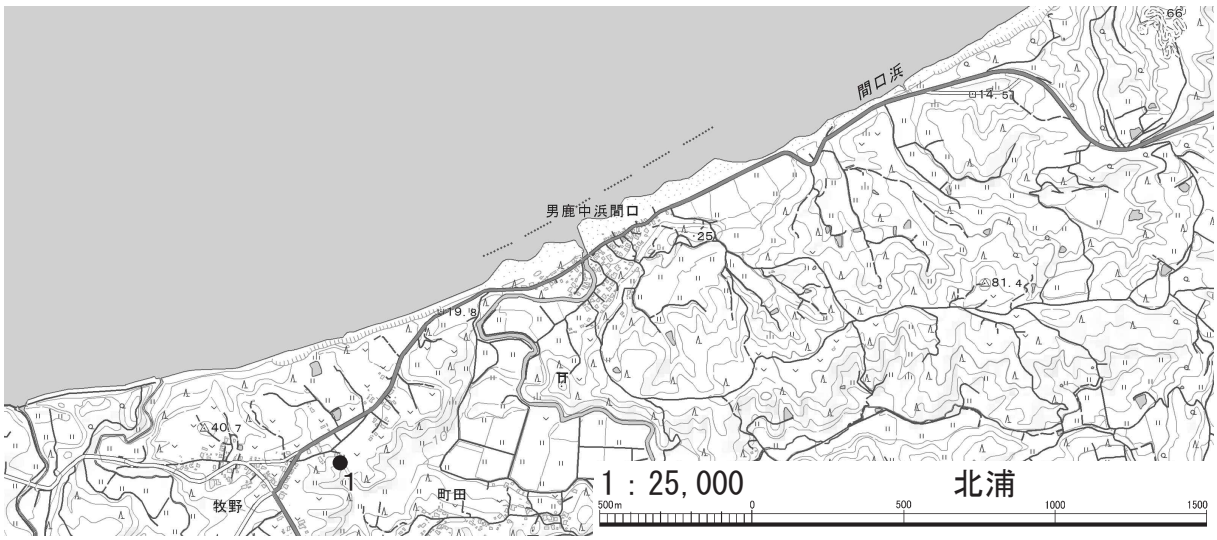


第41図　地方街路交付金事業都市計画道路停車場栄町線（裏尾崎町工区）　遺跡分布調査位置図

(33) 地方道路交付金工事一般国道101号（浜間口工区）

事業予定地のうち、本線No. 106～107間の試掘調査を実施した。周知の遺跡の範囲内であるが、調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、今回の対象地については確認調査は不要と判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	地蔵台遺跡	男鹿市男鹿中浜間口	・・	水田	なし	周知の遺跡

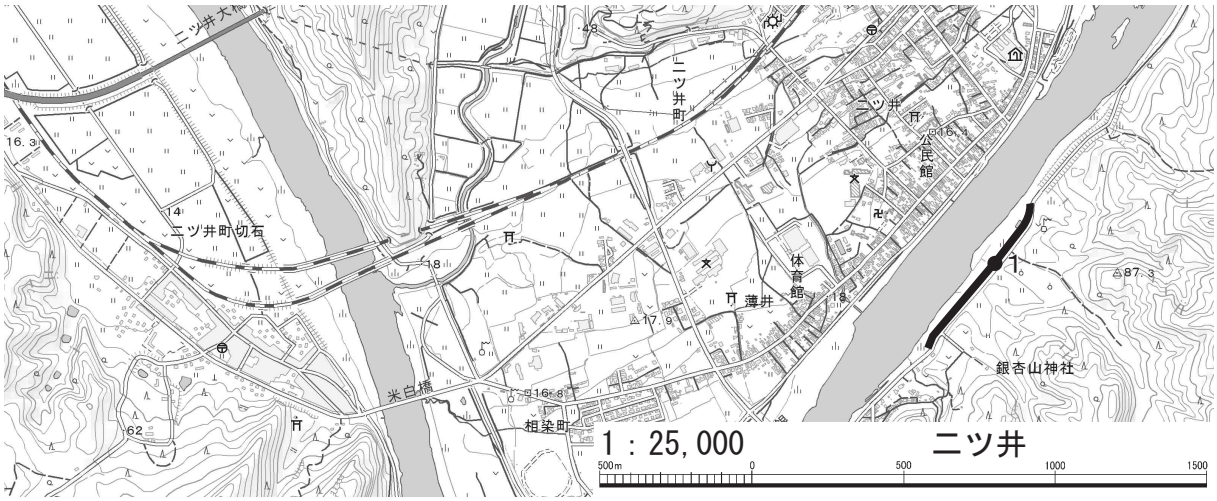


第42図　地方道路交付金工事一般国道101号（浜間口工区）　遺跡分布調査位置図

(34) 二ツ井地区河道掘削

事業予定地内の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	能代市二ツ井町仁鮒	・・	荒蕪地	なし	

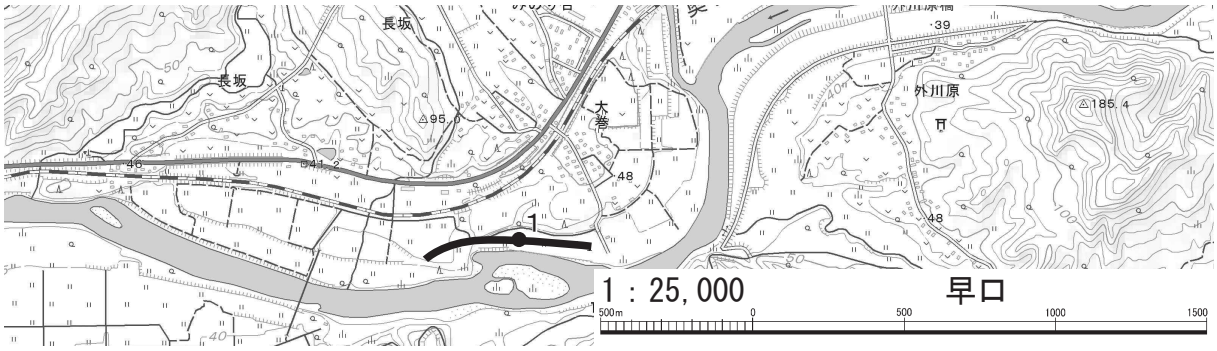


第43図　二ツ井地区河道掘削　遺跡分布調査位置図

(35)鷹巣地区河道掘削

事業地中央部の工事用道路予定地について試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、今回の対象地については埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	大館市長坂	・・	水田	なし	

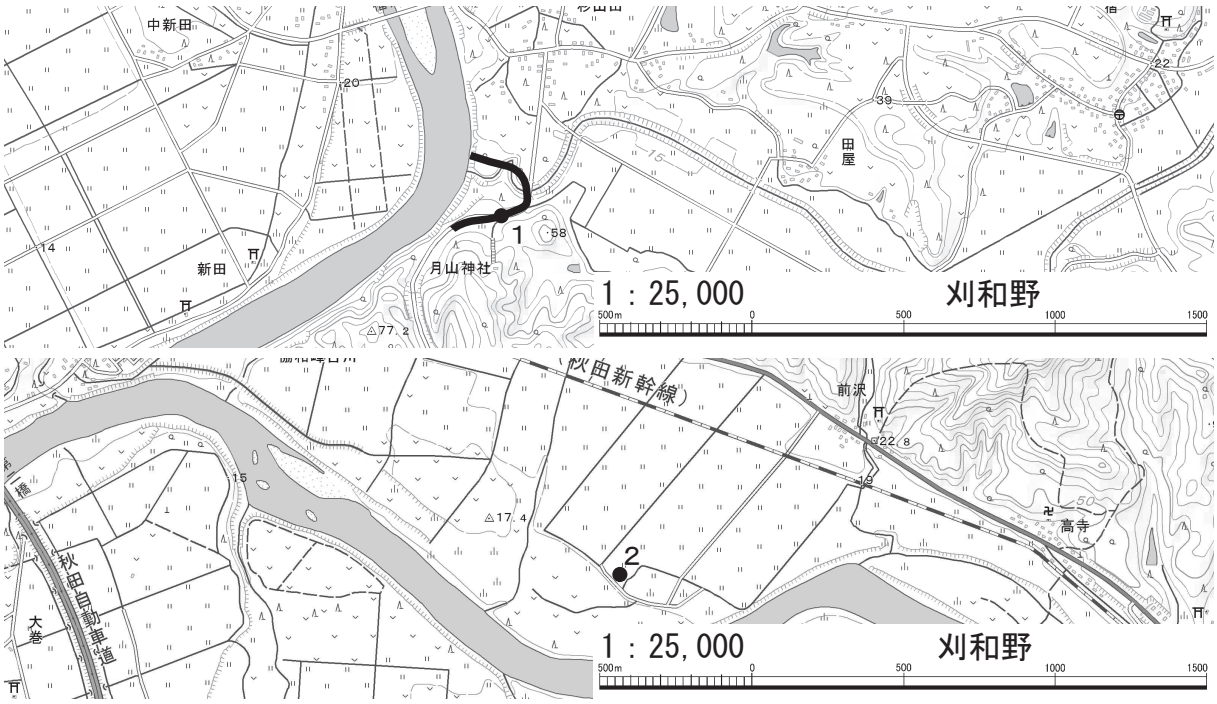


第44図　鷹巣地区河道掘削　遺跡分布調査位置図

(36)雄物川河川激甚災害対策特別緊急事業

事業予定地の一部について試掘調査を実施した。調査の結果、周知の遺跡１か所が事業に係ることを確認した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	大仙市杉山田	・・	山林	なし	
2	峰吉川中村遺跡	大仙市協和峰吉川字中村	古代 中世他	墓地跡、水田	カマド状遺構、 井戸跡、土師器	周知の遺跡

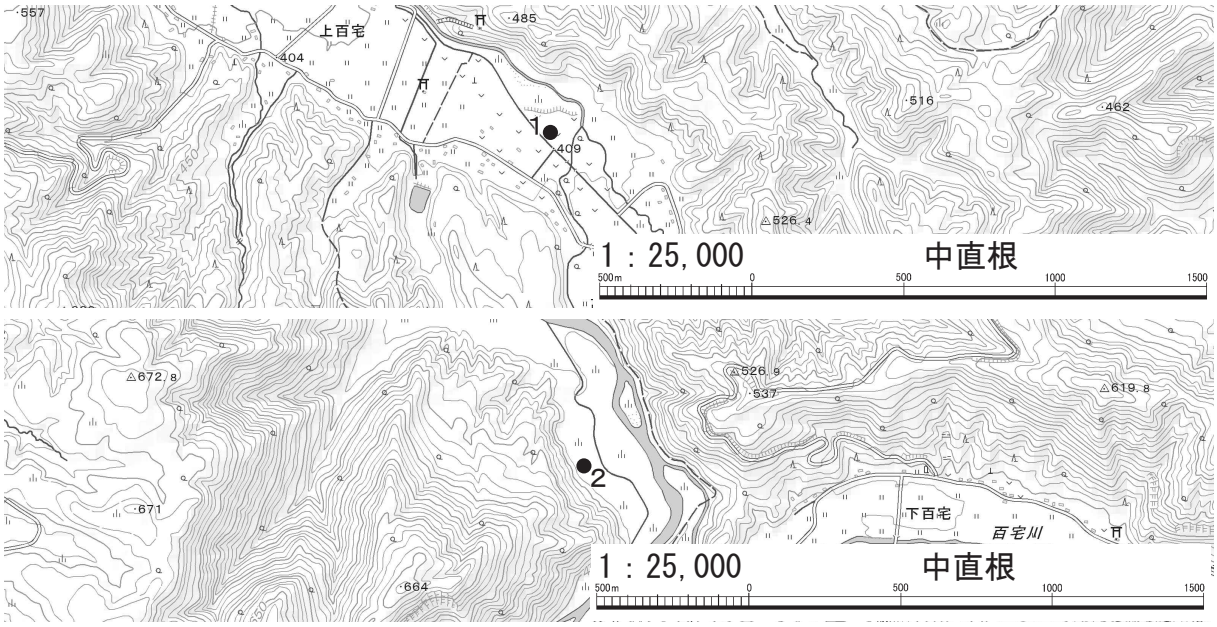


第45図　雄物川河川激甚災害対策特別緊急事業　遺跡分布調査位置図

(37) 鳥海ダム建設事業

事業予定地の一部について試掘調査、踏査を実施した。調査の結果、周知の遺跡１か所が事業に係ることを確認した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	高野台遺跡	由利本荘市鳥海町百宅	古代	畑、原野、山林	柱穴様ピット 須恵器、土師器	周知の遺跡
2	・・・・・	由利本荘市鳥海町百宅	・・	山林、河川敷	なし	

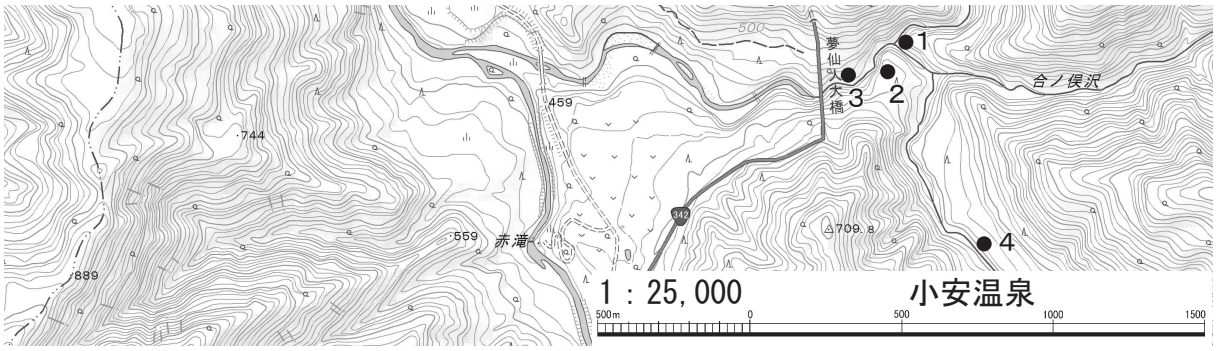


第46図　鳥海ダム建設事業　遺跡分布調査位置図

(38) 成瀬ダム建設事業

事業予定地のうち、北ノ俣沢、木賊沢の両岸について試掘調査を実施した。調査の結果、新発見の遺跡２か所が事業に係ることを確認した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	東成瀬村椿川北ノ又沢国有林	・・	山林	なし	
2	北ノ又沢Ⅱ遺跡	東成瀬村椿川北ノ又沢国有林	縄文	山林	石器	新発見の遺跡
3	北ノ又沢Ⅲ遺跡	東成瀬村椿川北ノ又沢国有林	縄文	山林	石器	新発見の遺跡
4	・・・・・	東成瀬村椿川北ノ又沢国有林	・・	山林	なし	

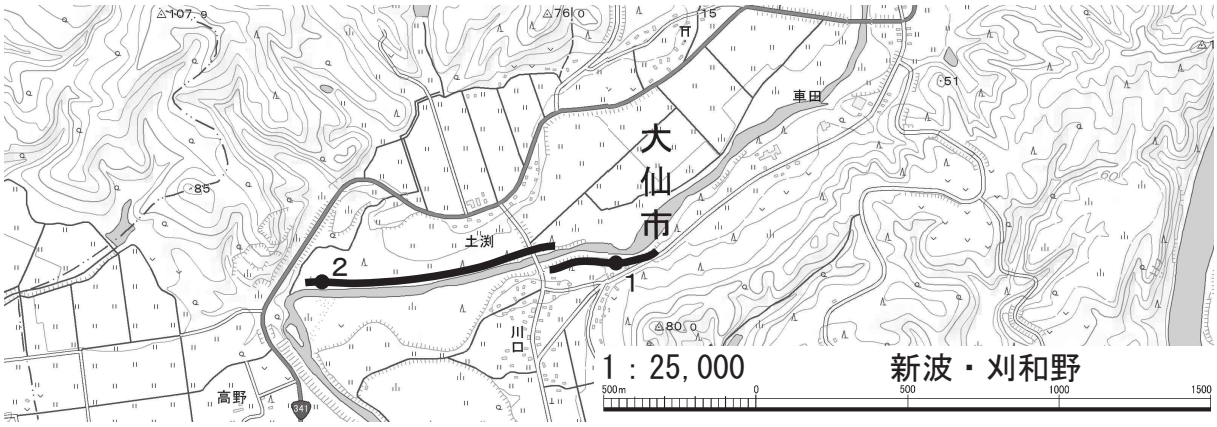


第47図　成瀬ダム建設事業　遺跡分布調査位置図

(39) 広域河川改修工事一級河川淀川

事業予定地のうち、No. １～11、27～37間の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、今回の対象地については埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	大仙市協和下淀川逢田	・・	荒蕪地	なし	
2	・・・・・	大仙市協和小種	・・	水田、山林	なし	

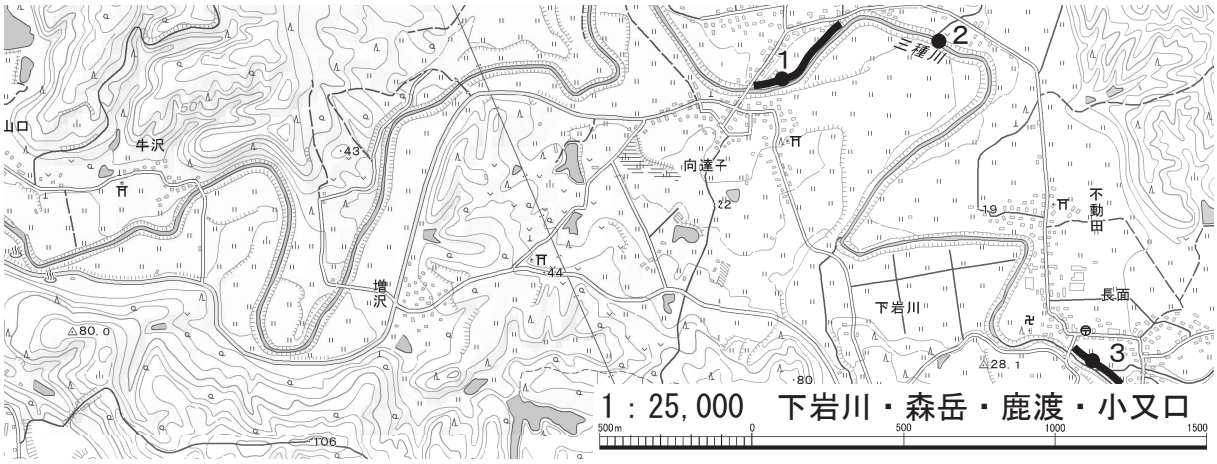


第48図　広域河川改修工事一級河川淀川　遺跡分布調査位置図

(40) 河川改修工事　三種川

事業予定地のうち、７工区達子上流No. 107～113間、９工区館ノ下No. 118＋25. 80～120間、11工区長面No. 162～170間の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、今回の対象地については埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	三種町下岩川達子	・・	水田	なし	
2	・・・・・	三種町下岩川館ノ下	・・	水田	なし	
3	・・・・・	三種町下岩川長面	・・	水田	なし	



第49図　河川改修工事　三種川　遺跡分布調査位置図

(41)通常砂防工事(上内町１)

事業予定地の一部について試掘調査を実施した。周知の愛宕山遺跡・朝草刈城跡の範囲内であるが、調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、今回の対象地について埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

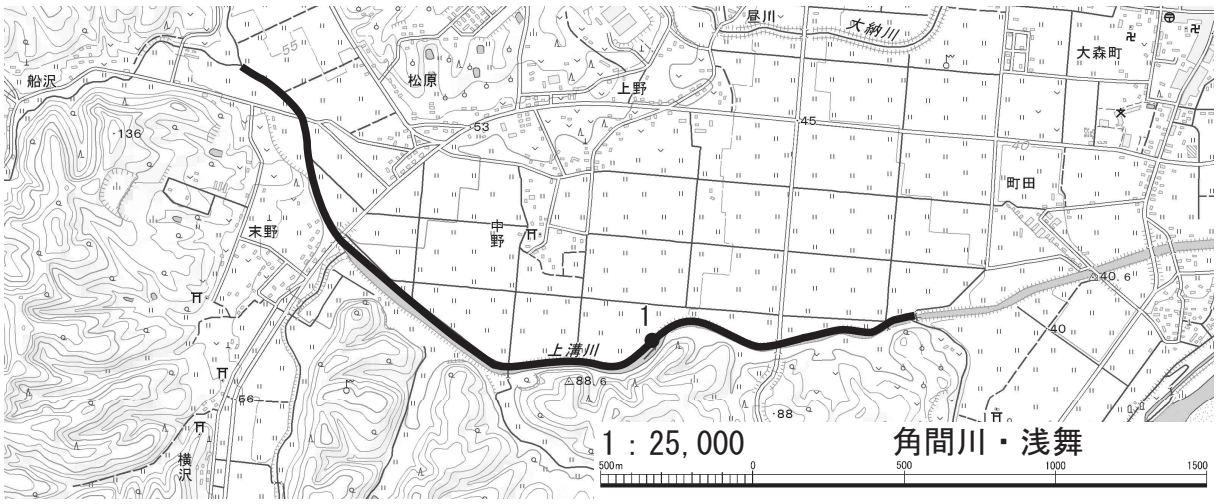
No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	愛宕山遺跡 朝草刈城跡	横手市睦成字城付	縄文、古代 中世	山林	なし	周知の遺跡

第50図　通常砂防工事(上内町１)　遺跡分布調査位置図

(42)河川災害復旧助成事業　一級河川　上溝川

事業予定地のうち、中心杭No.15～54間の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	横手市大森上溝	・・	水田	なし	

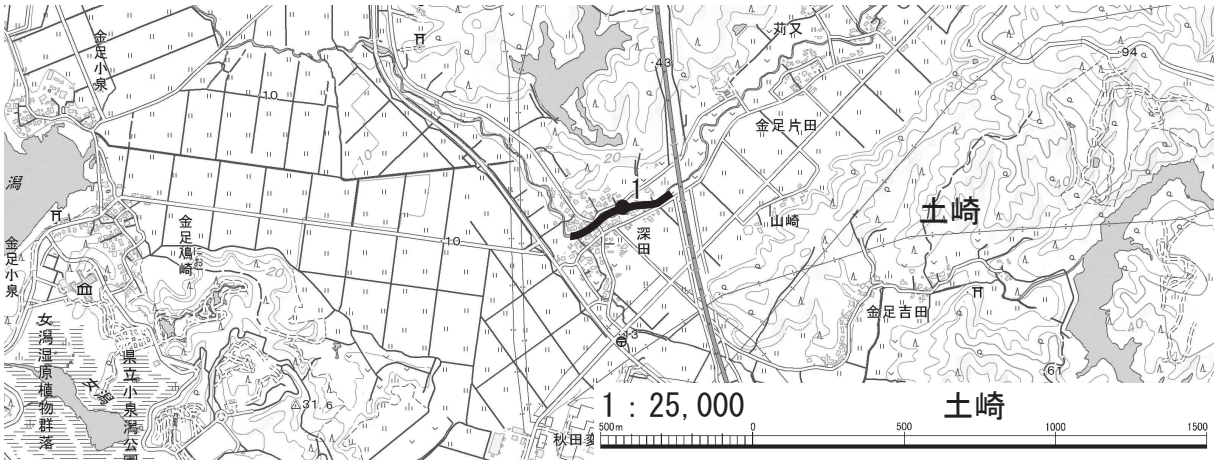


第51図　河川災害復旧助成事業　一級河川　上溝川　遺跡分布調査位置図

(43)災害対策等緊急工事　馬踏川

事業予定地のうち中心杭No.15～31間について試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	秋田市金足片田	・・	山林、旧宅地	なし	

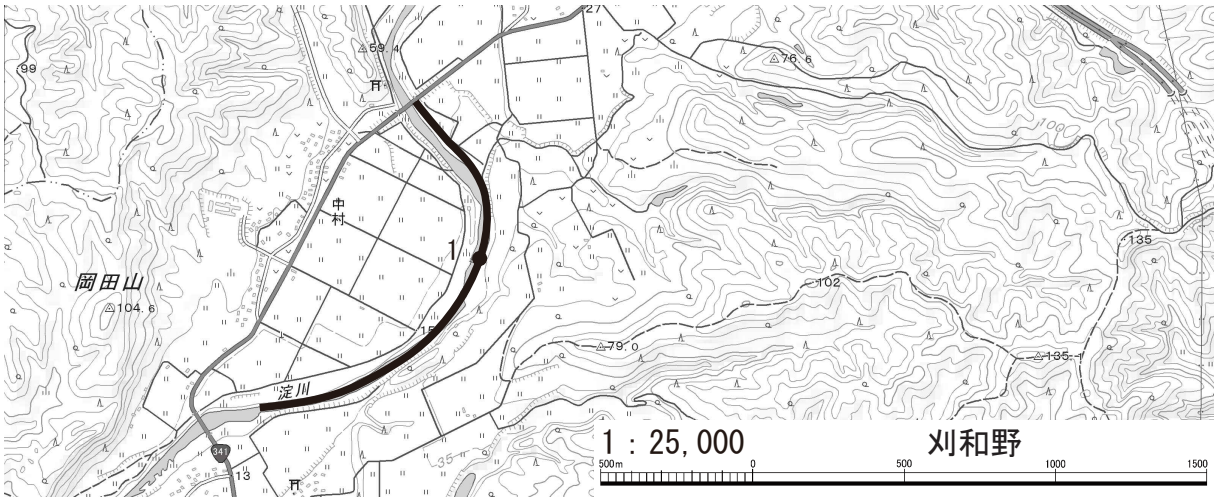


第52図　災害対策等緊急工事　馬踏川　遺跡分布調査位置図

(44)河川災害関連事業　一級河川　淀川

事業予定地のうち、中心杭No.92～109間の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	大仙市協和下淀川	・・	水田	なし	

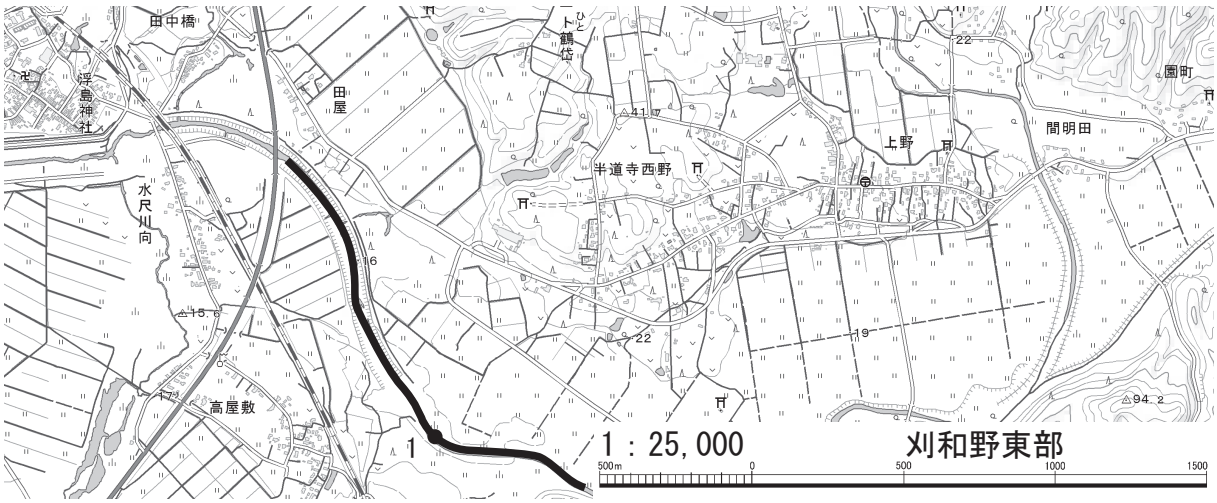


第53図　河川災害関連事業　一級河川　淀川　遺跡分布調査位置図

(45)河川災害関連事業　一級河川　土買川

事業予定地のうち、中心杭No.49～60間の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	大仙市刈和野字水尺川向大道東	・・	山林、水田	なし	

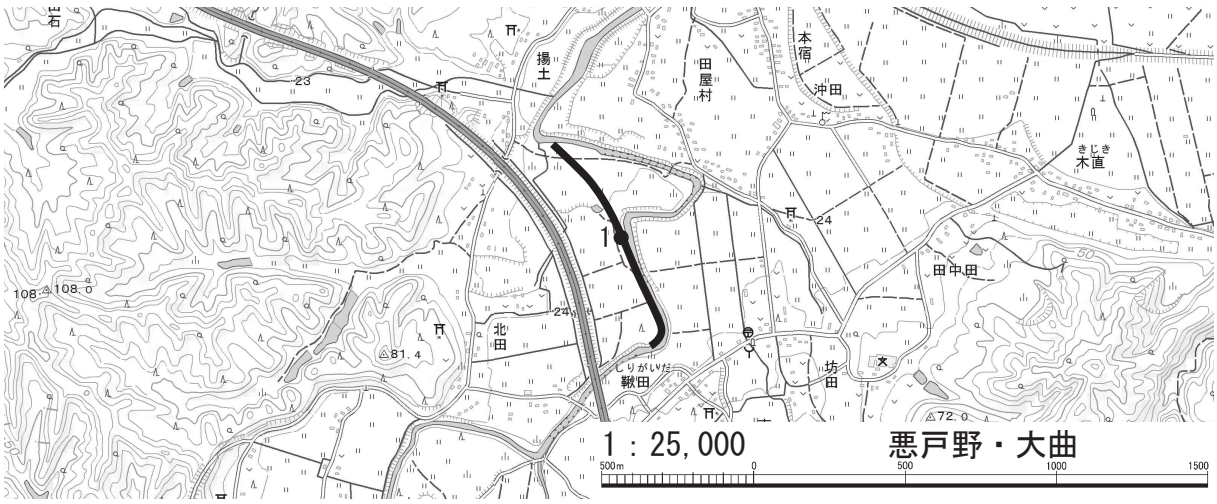


第54図　河川災害関連事業　一級河川　土買川　遺跡分布調査位置図

(46)河川災害復旧助成事業　一級河川　楢岡川

事業予定地の下流部について中心杭No.20～34間の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、今回の対象地については埋蔵文化財対応は生じないと判断した。今後、上流部について事業の進捗に合わせた対応が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	大仙市南外字十二袋	・・	水田	なし	



第55図　河川災害復旧助成事業　一級河川　楢岡川　遺跡分布調査位置図

(47) 横手西部農業水利事業

事業予定地の一部について踏査を実施した。調査の結果、周知の遺跡１か所が事業に係ることを確認した。今後、事業の進捗に合わせた対応が必要である。

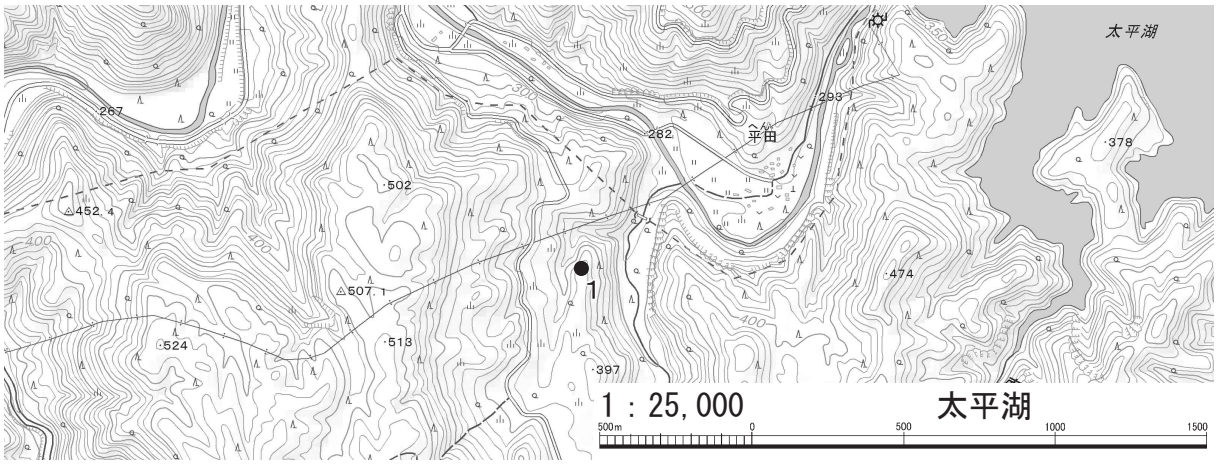
No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	横手市大雄東桜森～上桜森	・・	水路	なし	
2	柏木遺跡	横手市大雄字柏木	縄文 平安	水路	なし	周知の遺跡
3	・・・・・	横手市雄物川町会塚	・・	水路	なし	
4	・・・・・	横手市雄物川町沼館	・・	水路	なし	
5	・・・・・	横手市雄物川町南形	・・	水路	なし	

第56図　横手西部農業水利事業　遺跡分布調査位置図

(48) 立木販売事業

事業予定地の試掘調査を実施した。周知の遺跡の範囲内であるが、調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、今回の対象地については確認調査は不要と判断した。今後、事業の進捗に合わせ文化財保護法第93条の手続きが必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	大印Ａ遺跡	北秋田市森吉町国有林	縄文	山林	なし	周知の遺跡

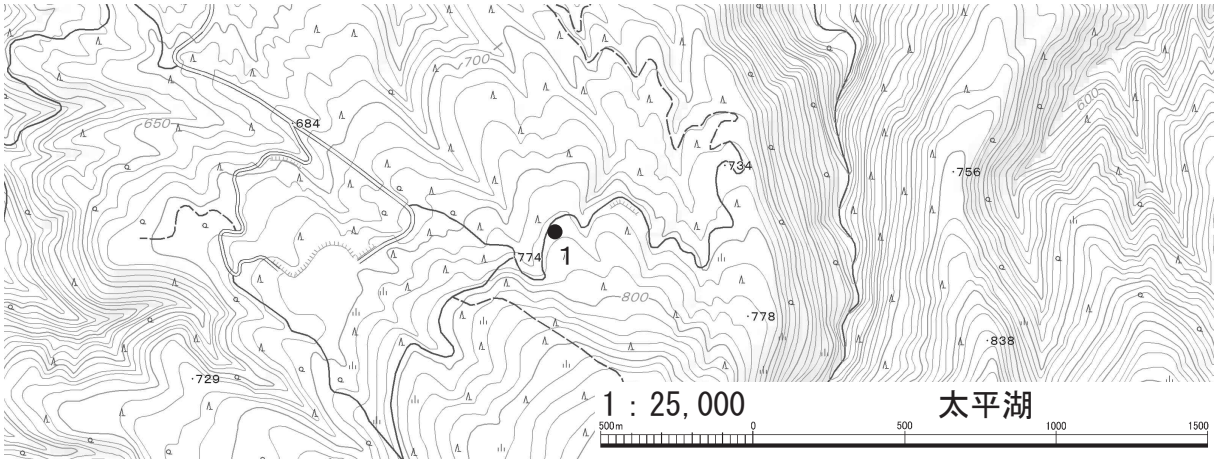


第57図　立木販売事業　遺跡分布調査位置図

(49) 製品生産請負事業

事業予定地の試掘調査を実施した。周知の遺跡の範囲内であるが、調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、今回の対象地については確認調査は不要と判断した。今後、事業の進捗に合わせ文化財保護法第94条の手続きが必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	小又川遺跡	北秋田市森吉町国有林	縄文	山林	なし	周知の遺跡

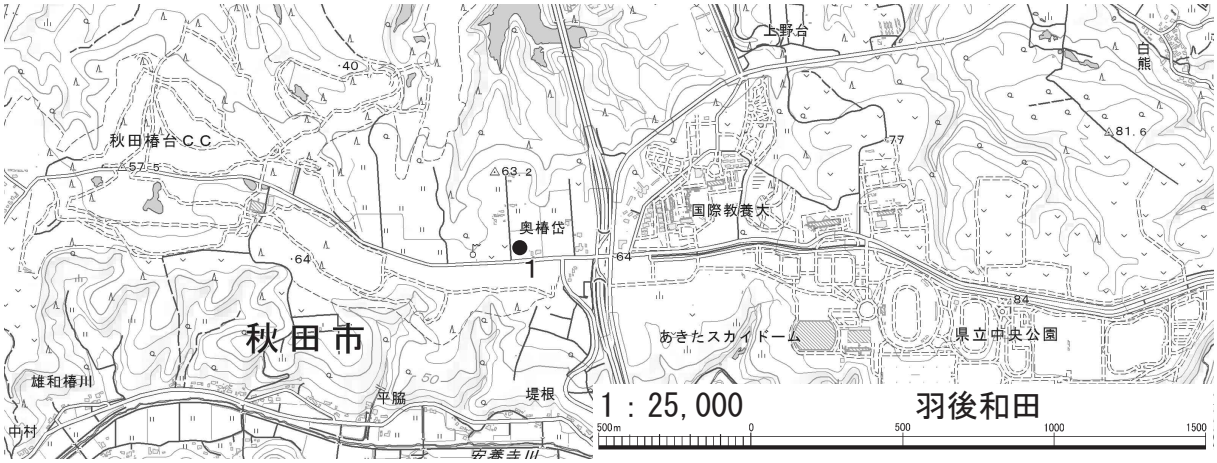


第58図　製品生産請負事業　遺跡分布調査位置図

(50) 公務員宿舎整備

事業予定地の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物ともに確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	秋田市雄和椿川字奥椿岱	・・	畑	なし	

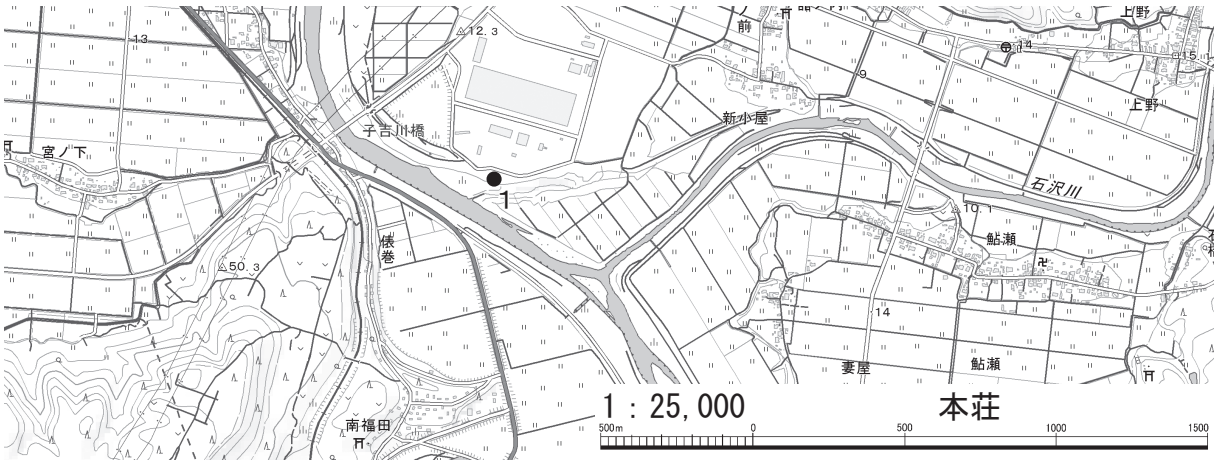


第59図　公務員宿舎整備　遺跡分布調査位置図

(51) 本荘工業団地地形路線測量業務

事業予定地の試掘調査を実施した。調査の結果、遺構・遺物とも確認できず、埋蔵文化財対応は生じないと判断した。本事業についての埋蔵文化財に係る対応は終了である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	遺構・遺物	備考
1	・・・・・	由利本荘市万願寺字小磯野	・・	荒蕪地	なし	



第60図　本荘工業団地地形路線測量業務　遺跡分布調査位置図

第２節　遺跡確認調査

１　県・市連携文化施設整備事業

久保田城跡（平成29年度調査分）

１　遺跡所在地　秋田県秋田市千秋明徳町204ほか

２　確認調査期間　平成30年２月５日～２月８日

３　確認調査対象面積　12,100㎡

４　工事区域内遺跡面積　12,100㎡

５　工事区域内要本発掘調査面積　12,100㎡

６　遺跡の立地と現況

ａ　立地

遺跡は、ＪＲ秋田駅の西0.5㎞に位置し、旭川左岸の千秋公園台地南端部の標高11ｍ前後の平場にある。久保田城跡は、佐竹氏が独立した台地と周辺の河川や低湿地を利用し築城（1603～1604年）した近世城郭跡である。外堀（穴門の堀）の西側は旧町内名の「古川堀反」が示すように旭川の旧河道を利用したものである。

ｂ　現況

調査対象である県民会館駐車場は、久保田藩の家老職にあった渋江家の屋敷地東側にあたる場所である。絵図によると、東側縁辺部には屋敷に伴う土塁があり、一部途切れた箇所には門等の施設が建てられていた可能性がある。

７　確認調査の方法

アスファルトで舗装された県民会館駐車場の５か所に、幅１ｍ、長さ２～３ｍのトレンチを設定した。路面カッターでアスファルトに切り目を入れ、それ以下を重機により掘削した。トレンチの深さがいずれも２ｍ以上あったことから、土層の記録については、地上から壁面を目視したり、掘り上げられた土を観察したりして行った。トレンチ番号は、平成29年11月の確認調査で付した番号（１～５）に続く、６番以降の番号を付した。調査後は、重機により埋め戻し、転圧機械により転圧を行い、除去したアスファルトの厚さ分の凹みには砕石を補充した後、再度転圧機械により転圧を行った。実質調査面積は11㎡で、前回調査分（16.1㎡）と合計すると27.1㎡となり、確認調査対象面積の0.22％である。

８　確認調査の結果

ａ　層序

Ⅰａ層	アスファルト	層厚５㎝	６～10トレンチ
Ⅰｂ層	砕石	層厚５～10㎝	６～10トレンチ
Ⅰｄ層	アスファルト	層厚２～５㎝	６～10トレンチ
Ⅰｅ層	砕石	層厚10㎝	６～10トレンチ
Ⅰｇ層	砂	層厚10～20㎝	６～10トレンチ
Ⅱａ層	褐色粘質シルト	層厚０～80㎝	６～10トレンチ

Ⅲ　層	青灰色粘質シルト	層厚０～30㎝	６～10トレンチ
Ⅳ　層	褐色粘質シルト	層厚30㎝	６トレンチ
Ⅴ　層	褐色粘質シルト	層厚40～50㎝	６～10トレンチ
Ⅵ　層	暗褐色粘質シルト	層厚70㎝	６トレンチ
Ⅶ　層	褐色粘質シルト	層厚70～100㎝	７～10トレンチ
Ⅷ　層	褐色粘質シルト	地山	６～９トレンチ

※Ｉｃ層（砂）及びＩｆ層（黒褐色シルト）は2017年11月の調査で検出した層で、今年度調査区内では確認できなかった。

Ｉ～Ⅴ層は、出土遺物から近現代の整地地業により形成されたと考えられる。Ｉ層のうち、６～８トレンチの２枚目の舗装面（Ｉｄ層）は、県民会館建築（昭和36年竣工）当初の駐車場のためのものと考えられる。Ⅱ層は、コンクリートブロック、スレート、タイル等、かつてこの場所にあった秋田県公会堂・秋田県記念館の建築部材と考えられるものを含んだ土である。

Ⅵ層上面で検出した直径約60㎝を計る円形の暗褐色土プランは、柱痕跡のある柱穴様ピットの可能性が高い。Ⅵ層は、層中より近世陶磁器が出土していることから、土塁内側の平場が居住地として使われるようになった後で形成されたと考えられ、近世になって２回目以降の盛土地業層と推定される。一方、Ⅶ層は、地山であるⅧ層の直上にあることや近世陶磁器等の遺物が出土していないこと等から、近世城郭創建期の盛土地業である可能性が高い。なお、10トレンチにおいては、Ⅷ層を確認することが出来なかった。創建期の盛土地業が深いレベルまで及んでいる可能性がある。

これまでの試掘・確認調査により、調査対象範囲の北側を除く広範囲において、整地地業層を確認することが出来た。

ｂ　検出遺構と出土遺物

全トレンチにおいて整地地業層が認められ、近世陶磁器等の遺物が出土した。また、６トレンチでは柱穴様ピット、10トレンチでは性格不明遺構をそれぞれ検出した。近世陶磁器は10トレンチのⅤ・Ⅶ層の境から多く出土した。

９　所見

ａ　遺跡の種類

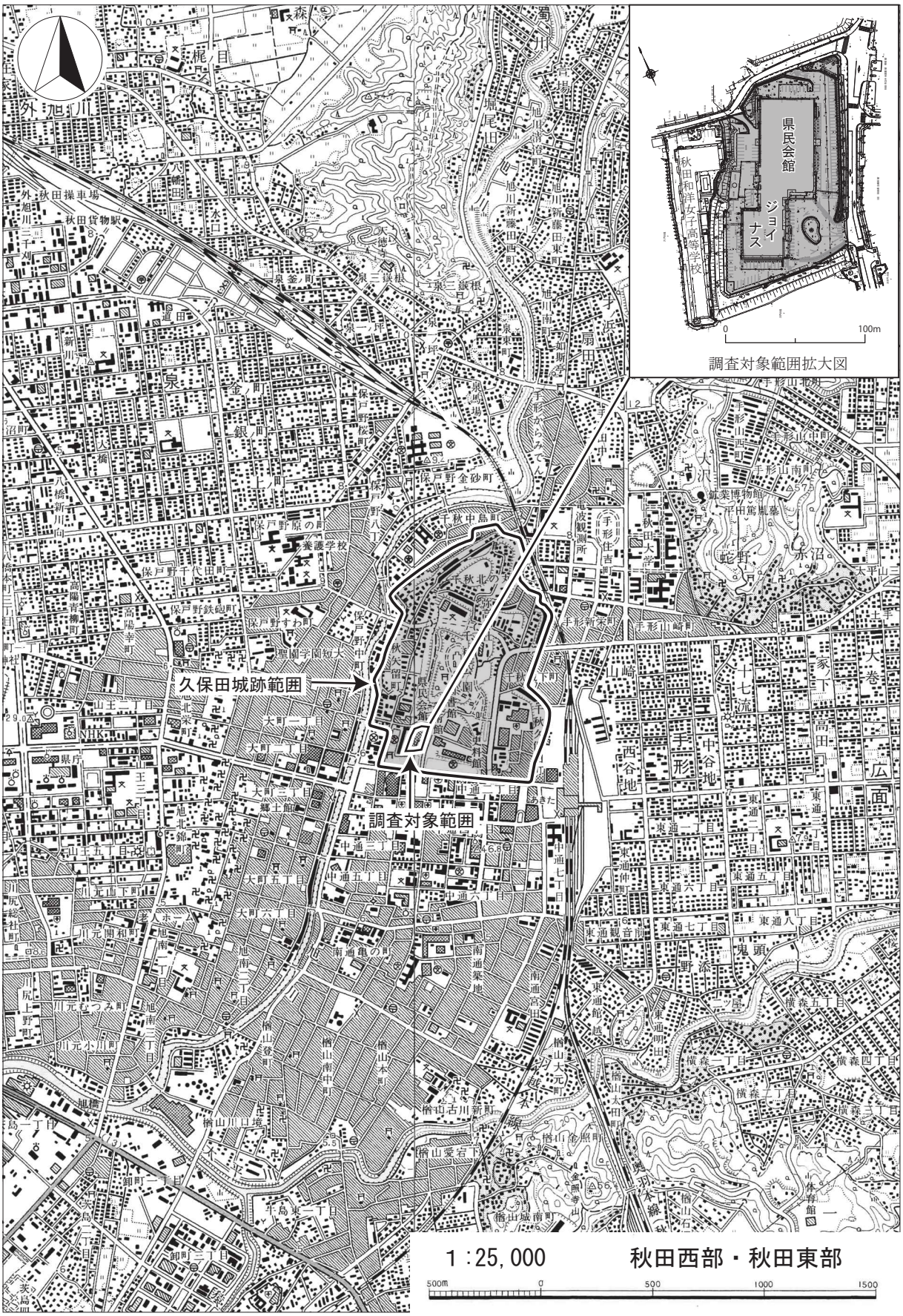
周辺の地形や検出遺構から、遺跡は千秋公園台地及び周辺に広がる近世の城郭跡である。

ｂ　遺跡の範囲と工事区域

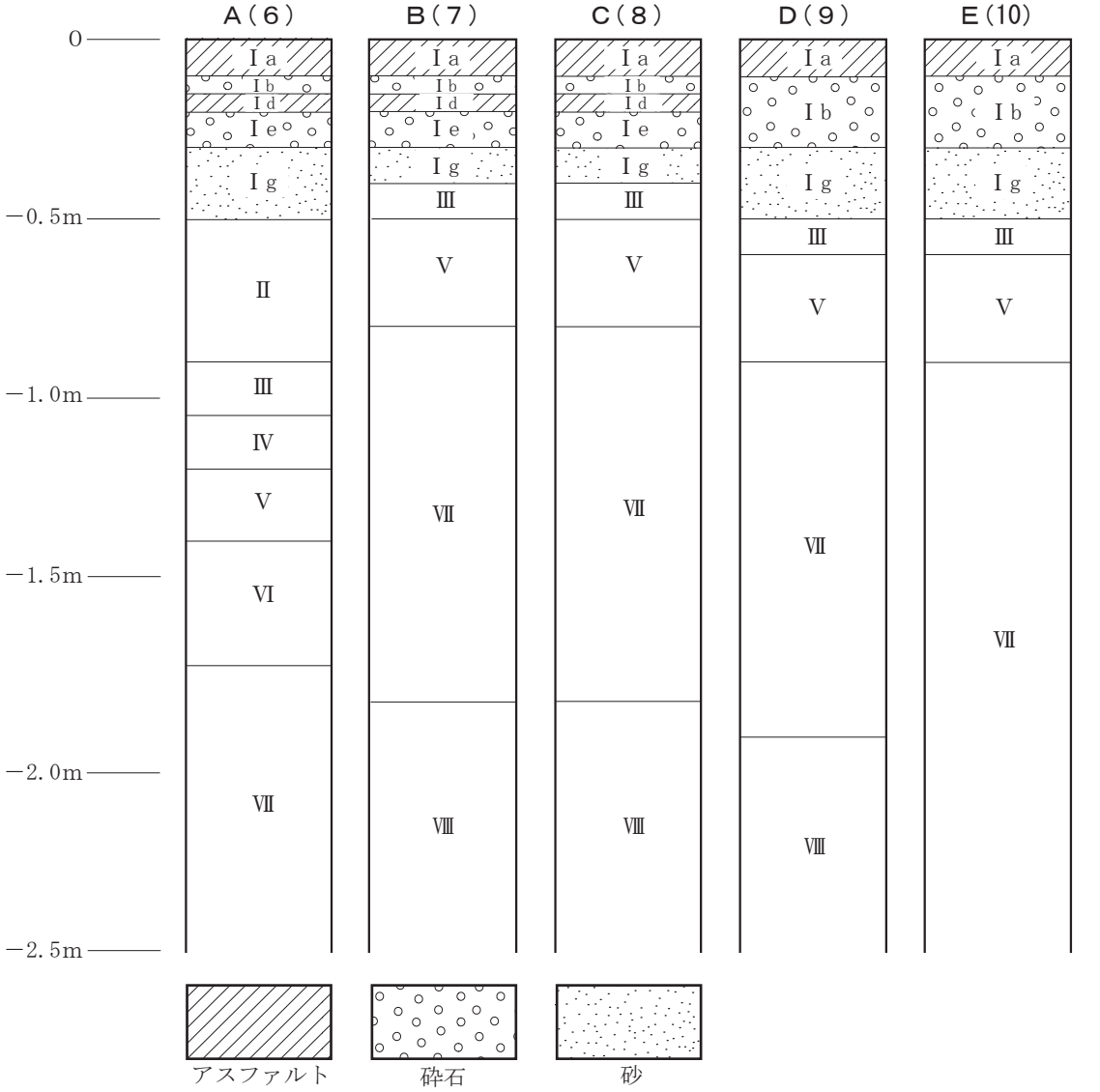
遺構や整地地業層が確認されたことにより、周知の遺跡「久保田城跡」範囲内にある工事区域（調査対象範囲）の全域が本発掘調査必要範囲となる。前回の結果報告で示した面積は、本事業概算積算時に提示された11,600㎡を引用したものであり、今回の確認調査に伴い本発掘調査必要範囲を再度計測したところ12,100㎡となり、今後はこの面積を使用することとした。

ｃ　発掘調査時に予想される遺構・遺物

これまでの試掘・確認調査結果と同様、整地地業層上に構築された近世の遺構群が検出される可能性が高い。



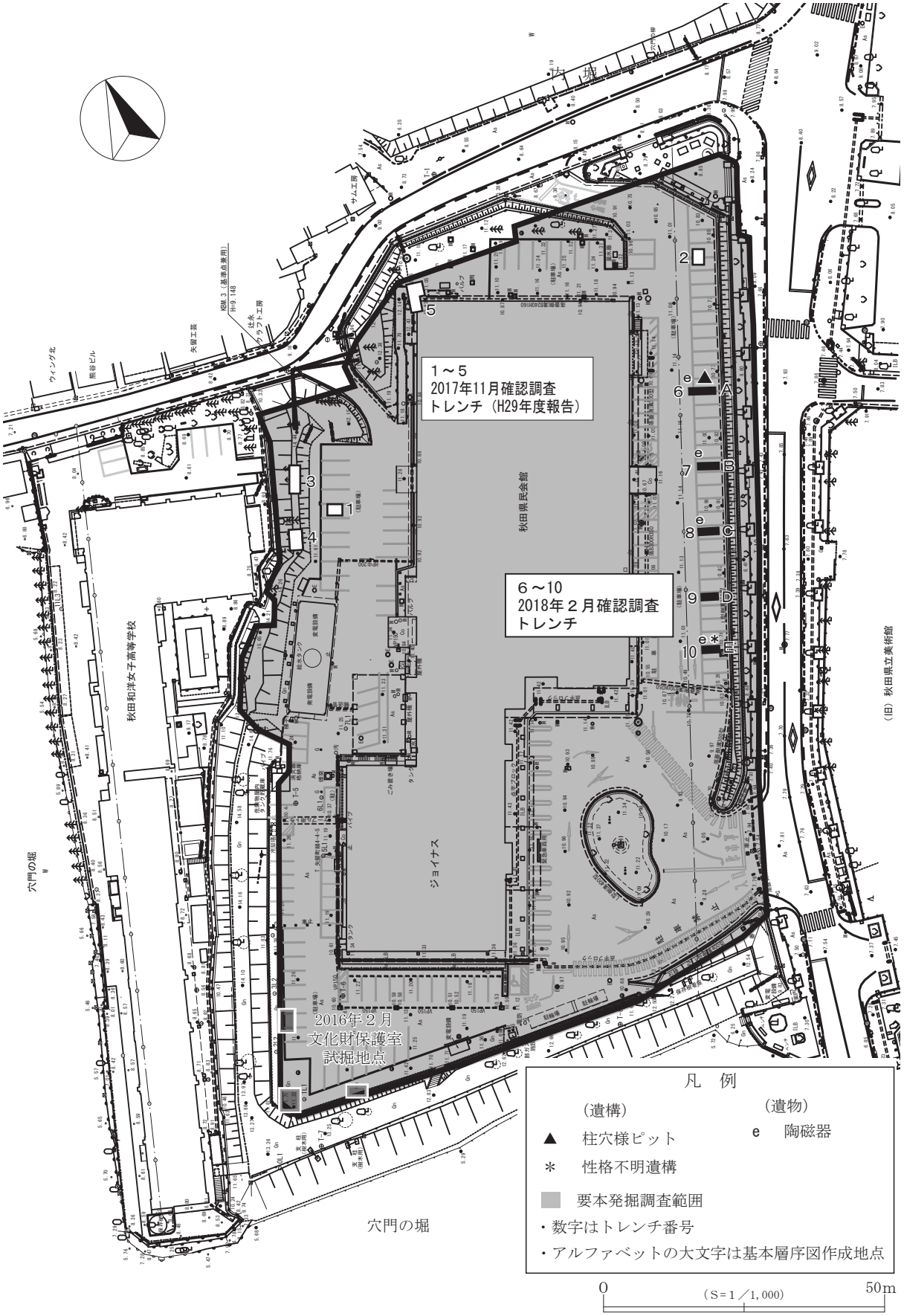
第 61 図　久保田城跡範囲と調査対象範囲



※（　）内の数字はトレンチ番号

※　Ⅷ層（地山）上面は地表面から２ｍ前後と深く、トレンチ内への立ち入りは危険であるため、深層部の調査は地上からの断面の観察に留めた。

第62図　久保田城跡基本層序図



第 63 図　久保田城跡確認調査結果と要本発掘調査範囲図

調査状況
（北東から）

９トレンチ
土層断面
（南から）

６トレンチ
柱穴検出状況
（南から）

２　国道７号遊佐象潟道路事業

神田遺跡

１　遺跡所在地　秋田県にかほ市象潟町洗釜字神田30ほか

２　確認調査期間　平成30年７月17日～７月31日

３　確認調査対象面積　6,520㎡

４　工事区域内遺跡面積　6,520㎡

５　要本発掘調査面積　5,250㎡

６　遺跡の立地と現況

ａ　立地

遺跡は、ＪＲ羽越本線上浜駅から北東約800ｍに位置し、鳥海山から東西方向にのびる台地の末端に位置している。この台地の縁には滑落崖が複数確認でき、遺跡の北0.8㎞の位置には、奈曽川が西流し、日本海へと注ぐ。遺跡の周辺には、複数の沢状地形が確認できる。

神田遺跡の南東1.3㎞に位置するヲフキ遺跡は、３次にわたり発掘調査が行われ、縄文時代前期から晩期、平安時代、中・近世にかけて、断続的に存在していたことが明らかになっている。

ｂ　現況

現在、調査対象範囲周辺は原野と水田になっている。水田は標高により、上段と下段に区別した。

７　確認調査の方法

調査は地形を考慮して幅１～1.5ｍのトレンチを設定し、トレンチ内での見極めが困難な場合は必要に応じて範囲を拡張し、遺構・遺物の有無を確認した。トレンチの掘削は重機と人力で行った。調査の記録は、検出遺構と出土遺物の位置を示す平面図及び簡易土層図の作成とデジタル写真撮影によって行った。トレンチの総数は計22本、実質調査面積は530㎡で、調査対象面積の8.1％に相当する。

８　確認調査の結果

ａ　層序

遺跡内の基本層序は次の通りである。

原野（７～10・22トレンチ）

Ⅰ層　暗褐色シルト（10YR3/3）締まり強　粘性やや弱　層厚10～20cm　表土

Ⅱ層　暗褐色シルト（10YR3/3）締まり強　粘性中　層厚10～30cm　遺物包含層

Ⅲ層　暗褐色シルト（10YR3/3）締まり中　粘性やや弱　層厚４～25cm　漸移層

Ⅳ層　黄褐色シルト（10YR5/8）締まり強　粘性中　層厚５cm～　地山

水田上段（１～６・11～15・21トレンチ）

Ⅰ層　灰黄褐色粘土（10YR4/2）締まりやや弱　粘性弱　層厚７～25cm　耕作土

Ⅱ層　黒褐色シルト（2.5Y3/2）締まりやや強　粘性やや強　層厚５～43cm　造成土

Ⅲ層　褐色シルト（10YR4/6）締まりやや強　粘性中　層厚46～95cm　基盤造成土

Ⅳ層　にぶい黄褐色シルト～粘土（10YR4/3）締まりやや強　粘性強　層厚３～20cm　旧表土

Ⅴ層　暗褐色シルト（10YR3/4）締まりやや強　粘性やや弱　層厚13～30cm　遺物包含層

Ⅵ層　暗褐色シルト（10YR3/3）締まり中　粘性やや弱　層厚15cm　漸移層

Ⅶ層　暗灰黄色粘土（2.5Y4/2）締まり強　粘性強　層厚５cm～　地山

Ⅷa層 暗褐色シルト質礫（10YR3/3）締まりやや強　粘性中　円礫主体　層厚５cm～　遺物包含層

Ⅷb層 黄褐色シルト質礫（10YR5/8）締まり強　粘性中　60cm大の円礫主体　層厚５cm～　地山

水田下段（16～20トレンチ）

Ⅰ層　灰黄褐色粘土（10YR4/2）締まりやや弱　粘性弱　層厚10～25cm　耕作土

Ⅱ層　黒褐色シルト（2.5Y3/2）締まりやや強　粘性やや強　層厚13～46cm　造成土

Ⅲ層　黒褐色粘質シルト（10YR3/2）締まり強　粘性やや強　層厚14cm　旧耕作土

Ⅳ層　暗灰黄色粘土（2.5Y4/2）締まり強　粘性強　層厚５cm～　地山

水田上段の現地表面は水平に造成されているものの、造成前は北東側が沢状地形で、中央北側が高くなる地形であったと考えられる。そのため、造成時に北東側以外は当時の旧表土（Ⅳ層）以下が削平を受け、地形が高くなっていた中央北側は特に大きく削平を受けたために、表土であるⅠ・Ⅱ層直下に礫層（Ⅷb層）が露出する。北東側は沢状地形のため造成による削平を受けず、さらに基盤造成土が厚く盛られたため、旧表土（Ⅳ層）や遺物包含層（Ⅴ・Ⅷa層）が残存したと考えられる。Ⅷa層は本来はⅧb層と同じ礫層であったが、水流による侵食により土壌分が流されて礫のみが残され、その後に堆積した腐植土とともに、礫の隙間を埋めるように遺物包含層が形成されたと考えられる。水田下段の現地表面はⅡ層により水平に造成されており、遺物包含層及び旧表土は、耕作と造成による削平により失われている。

ｂ　検出遺構と出土遺物

調査の結果、竪穴建物跡６棟、土器埋設遺構１基、土坑６基、柱穴様ピット12基が確認された。竪穴建物跡はいずれも形状や規模は不明だが、確認された壁高は30～40cmである。遺構埋土が残存しないものは、炉や柱穴様ピットが確認できたため竪穴建物跡と判断した。炉は複式炉、土器埋設炉、土器埋設石囲炉と思われるものが確認された。原野で確認された土坑２基は、いずれも確認面に30～40cm大の礫を配しているため、配石墓の可能性がある。遺物は縄文土器、石器の他、土製品が水田上段北東側の沢状地形に残存する包含層（Ⅴ・Ⅷa層）から多く出土した。

９　所見

ａ　遺跡の種類

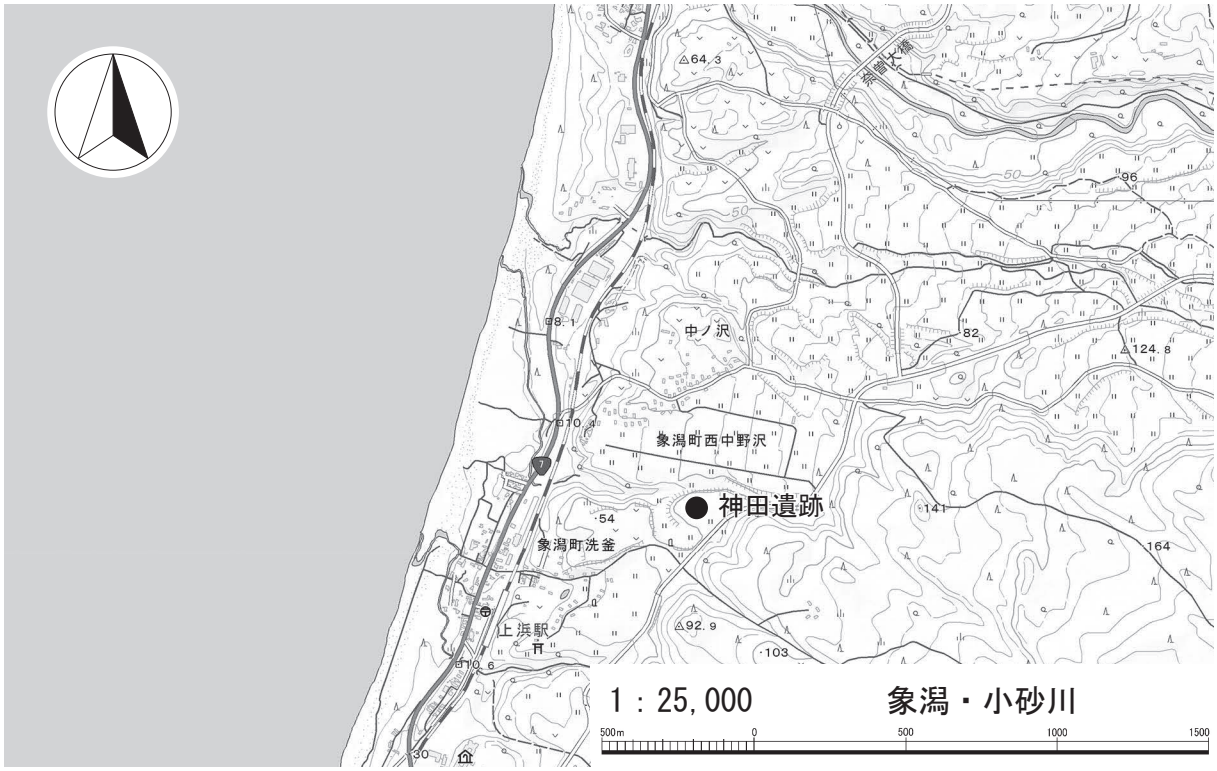
検出遺構と出土遺物から、縄文時代中期～後期にかけての集落跡と考えられる。

ｂ　遺跡の範囲と工事区域

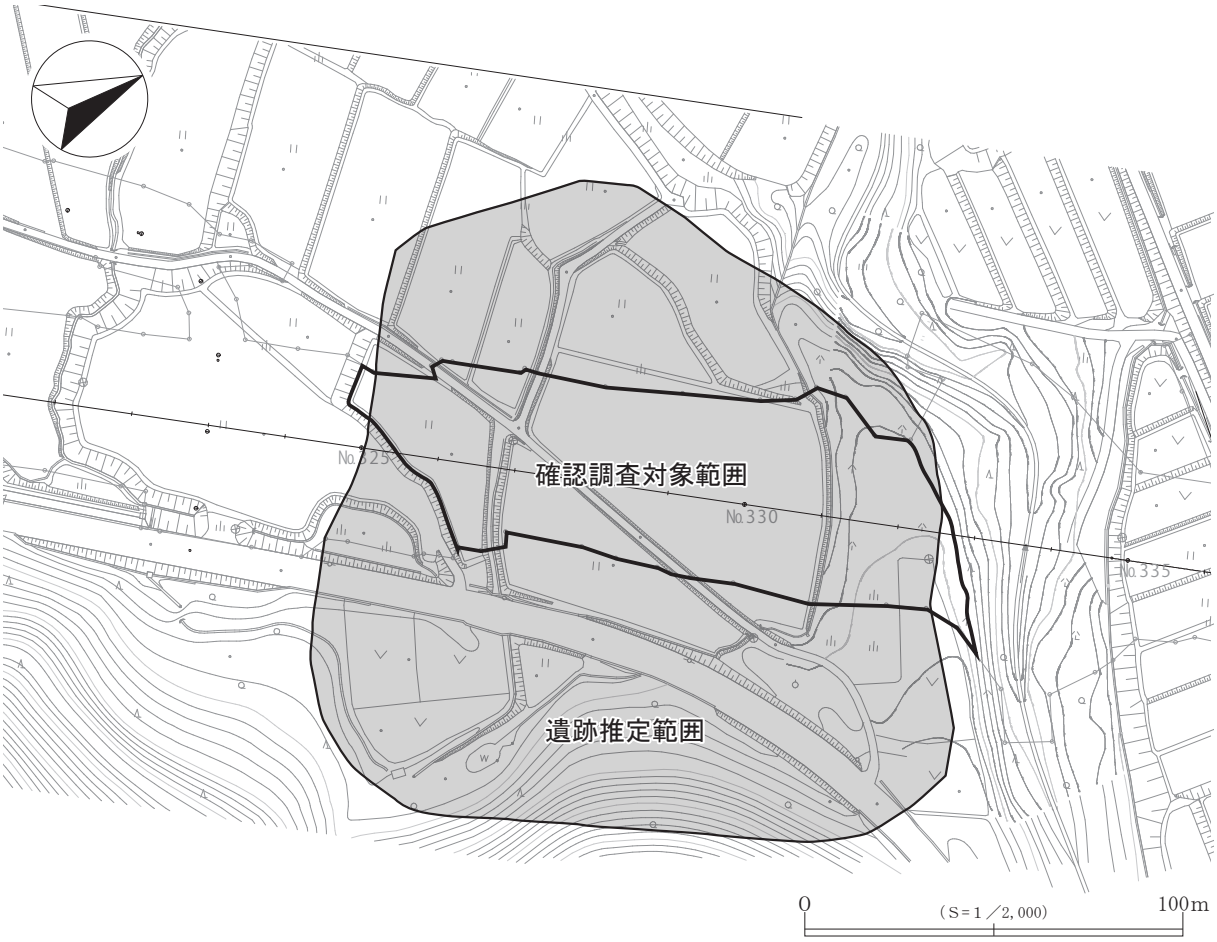
本確認調査により、水田上段及び原野からは、広く遺構・遺物が確認できたため、本発掘調査が必要である。水田下段は造成土中からごく少量の遺物が確認されたが、包含層が大きく削平を受け、遺構が確認されなかったため、要本発掘調査範囲から除外した。要本発掘調査面積は5,250㎡となる。

ｃ　発掘調査時に予想される遺構・遺物

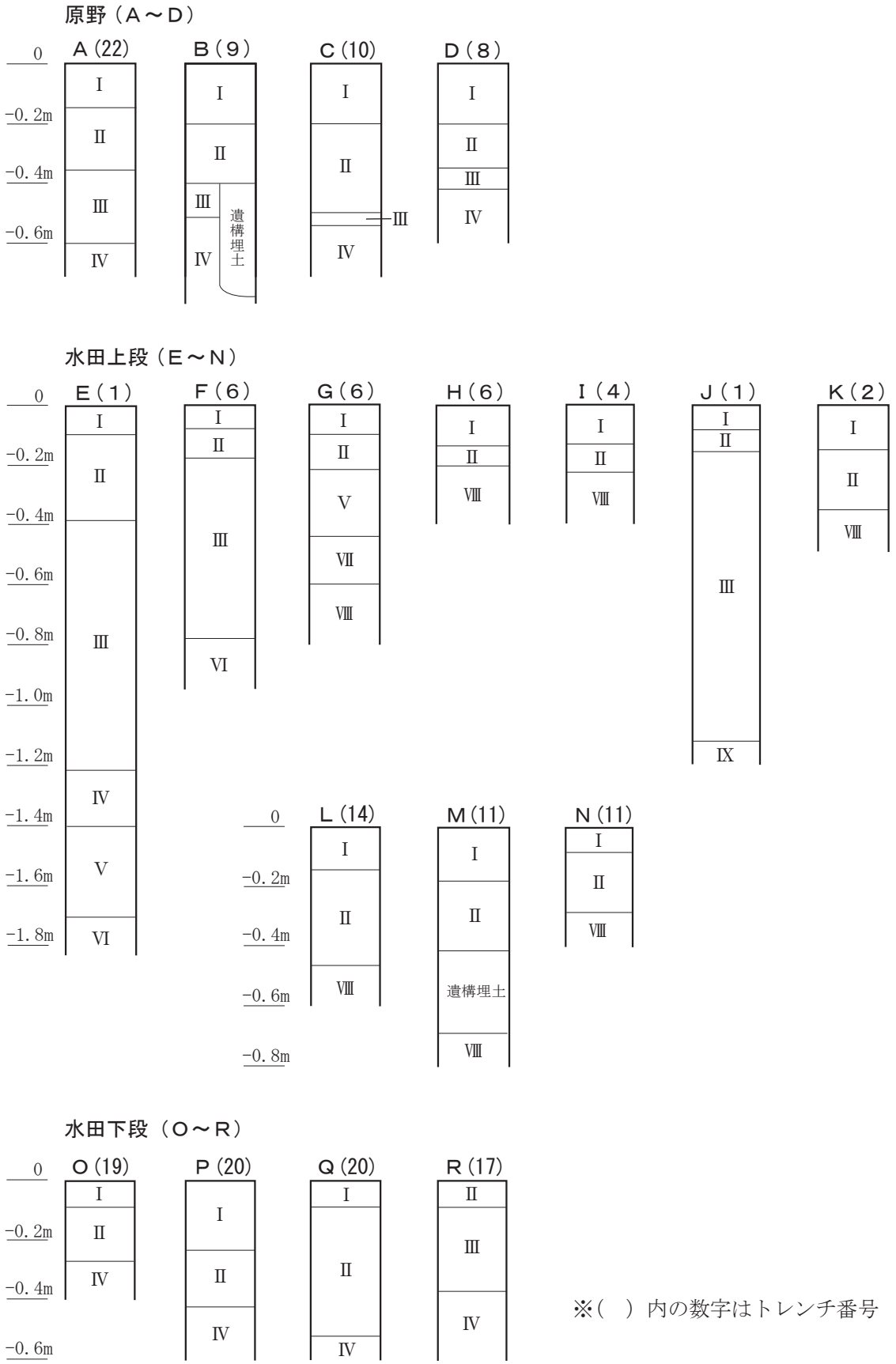
確認調査結果から、水田上段では竪穴建物跡、土坑、柱穴様ピット、原野では竪穴建物跡、土坑墓群等の検出が予想される。地点により巨大な円礫～亜円礫を含むⅧb層が表土直下に露出する。また、水田上段北東側の範囲は大きく盛土造成されているため、大規模な造成土除去が必要である。遺物は縄文時代中期後半の土器、石器が多量に出土すると予想される。



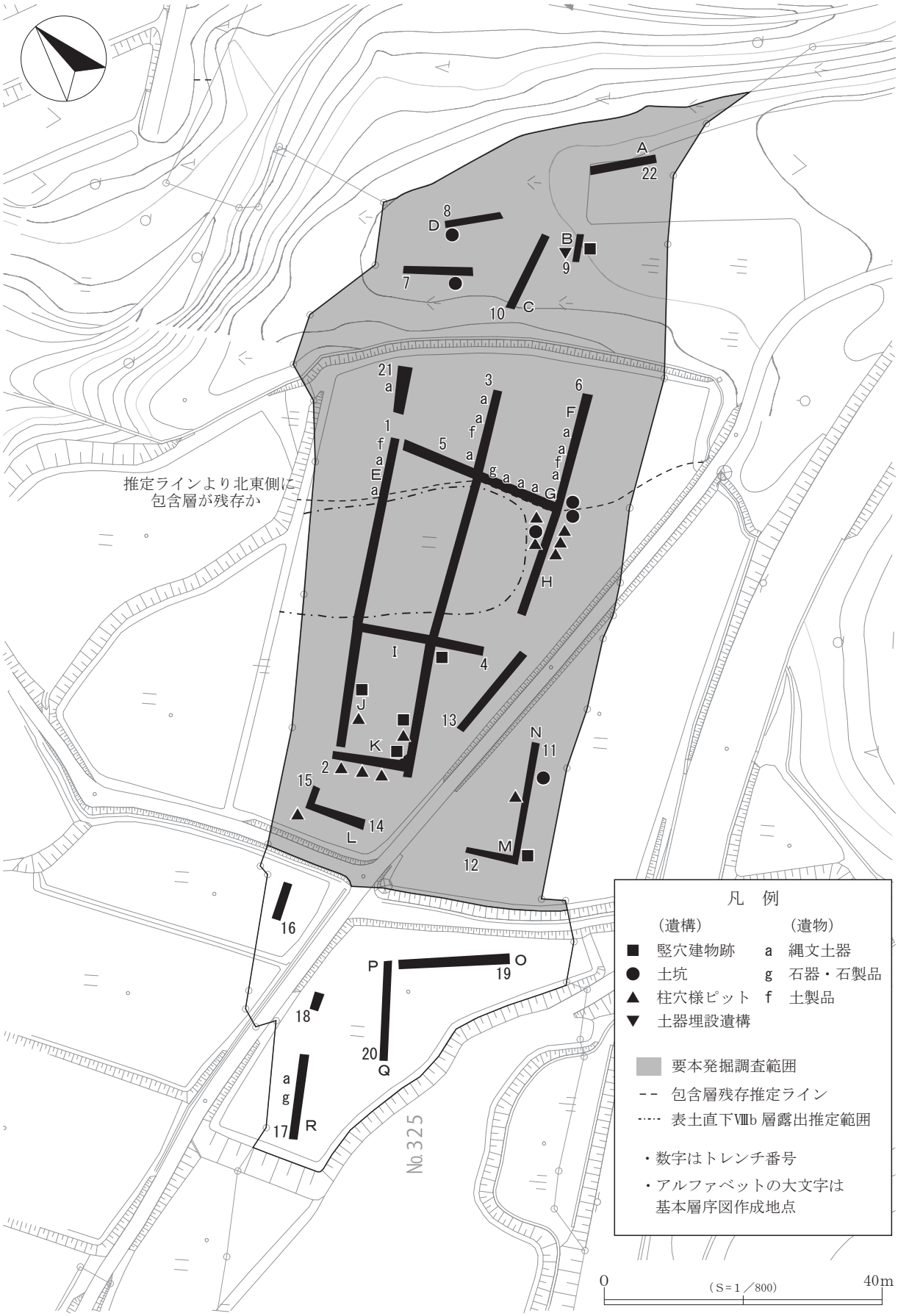
第64図　神田遺跡位置図



第65図　神田遺跡推定範囲と確認調査対象範囲図



第 66 図　神田遺跡基本層序図



第67図　神田遺跡確認調査結果と要本調査対象範囲図

１トレンチ
Ⅴ・Ⅵ層確認状況
（南東から）

２・３トレンチ
複式炉検出状況
（南東から）

９トレンチ
竪穴建物跡
断面確認状況
（南から）

３　一般国道７号能代地区事故対策事業

高塙遺跡

１　遺跡所在地　秋田県能代市字高塙154－１

２　確認調査期間　平成30年７月６日・７月９日

３　確認調査対象面積　470㎡

４　工事区域内遺跡面積　470㎡

５　要本発掘調査面積　０㎡

６　遺跡の立地と現況

ａ　立地

遺跡は秋田県立能代高等学校から北に約250ｍ、国道７号線と羽州街道が交差する地点に所在する。米代川からは直線距離で約800ｍ離れるが、地形分類上は砂礫段丘に属し、地形区分では米代川下流左岸低地に立地する。遺跡名になっている「たかはな」という地名は低地に突き出た微高地につけられる場合があり、実際の地形と合致している。

高塙遺跡が所在する米代川左岸には、遺跡から北東約800ｍに仁井田白山遺跡が位置する。遺構は確認されていないが、須恵器系中世陶器の擂鉢が出土しており、その中でも完形の擂鉢が能代市の文化財に指定されている。

仁井田白山遺跡の西隣には新山前遺跡が位置する。遺構は確認されていないが、縄文土器片・土師器・須恵器系中世陶器の擂鉢片などが出土している。特に擂鉢は仁井田白山遺跡で出土しているものと同質のもので、二遺跡の関連がうかがわれる。

近世能代の中心部は米代川河口付近に営まれ、現在の市街地に重なる。能代奉行が勤務した在府屋や藩主が能代を訪れた際に入る御休所は現在の能代市役所本庁舎西側にあたり、この付近が官庁街となっていた。高塙遺跡はそこから約3.5km離れているため、町はずれの農村に位置していたと考えられる。近世以前は米代川河口から約12km内陸に位置する檜山地区が中心となっていた。檜山城は檜山川の発する丘陵部に位置する中世城館で、昭和48年に県史跡に指定された後、昭和55年に「檜山安東氏城館跡」のひとつとして国史跡に指定された。築城された時期は明確ではないが、明応４年（1495）とするのが通説で、城は本丸や無数の曲輪、空堀などからなり、一つの山塊がほぼ丸ごと利用されている城館で、現在能代市教委による調査が進められている。

檜山地区は代々安東氏の居城のもと、城下町が形成されていくが、佐竹氏の入部の後、檜山城は元和６年（1620）に破却され、所預として檜山地区に入った多賀谷氏により治められた。

ｂ　現況

調査対象区域は平坦な造成地であり、造成により旧地形は確認できない。

７　確認調査の方法

調査はトレンチ調査を基本とし、1.5ｍ幅でトレンチを設定した。まず分布調査時に確認されていた造成土を重機で除去し、造成土直下の黄褐色粘質シルト層で遺構・遺物の有無を確認した。遺構・遺物は確認できず、ビニール片の混入があるため宅地造成前の旧耕作土と判断し、地山である灰色シルト層まで掘り下げ、再度遺構・遺物の確認を行った。地山が平面上で確認できたところでトレンチ内

部の精査を行い、柱状図作成、写真撮影を行った。トレンチの総数は計７本、実質調査面積は63.45㎡で、調査対象面積の13.5％に相当する。

８　確認調査の結果

a　層序

遺跡内の基本層序は次の通りである。

Ⅰa層　オリーブ黒色砂礫（10Y3/1）締まり弱　粘性弱　層厚14～25㎝　砕石を多く含む造成土

Ⅰb層　褐色砂質シルト（10YR4/4）締まり弱　粘性弱　層厚10～25cm　黒褐色土（10YR3/1）を５％含む　造成土

Ⅱ層　褐色砂（10YR4/4）締まりやや強　粘性やや弱　層厚26～61cm　褐色粘土（7.5YR4/6）ブロックを斑状に含む　造成土

Ⅲa層　黄灰色粘質シルト（2.5Y4/1）締まりやや強　粘性強　層厚15～26cm　酸化鉄を縦筋状に含む　ビニールが混じる　旧耕作土

Ⅲb層　層厚10～15cm　Ⅲa層下半にみられる鋤床層

Ⅳ層　黒色粘土（５Y2/1）締まりやや強　粘性強　層厚５～42cm　斑状に黒色シルトを含むビニールが混じる　基盤造成土

Ⅴ層　灰色シルト質砂（7.5Y5/1）締まり強　粘性弱　層厚８～30cm　造成前の地山

Ⅵ層　灰色砂（7.5Y5/1）湧水あり　地山

Ⅰ・Ⅱ層は現代の宅地造成土である。調査区全体で確認でき、ほぼ均一の厚さで堆積している。Ⅲa・b層は旧耕作土とその鋤床層とみられ、所々ビニール片が混入する。Ⅳ層は水田を造成する際に盛られた基盤造成土と考えられ、Ⅴ層の土を斑状に含むことからⅤ層を削平した土で造成したものと考えられる。Ⅴ・Ⅵ層は地山の粘土層で、西側から東側へと下がっていく様子が確認できた。調査区北側に川が流れており、川に向かっても徐々に下がっていくものと思われる。

b　検出遺構と出土遺物

調査の結果、調査対象範囲内で遺構は検出されなかった。分布調査時に近世陶磁器及び木杭が検出されているが、本調査で確認したところ旧耕作土であるⅢa層からの出土と考えられ、遺跡に伴うものではないと判断した。遺物は５トレンチのⅢa層から近世磁器が一点のみ出土した。

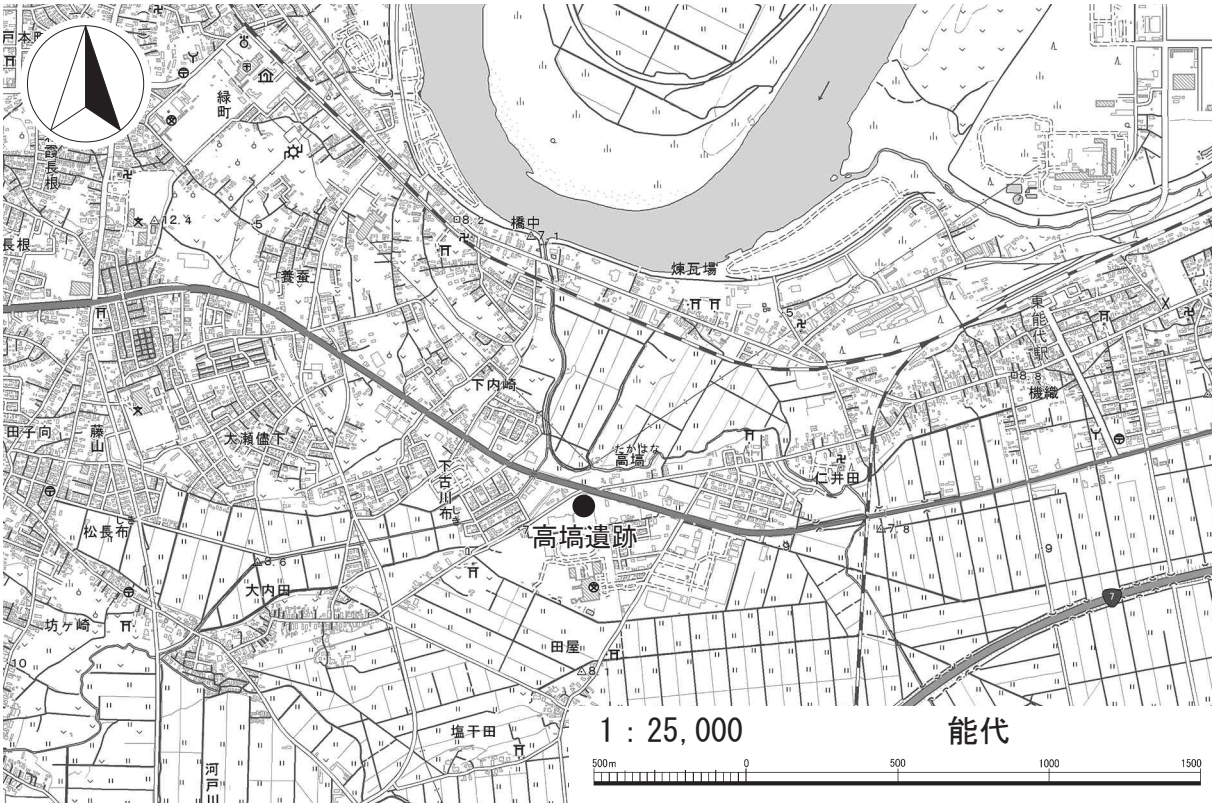
９　所見

a　遺跡の種類

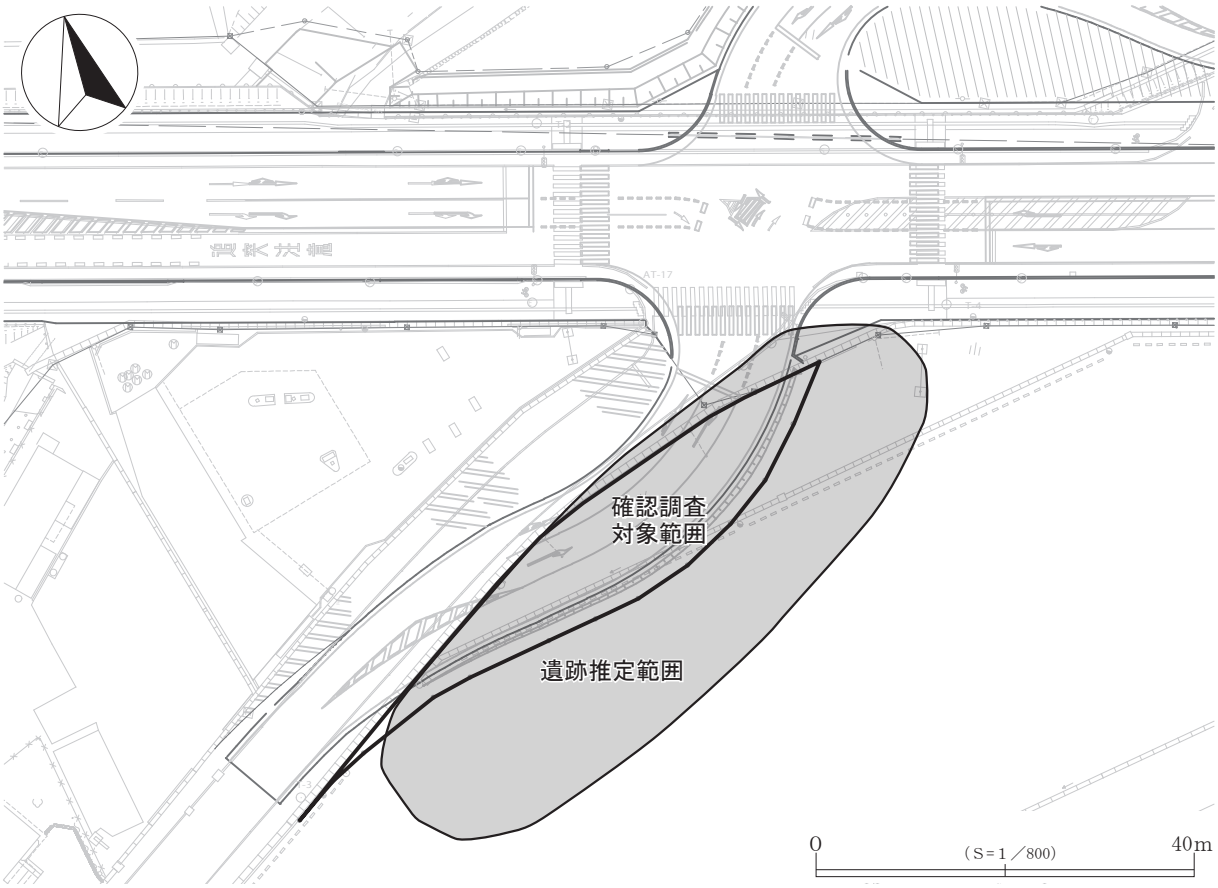
確認調査では遺跡の性格が判断できる遺構は検出できなかった。地山であるⅤ・Ⅵ層の様相から判断すると、南から北側または西から東側に向かって下がる低湿地帯と考えられ、集落の中心はより南側に存在すると推定される。

b　遺跡の範囲と工事区域

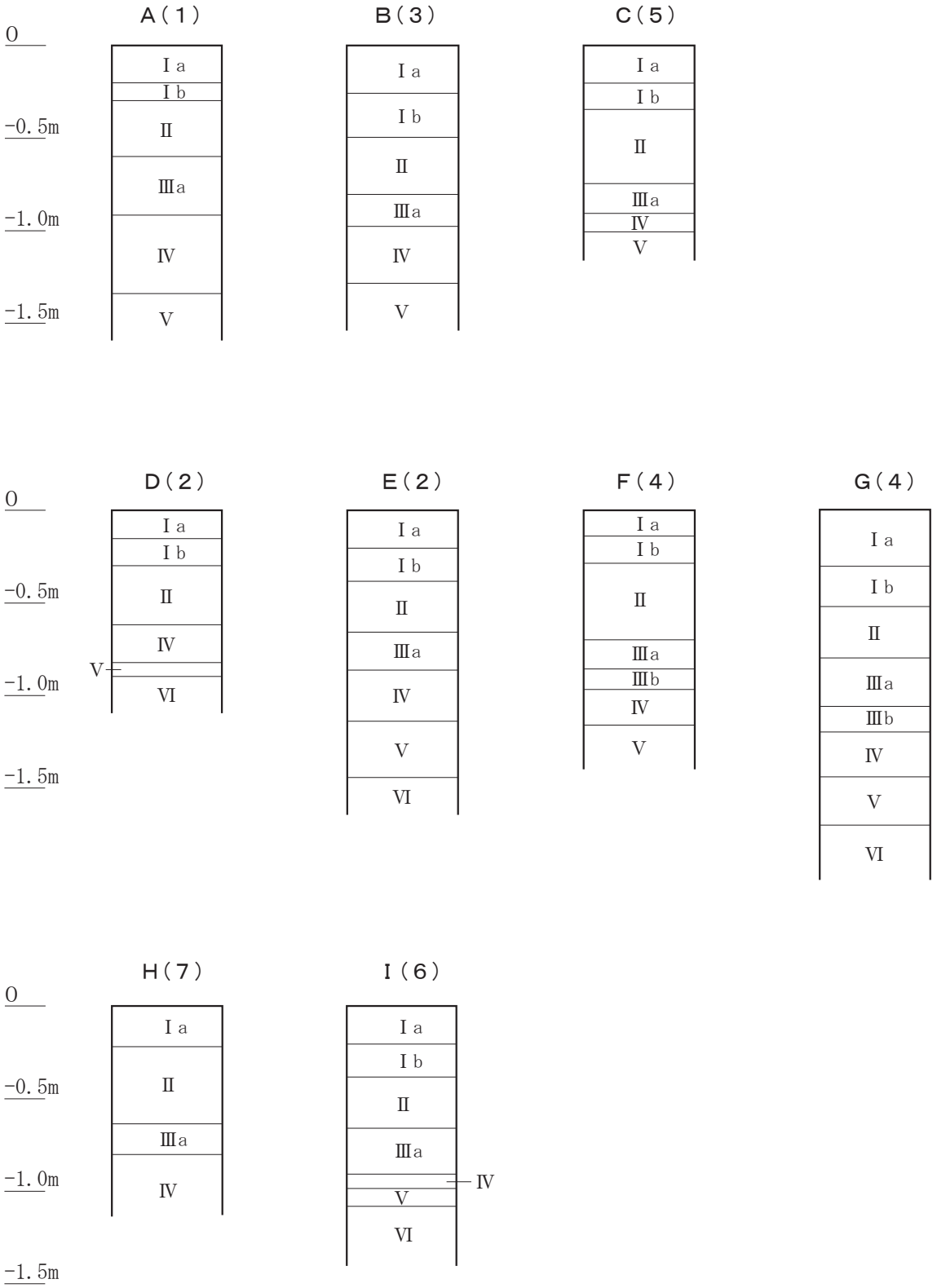
今回の確認調査対象範囲では、遺構が確認されず、遺物包含層も存在しないため、工事区域内について、本発掘調査の必要はないと判断される。



第 68 図　高塙遺跡位置図

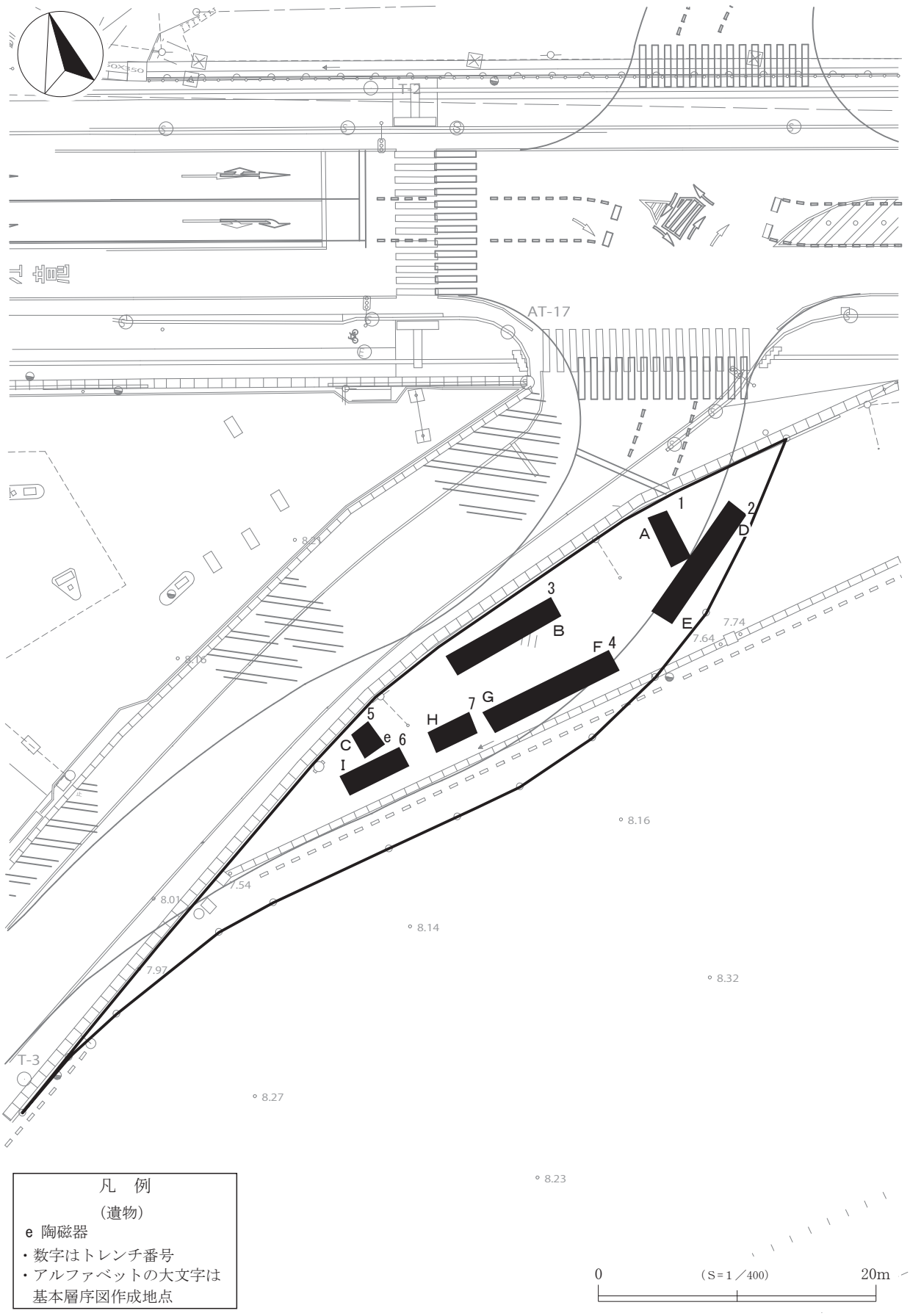


第 69 図　高塙遺跡推定範囲と調査対象範囲



※（　）内の数字はトレンチ番号

第 70 図　高塙遺跡基本層序図



第 71 図　高塙遺跡確認調査結果図

調査区遠景
（東から）

３トレンチ全景
（西から）

４トレンチ断面
（南から）

４　国道13号横堀道路改築事業

赤塚遺跡

１　遺跡所在地　秋田県湯沢市横堀字赤塚174ほか

２　確認調査期間　平成30年９月25日～10月４日

３　確認調査対象面積　6,720㎡

４　工事区域内遺跡面積　6,720㎡

５　要本発掘調査面積　6,720㎡

６　遺跡の立地と現況

ａ　立地

遺跡は湯沢市立雄勝中学校から南に300ｍに位置している。西を役内川、東を小比内山北西裾部に挟まれた低地扇状地・河原または砂堆地に属し、遺跡範囲の大半は河原、砂堆地に分類される。

遺跡周辺では多くの遺跡が確認されている。役内川の両岸にはいくつかの縄文遺跡が所在し、中世・近世になると山間の地形を利用した城館跡が多く築かれる。また、当遺跡の東側に隣接する山裾には県指定史跡である磨崖が存在する。角閃安山岩の岩壁を舟形光背状に加工し、阿弥陀如来等を表す梵字が刻まれている。その下には「元亨二年（1322）五月」の銘があり、造営年代がわかる磨崖では県内最古のものである。

ｂ　現況

調査対象範囲は水田・畑地で、休耕地となっている。

７　確認調査の方法

調査はトレンチ調査を基本とし、重機を用い２ｍ幅のトレンチを設定した。調査にあたっては、まず分布調査時に確認された耕作土と旧耕作土を除去し、遺構・遺物および包含層の有無を確認した。地点によっては旧耕作土下に造成土が存在していたため、その場合は造成土を除去した後、再度遺構確認を行った。また、調査区中央部から南側にかけて洪水堆積層が確認されたため、その下位についても遺構確認を行った。遺構検出面を確認した後にトレンチ内部の精査を行い、写真撮影・土層柱状図作成を行った。トレンチの総数は13本、実質調査面積は628㎡で調査対象面積の9.3％に相当する。

８　確認調査の結果

ａ　層序

遺跡内の層序には調査区の西側を流れる役内川の氾濫による洪水堆積層が含まれており、特に西側調査区で顕著である。調査区は本来、中央部が高く、東西が低い盾状の地形だったと考えられ、東端部には平坦地確保のために造成土が比較的厚く盛られている。

Ⅰ層　暗オリーブ褐色粘質シルト(2.5Y3/3) 締まり弱　粘性中　層厚８～30㎝　耕作土
　　植物根を30％含む　表土

Ⅱ層　にぶい黄褐色シルト（10YR5/4）締まり弱　粘性弱　層厚５～78㎝　旧耕作土
　　砂利（φ１～３㎝）を多量含む　炭化物（φ１～２㎜）を２％含む　遺物出土あり

Ⅲ層　にぶい黄橙色砂質シルト（10YR7/4）締まり中　粘性弱　層厚５～65㎝　造成土

暗オリーブ褐色シルト（2.5Y3/3）を斑状に10％含む　炭化物（φ１mm）を５％含む

Ⅳa層　暗褐色砂質シルト（10YR3/3）締まり強　粘性強　層厚14～32cm　洪水堆積層１
褐色砂質シルト（10YR4/6）とにぶい黄橙色砂質シルト（10YR6/4）がラミナ状に堆積する　一部グライ化し、青灰色を呈す　炭化物を粒状に10％含む

Ⅳb層　にぶい黄橙色砂質シルト（10YR7/4）締まり中　粘性弱　層厚５～65cm　洪水堆積層２
暗オリーブ褐色シルト（2.5Y3/3）を斑状に10％含む　炭化物（φ１mm）を５％含む

Ⅳc層　明黄褐色粗粒砂(2.5Y6/6）締まり弱　粘性弱　層厚26cm　洪水堆積層３
中礫（φ１～３cm）を20％に含む　下層は酸化鉄の影響で赤褐色に変化

Ⅳd層　にぶい黄色粗粒砂（2.5Y6/3）締まり弱　粘性弱　層厚18cm　洪水堆積層４

Ⅳe層　黒褐色粘質シルト（10YR3/2）締まり中　粘性強　層厚４cm 洪水堆積層５
炭化物を粒状に30%含む

Ⅳf層　浅黄色粘質シルト（2.5Y7/3）締まり中　粘性強　層厚５～30cm 洪水堆積層６
炭化物を粒状に３％含む　酸化鉄を筋状に含む

Ⅳg層　黒褐色粘質シルト（10YR3/2）締まりやや強　粘性強　層厚14cm　洪水堆積層７

Ｖ層　黒褐色粘質シルト（2.5Y3/2）締まり弱　粘性強　層厚３～30cm　遺物包含層
微細な土器片を３％含む　炭化物を粒状に５％含む　褐灰色粘土ブロック（10YR4/1）を５％含む、地点によりにぶい黄橙色砂質シルト（10YR7/4）が主体になる

Ⅵ層　にぶい黄褐色砂礫層（10YR5/4）締まり中　粘性弱　層厚５cm～　地山
こぶし大の礫を多量に含む　遺構検出面

耕作土（Ⅰ層）と旧耕作土（Ⅱ層）は全域に形成されている。中央部南側の限られた範囲で河川氾濫により堆積したと思われる洪水堆積層（Ⅳa層）を確認した。12トレンチでは遺構埋土中におよぶ洪水堆積層が確認され、集落が営まれていた最中もしくは廃絶直後に少なくとも一度は洪水堆積物に覆われたことが確認できる。Ⅳa層が堆積する地点では遺物包含層（Ｖ層）は確認されず、直下の地山が遺構検出面となっている。当時の地表面は北から南に傾斜していたことが想定され、本来堆積していたであろう遺物包含層は度重なる洪水により浸食されたと考えられる。北東部で遺物包含層が比較的厚く残存しているのはこのためと解釈できる。地山（Ⅵ層）はにぶい黄褐色の砂礫層で、下位にはこぶし大の礫が多く混入する。Ⅵ層より下位から遺構・遺物は確認されなかった。

Ⅳb～Ⅳg層は調査区西側２・４・11トレンチで確認され､河川氾濫時に堆積したものと考えられる。Ⅳb～Ⅳd層は砂を主とした層であるのに対し、Ⅳe～Ⅳg層は粘土を主とした層となっている。氾濫が起こった時期は層中から遺物が出土しないため不明だが、直下のＶ層から縄文時代中期後半の土器が出土しているため、それ以降の時期と判断できる。Ⅵ層は遺構検出面となっており、地山を掘りこんで遺構が作られている。また２・４トレンチではⅥ層以下を深掘りし、地山面以下の層序を確認した。２トレンチでは細粒砂と粗粒砂が、４トレンチでは砂と粘土による洪水堆積層の互層を確認し、アラビア数字を付し土層注記は省略した（第74図）。

ｂ　検出遺構と出土遺物

調査の結果、竪穴建物跡（ＳＩ）９棟・土器埋設遺構（ＳＲ）１基・フラスコ状土坑（ＳＫＦ）１基・土坑（ＳＫ）11基・柱穴様ピット（ＳＫＰ）９基が検出された。竪穴建物跡は水田耕作時に伴う削平に

より、残存する壁高は10～38cmであった。３トレンチでは北側断面で竪穴建物跡が確認され、周囲を掘り下げたところ、長軸1.2mのＡ字状石組の複式炉が検出された。５トレンチでは竪穴建物跡が３棟検出され、内２棟は重複していた。10・13トレンチでは平面プランは確認されていないが、石囲炉が各１基検出されたため竪穴建物跡に含めた。そのほか１・８・９トレンチでも検出されたが、いずれも縄文時代中期後半の土器が出土した。５トレンチの東側断面ではフラスコ状土坑が確認された。フラスコ状土坑内から遺物は出土しなかったが、周囲で出土した遺物から縄文時代中期後半と考えられる。

遺物は中コンテナで６箱出土した。内5.5箱が縄文土器で、残り0.5箱は石器・陶磁器である。縄文土器は中期大木７～９式期のものが出土し、主体は大木９式期である。大木９式期の土器は調査区全域で出土したが、特に調査区中央部３・５・８トレンチ付近に集中が見られる。磨消縄文が施され、楕円形区画内に縄文が充填されるもの、刺突文が充填されるものが出土している。刺突文は12トレンチで出土した１点のみである。全体としては体部破片が多数を占めており、地文縄文のみのものに次いで懸垂文が施されたものが多い。石器は石匙３点、石錐１点、凹石１点、磨石１点などが出土した。石匙はすべて頁岩製で、石錐は鉄石英が使用されている。

陶磁器も少数出土しており、中世の青磁碗が１点、その他は近世の陶磁器である。

９　所見

ａ　遺跡の種類

検出遺構と出土遺物から、縄文時代中期後半の集落跡と考えられる。

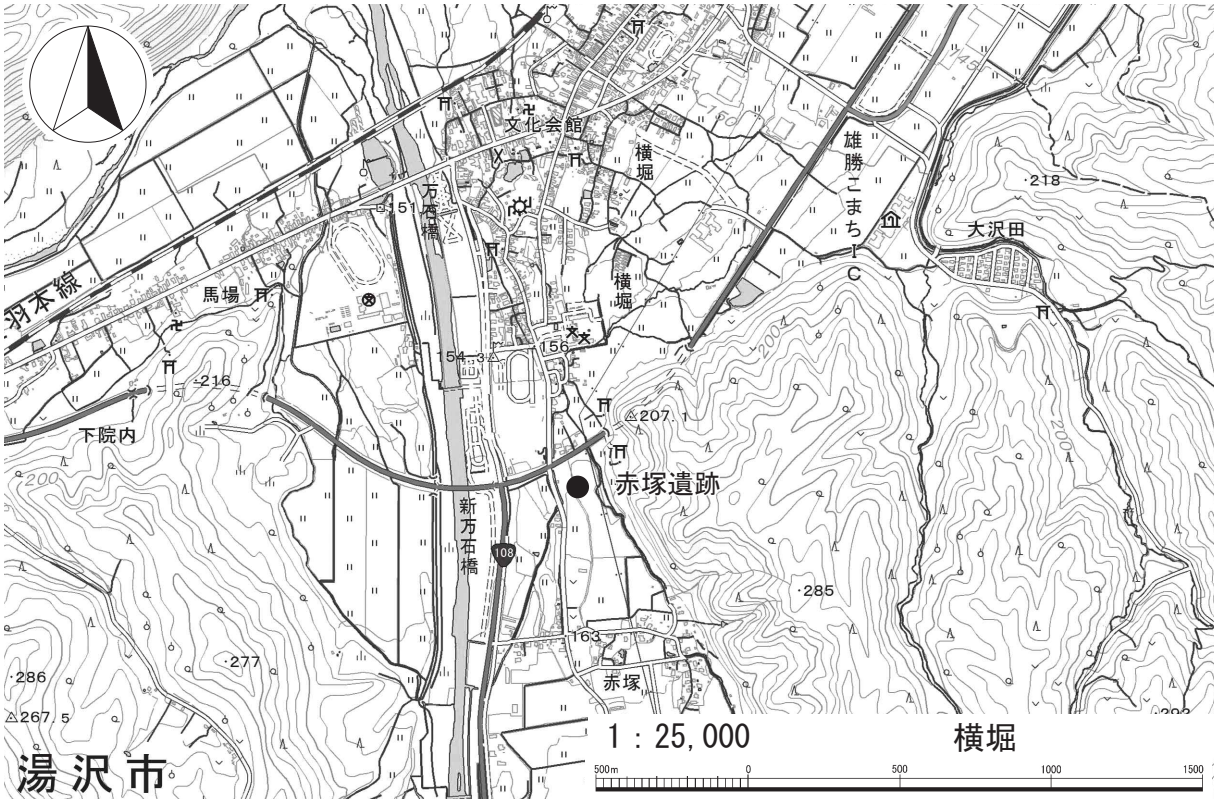
ｂ　遺跡の範囲と工事区域

確認調査の結果、粗密はあるが調査区全域で遺構・遺物が確認できた。調査対象面積6,720㎡全てが本調査対象範囲となる。

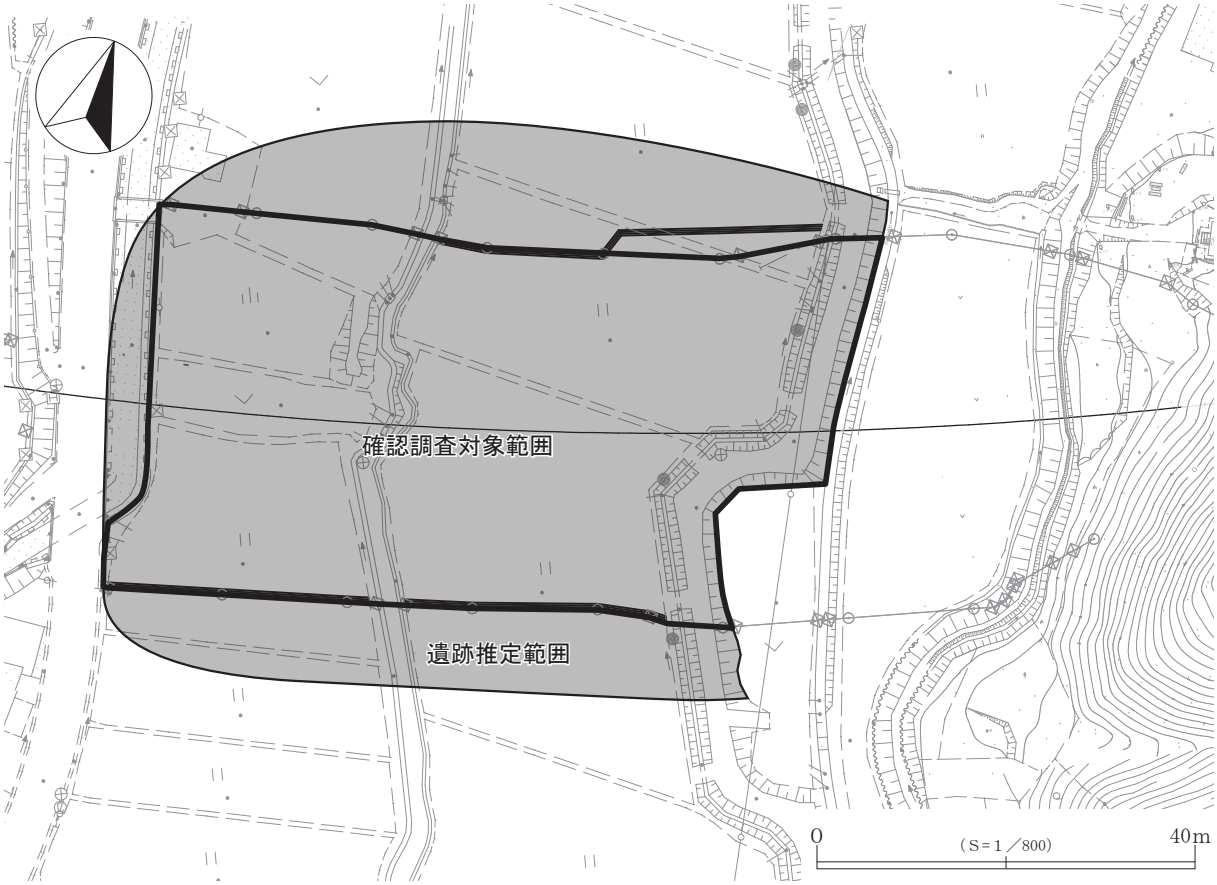
ｃ　発掘調査時に予想される遺構・遺物

調査区中央部付近で多くの遺構が検出されており、本調査時も竪穴建物跡をはじめとした各種遺構の検出が予想される。また、東地区の旧耕作土中からも一定量の遺物が出土し、残存状態も比較的良好のため、表土除去時には部分的に人手による調査が必要である。４トレンチ内の遺物包含層からのみ大木８式期の土器が出土したが、その上部は複数の洪水堆積層で覆われていた。確認調査では確認ができなかったが、４トレンチ周辺に堆積する厚い洪水堆積層中の掘り下げ時には、当該期以降の遺構・遺物が存在するか留意する必要がある。４トレンチは調査区内で最も低い位置に包含層があるため、各時期での土地利用も検討を要する。また、調査区中央部では遺構検出面を覆う洪水堆積層が堆積していることが予想されるため、慎重な遺構検出作業が必要である。

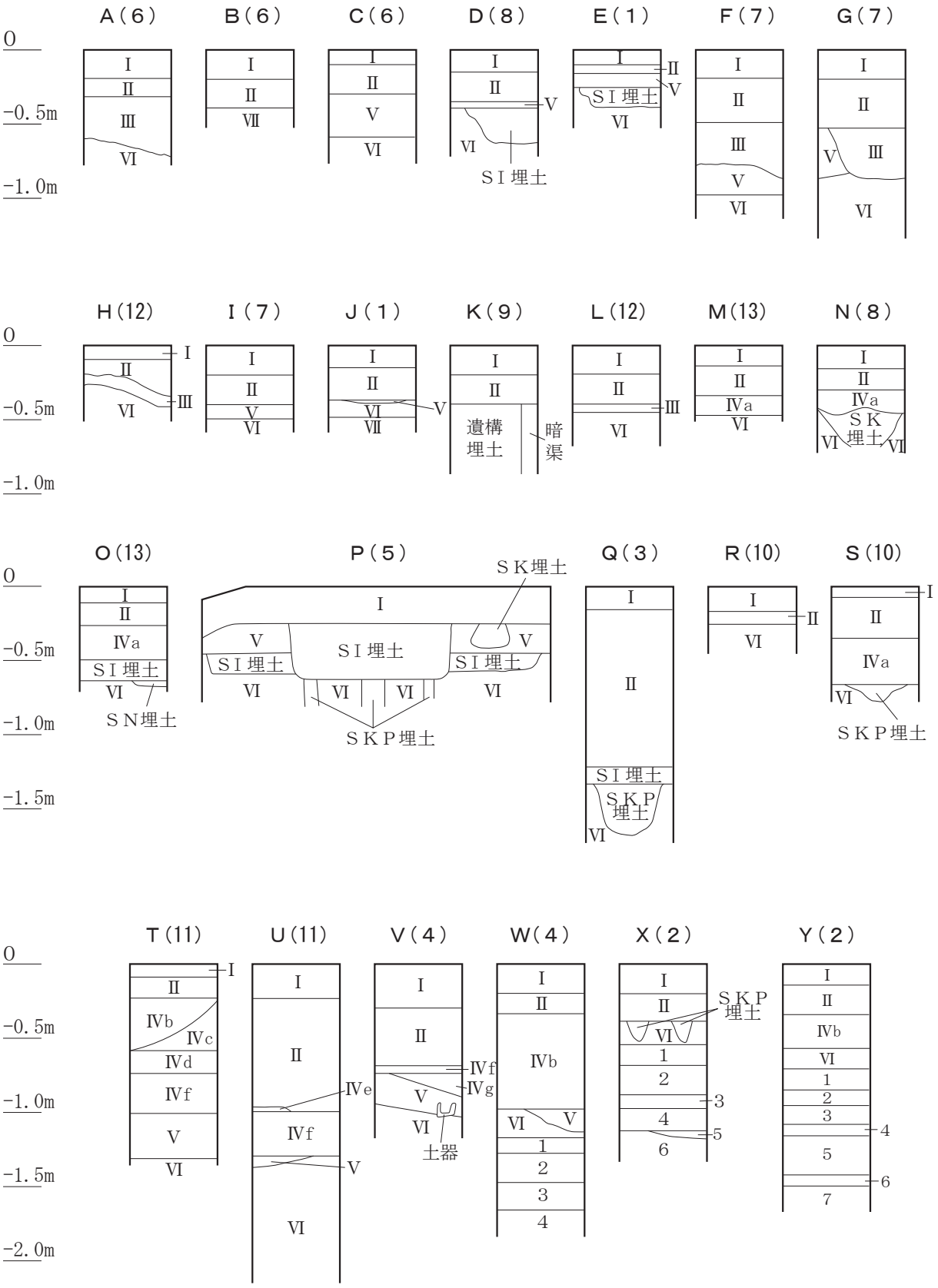
遺物は大木９式期の土器を主体として、縄文時代中期後半の土器が多く出土すると予想される。確認調査時に出土した石器は少量だが、遺物包含層の広がりと厚さから一定量の出土が見込まれる。



第 72 図　赤塚遺跡位置図

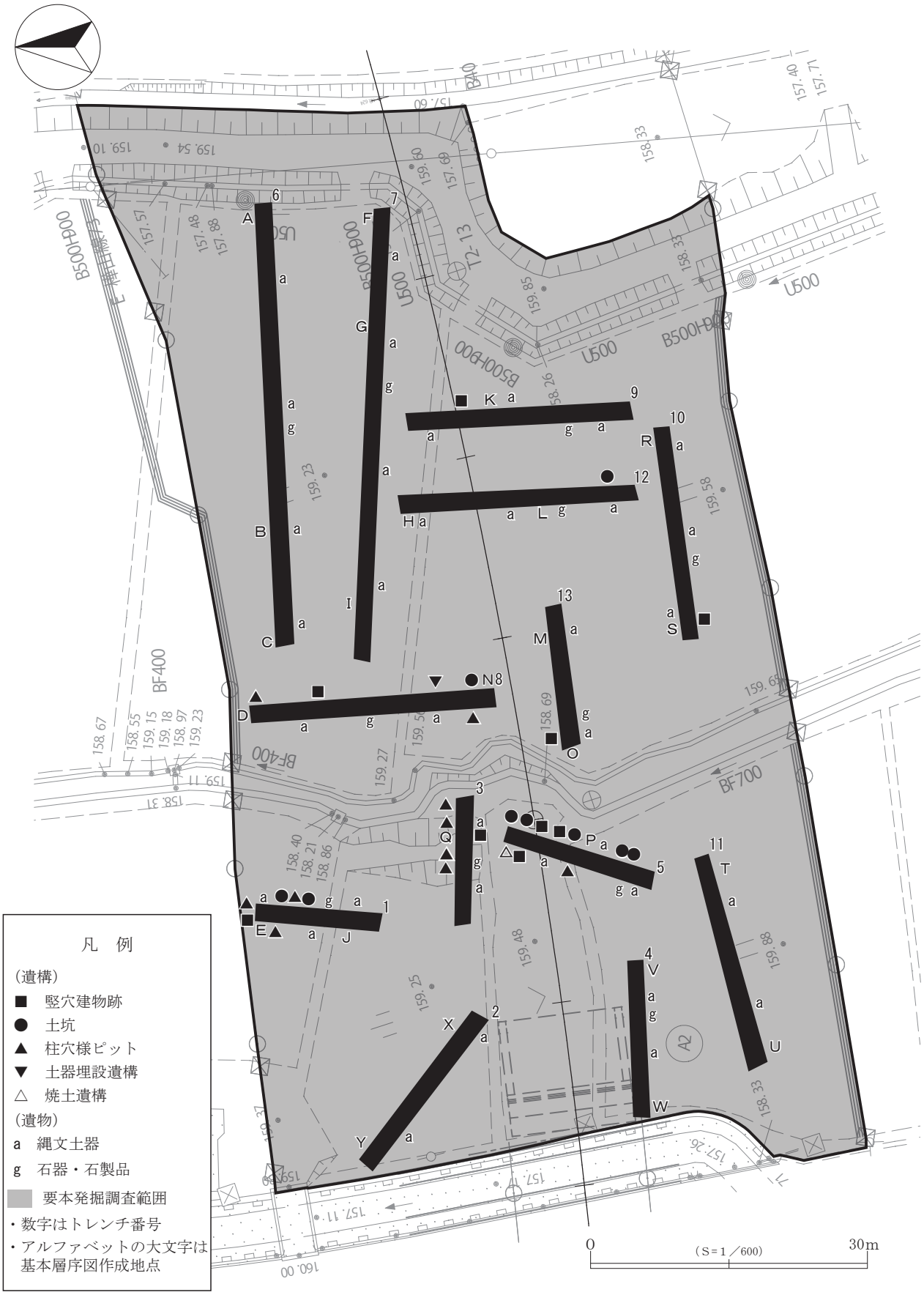


第 73 図　赤塚遺跡推定範囲と調査対象範囲



※（　）内の数字はトレンチ番号

第 74 図　赤塚遺跡基本層序図



第 75 図　赤塚遺跡確認調査結果図と要本調査対象範囲

４トレンチ
包含層確認状況（北から）

５トレンチ
フラスコ状土坑確認状況
（西から）

３トレンチ
複式炉検出状況（東から）

５　地方道路等整備工事（建設）主要地方道秋田雄和本荘線（相川工区）

向田表遺跡

１　遺跡所在地　秋田県秋田市雄和相川字向田表204ほか

２　確認調査期間　平成30年５月28日～６月１日

３　確認調査対象面積　820㎡

４　工事区域内遺跡面積　820㎡

５　要本発掘調査面積　０㎡

６　遺跡の立地と現況

ａ　立地

遺跡は、秋田空港から南西へ約5.6km、秋田市雄和サービスセンターから南へ約１kmに位置し、大きく蛇行しながら北へ流れを変える雄物川本流と、南西から北東に流れ雄物川に合流する中津川に挟まれた丘陵の末端に形成された砂礫段丘上に立地する。

遺跡の範囲は、硬質泥岩（頁岩）を主体とする女川層と接しているため、基盤に含まれる礫は頁岩が多く、現地表面に散布する状況を確認することができる。これは遺跡南側を流れる中津川の浸食・堆積作用の結果と考えられる。

秋田市雄和地区では現在69か所の遺跡が確認されており、本遺跡周辺には縄文時代、古代、中世の遺跡が点在している。北東に約４kmの沖積低地上に所在する河原崎遺跡は、秋田市教育委員会によって発掘調査が行われた縄文時代前・中期、古代の複合遺跡である。縄文時代前期の土坑・焼土遺構・土器埋設遺構、縄文時代中期後葉の竪穴建物跡２棟、平安時代の土坑２基が確認されている。

また、向田表遺跡の丘陵沿いに北へ約１km地点には中世の城館跡である白根館跡が所在する。

ｂ　現況

調査対象範囲を含む丘陵は林地となっている。調査対象範囲は、東西にのびる台地先端の東西約30ｍ、南北約30ｍの範囲で、西から東にかけて傾斜している。台地の中央部分は平坦となっているが、東端は沢状にくぼんでいる。

７　確認調査の方法

調査はトレンチ調査を基本とし、地形を考慮して幅約１ｍのトレンチを設定した。トレンチ内での見極めが困難な場合は必要に応じて範囲を拡張し、遺構・遺物の有無を確認した。トレンチの掘削は人力で行った。また、分布調査のトレンチ位置を確認して埋土を除去し、断面観察を行った。トレンチの総数は計９本、実質調査面積は45㎡で、調査対象面積の５％に相当する。

８　確認調査の結果

ａ　層序

遺跡内の基本層序は次の通りである。

Ⅰ層　暗褐色シルト(10YR3/3) 締まりやや弱～中　粘性やや弱～中　層厚１～10cm　表土

Ⅱ層　にぶい黄褐色シルト(10YR4/3) 締まり中～やや強　粘性やや弱～中　層厚４～25cm
　　遺物包含層

Ⅲ層　にぶい黄褐色シルト～粘質シルト(10YR4/3～5/4) 締まりやや強　粘性中～やや強

層厚５～20㎝　漸移層

Ⅳa層　にぶい黄橙色粘質シルト(10YR6/4) 締まり中　粘性やや強　層厚２～25㎝　地山

Ⅳb層　黄褐～にぶい黄橙色粘質シルト(10YR5/6～6/4) 締まりやや強　粘性中～やや強　層厚５㎝～地山

Ⅰ～Ⅲ・Ⅳb層は調査対象範囲内全域で確認できた。Ⅰ層は表土で、全体を覆っており、１トレンチや５トレンチなど中央の平坦部分や斜面の肩に厚く堆積している。一方、８トレンチなどでは斜面にⅠ層が薄く堆積していた。部分的に木根によって締まりが緩い部分も確認できた。Ⅱ層は遺物包含層で、層厚は地点によって差はあるが、Ⅰ層と同様に中央の平坦部分や斜面の肩に厚く堆積している。Ⅲ層は漸移層である。Ⅳ層は地山でⅣa層・Ⅳb層に細分される。Ⅳa層は、２トレンチの東側と９トレンチで確認し、女川層由来と考えられる頁岩の風化礫を多量に含み、台地の南側に部分的に広がると推定される。Ⅳb層は、確認調査対象範囲内全域で確認したにぶい黄褐色粘質シルトである。Ⅳb層上面での地形は、西から東へと緩やかに傾斜し、中央部分でさらに緩やかになっている。

遺物はⅠ層、Ⅱ層中～下位、Ⅲ層上面で確認した。特にⅡ層中位～下位に多く、縄文土器や剥片などが出土した。

ｂ　検出遺構と出土遺物

調査の結果、調査対象範囲内で遺構は検出されなかった。なお、分布調査時にトレンチの断面で立ち上がりが確認され、土坑の可能性があると指摘されたプランについては、再度断面観察を行って、周辺を掘り広げた結果、Ⅱ層が木根によって攪乱されたものと判断した。同様に４・７トレンチでⅢ層上面で不整形な平面プランを確認し、精査を行ったが、遺物は出土せず、立ち上がりも不明瞭で底面に凹凸があることから遺構ではなく攪乱と判断した。

出土遺物は、縄文土器片３点、石核５点、二次加工のある剥片３点、剥片39点、チップ２点、礫石器２点、時期不明の砥石１点の計55点である。

縄文土器３点は、表面採集１点、Ⅱ層中から２点が出土し、いずれも小破片である。７トレンチから口縁部破片が出土している。いずれも地文として縄文が施文されている。また、分布調査でもⅡ層中から縄文が施文されている土器片が出土している。

石材は頁岩がほとんどである。石核は１・２トレンチから出土し、Ⅰ層中から２点、Ⅱ層中から３点出土した。２トレンチからの出土が４点と多い傾向にある。二次加工のある剥片は３点出土した。Ⅰ層や排土からの出土である。石材は頁岩で、剥離後の縁辺に調整を施している。剥片は39点出土し、１～５・７トレンチから出土し、そのほとんどがⅡ層からである。チップは２点出土し、２・７トレンチから出土した。礫石器２点はⅠ層から出土している。砥石は４トレンチのⅡ層中から出土したが、攪乱によってⅠ層から落ち込んだものと考えられる。

９　所見

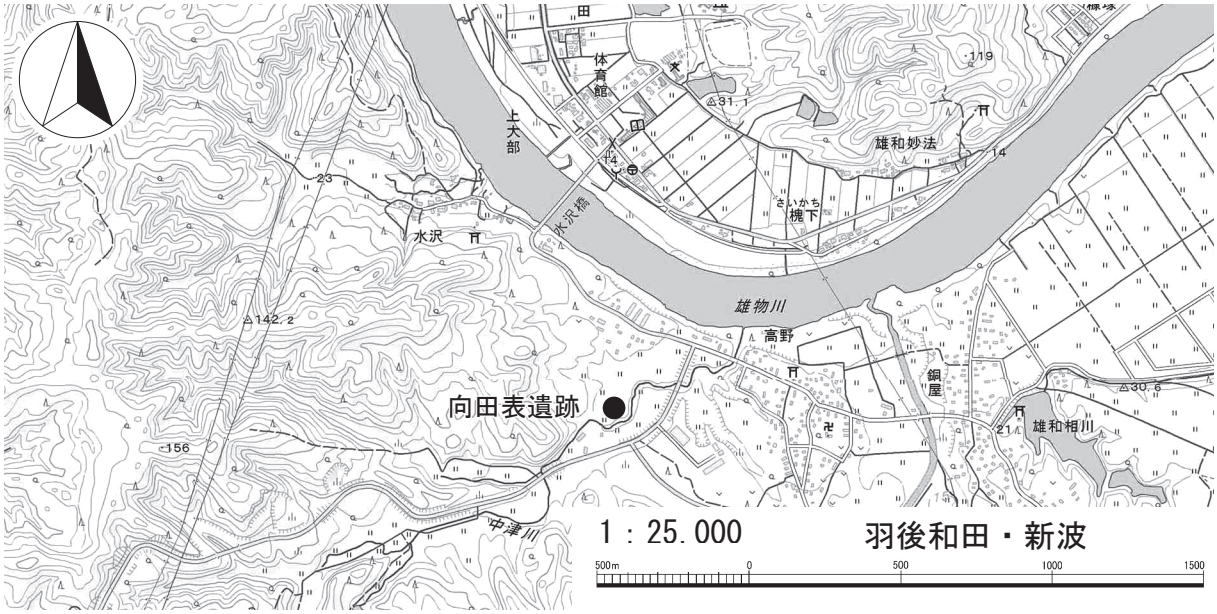
ａ　遺跡の種類

分布調査及び今回の確認調査で出土した縄文土器・石器は、Ⅰ層とⅡ層から出土している。分布調査では、Ⅱ層からスクレイパーが出土し、確認調査対象範囲付近、特に西側からは頁岩製の石鏃・嘴状石器が表面採集されている。本調査区の西側には一段高い平坦面が位置しており、ここから東側に舌状に張り出す部分が今回の調査範囲となることから、遺跡の中心は西側の一段高い平坦面に広がっ

ていると想定される。今回の調査範囲からは若干の遺物は出土したものの遺構が確認出来なかったことから、縄文時代の散布地と考えられる。

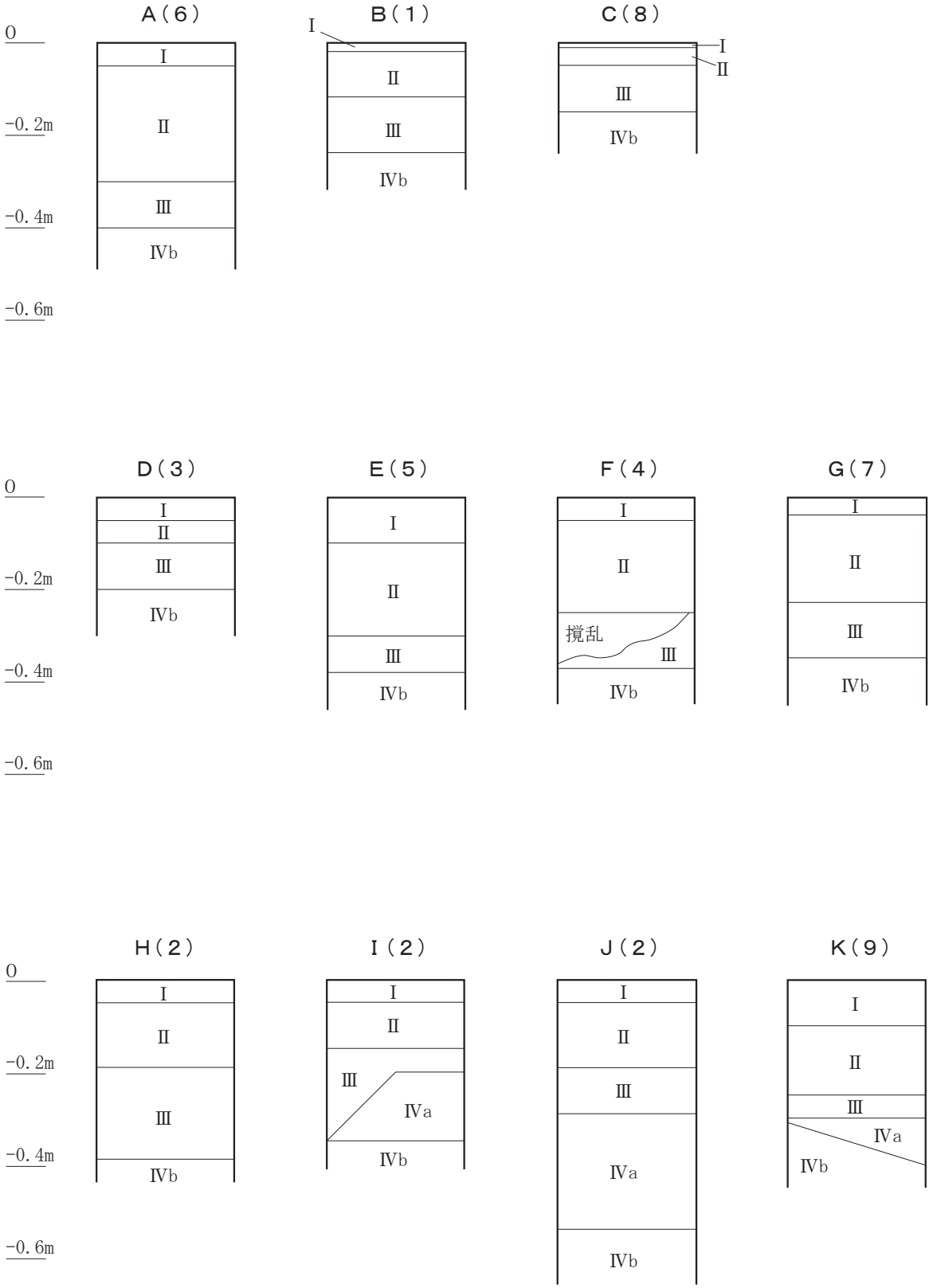
ｂ　遺跡の範囲と工事区域

今回の確認調査対象範囲では、遺構が確認されず、遺物の分布が散漫であることから、工事区域内について、本発掘調査の必要はないと判断される。



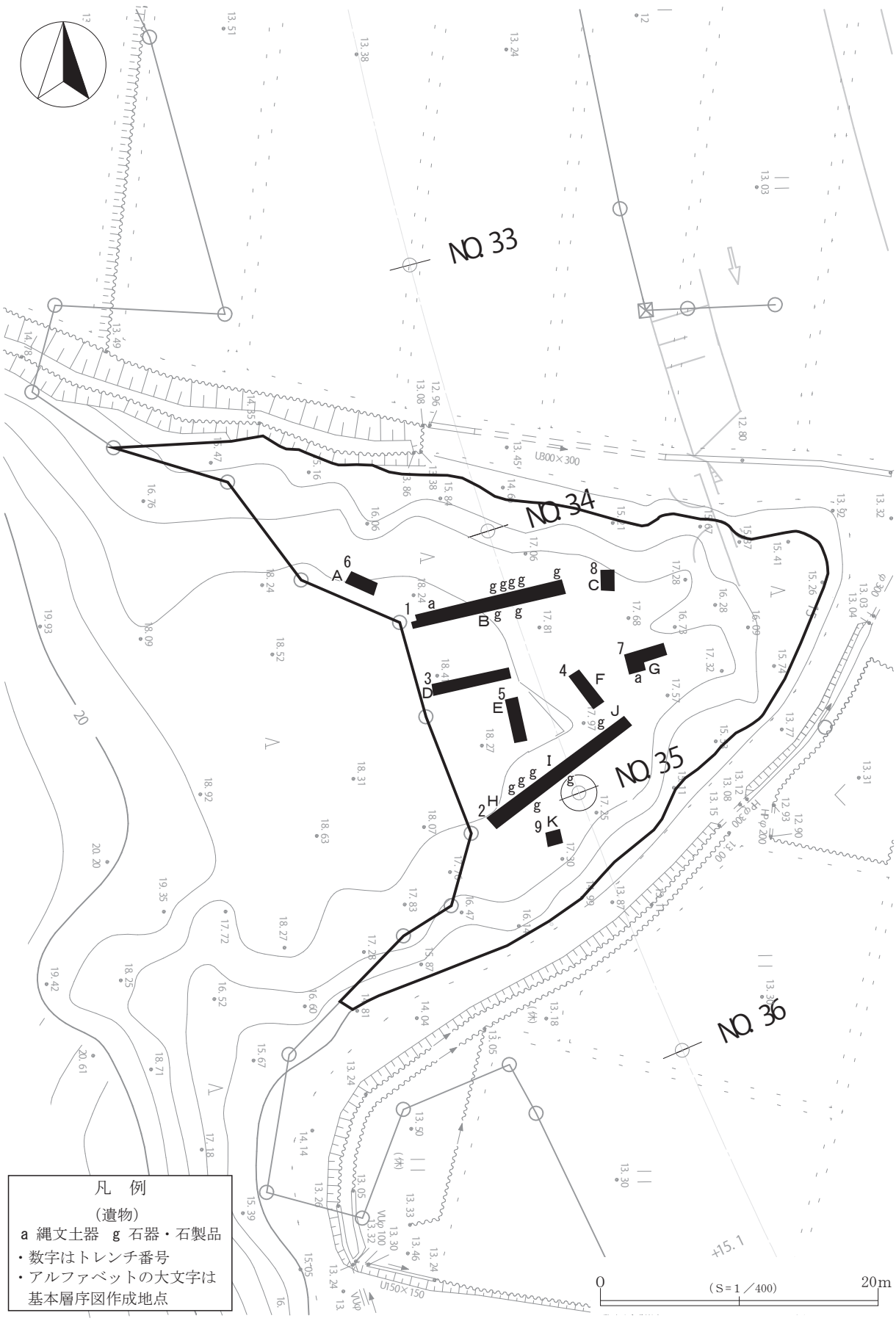
第 76 図　向田表遺跡位置図

第 77 図　向田表遺跡推定範囲と調査対象範囲



※（　）内の数字はトレンチ番号

第 78 図　向田表遺跡基本層序図



第 79 図　向田表遺跡確認調査結果図

２トレンチ
Ⅳa、Ⅳb 層検出状況
（南西から）

７トレンチ
Ⅲ層　縄文土器出土状況
（南から）

調査区全景
（南西から）

６　大館工業団地開発事業

片貝家ノ下遺跡

１　遺跡所在地　秋田県大館市比内町片貝字家ノ下17外

２　確認調査期間　平成29年11月１日～11月２日
平成30年６月19日～６月20日

３　確認調査対象面積　39,000㎡

４　レーダー探査対象面積　1,131㎡（平成29年）・5,150㎡（平成30年）

５　遺跡の立地と現況

（１）立地（第80図）

遺跡は、ＪＲ花輪線扇田駅の南西２㎞に位置し、引欠川右岸の標高58ｍの沖積地に立地する。引欠川は昭和30年代後半まで遺跡の東～北西縁に沿うように流れており、本来、遺跡はこの川の左岸に位置していたことになる。旧河道は、工業団地造成に伴う埋め立て造成により現地形では確認することが出来なくなった。

引欠川流域は江戸時代から埋没建物が見つかることで知られる。菅江真澄等の記録には、遺跡から５㎞下流の大披・板沢地区で洪水に伴う崖崩れの際に建物がたびたび発見されたと記されている。

（２）現況

調査対象範囲全域が旧水田である。対象範囲は北西－南東方向に長く、その中を２本の農道が100ｍ間隔で北東－南西方向に通っているが、隣接地の造成工事により寸断された状態となっている。平成27・28年に行われた確認調査時のトレンチは、各年の調査期間内に埋め戻されている。

６　調査の概要

（１）これまでの調査概要

平成27年春の試掘調査による遺跡の発見後に行われた確認調査では、西暦915年の十和田火山の噴火に伴う降下軽石（大湯軽石）や火山泥流堆積物（シラス）により建ったまま埋没し、傾斜した屋根の痕跡が３次元的に残る伏屋形式の竪穴建物跡や竪穴・掘立柱併用建物跡等を検出した。建物跡は、屋根や柱など構造材の腐朽痕跡が主体で、地下水位が高いところでは構造材そのものが残存している。古代の集落は、遺跡の北東側に展開し、噴火前に埋め戻された複数の竪穴建物で重複が認められることから、一定期間存続したことがわかる。また、集落の南～北東側隣接地では田面や畦畔直上に降下軽石が堆積した水田跡が検出され、集落と耕作地が同時に埋没したことが明らかになった。

（２）地中レーダー探査の実施

今後の調査・保存の見通しを立てるため、遺跡を掘削せずに遺構の分布状況の推定が期待できる地中レーダー探査を平成29年度から実施し、有効性の確認と新たな遺構の検出を試みることになった。

（３）探査地の設定（第81図）

遺跡周辺が北西から南東方向に長い長方形に区画された旧水田となっており、今回の探査地はこの区画に合わせて設定することにした。なお、各探査地の四隅及び変曲点に打設した杭については、ＧＰＳ測定を行い座標値を得た。各探査地については、北西－南東方向をＸ軸、北東－南西方向をＹ軸とし、それを基準に側線名を付した。

①平成29年度

確認調査で検出した竪穴建物跡の反応確認と新たな遺構検出を目的に、探査地１～３を設定した。**探査地１**は17ｍ×18ｍの306㎡で、埋め戻された竪穴建物跡４棟が検出された２トレンチ北東部を含む。**探査地２**は20ｍ×15ｍの300㎡で、竪穴建物跡１棟が検出された４トレンチ南西部を含む。**探査地３**は15ｍ×20ｍの300㎡で、屋根痕跡が残る伏屋形式の竪穴建物跡１棟が検出された４トレンチ中央部を含む。**探査地４**は15ｍ×15ｍの225㎡で、旧地表面の高まりや大小の溝を検出した２トレンチ南西側を含む。

②平成30年度

29年度の探査で検出された墳墓と推測される遺構の分布域と低位（水田）面の広がりを捉えることを目的とし、２本の農道に挟まれた旧水田約6,000㎡のうち、東側の一部を除いた 5,150㎡を探査地として選定した。はじめに**概要探査（以下概査）**として、探査地全域に５ｍメッシュを設定し、この側線上を探査した。次に**詳細探査**として、概査で特徴的な反応が得られた範囲３か所を選定し、それぞれ１ｍメッシュを設定し、この側線上を探査した。**詳細探査地１**は20ｍ×20ｍの400㎡で、旧地表面の高まりや溝跡が検出された１トレンチ南西側を含む。**詳細探査地２**は35ｍ×15ｍの525㎡で、旧地表面の高まりが検出された２トレンチ中央部を含み、29年度レーダー探査で確認されたマウンド状の高まり１基も含む。**詳細探査地３**は30ｍ×20ｍの600㎡で、29年度レーダ探査で墳墓と推測される遺構が検出された２トレンチ南西部を含む。

（４）各探査地の探査結果（第84図）

①平成29年度探査

探査地１

竪穴建物跡の床面を確認したが、反応は不明瞭である。床面や壁と同質の埋土が要因とみられる。

探査地２

ＳＩ01竪穴建物跡に関連して､旧地表面から立ち上がる土屋根と考えられる屋根の傾斜を確認した。周堤と屋根の軒下が一体化した部分と見られ、伏屋形式の竪穴建物であった可能性が高い。屋根が良好な状態で保存されていると推測されるのは、より高い位置で建物跡の平面形を確認することができた北西・南東端部である。

ＳＩ01竪穴建物跡の南東隣接域では、平らな面の広がりを確認した。周辺域の旧地表面に比べ明らかに平らであり、28年度調査で検出した貼床様硬化面の広がりと推測される。

探査地３

周堤を含むＳＩ03竪穴建物跡の土屋根の傾斜と床面を確認した。しかし、27年度調査で検出した柱穴やカマド及び煙道の反応は確認できなかった。これとは別に、本遺構の東側では、竪穴建物の床面や周堤とみられる反応を確認した。レーダー画像では、床面や周堤が明瞭に読み取れる。一方、屋根の痕跡は確認できないことから、竪穴建物廃棄後の窪地あるいは上屋構築直前に罹災した可能性がある。27年度に検出したＳＩ02竪穴建物跡に近い状態と推測される。

探査地４

一定の広さをもつマウンド状の高まりが３か所確認され、このうち２か所の高まりの周囲には溝状の落ち込みがある。類例は、奈良～平安時代の東北地方北部に散見する墳墓がある。なお、27年度調

査で検出していた高まりは、探査範囲からは僅かに外れているとみられ、今回検出した高まりとは別遺構と考えられる。

②平成30年度探査

詳細探査地１（第83図①）

29年度の探査地４で検出した墳墓と推測される遺構と同様の高まり状の反射面と溝状の反射面を確認した。推測される構造は、中央部に円形のマウンド状の高まりがあり、その周縁に溝が全周する。溝の外径は約13mに達し、高まり部分では北東－南西ライン上で硬く締まった反応が得られている。また、遺構の北東～南東側は、レーダー画像によると旧地表面を示す反射面の平坦さが際立っており、整地面の可能性がある。なお、27年度調査で土坑と判断していた遺構は、このマウンド状の高まりの一部とみられる。

詳細探査地２（第83図②・③）

高まり状の反射面と溝状の反射面のセットを３か所で確認した。遺構の規模は、溝の外径が９ｍ前後と６ｍ前後になる。この他、竪穴状の反射面と周堤状の反射面の反応をセットで確認した。27年度検出のＳＩ02竪穴建物跡と29年度検出の同例を勘案すると、竪穴建物廃棄後の窪地もしくは上屋構築直前の状態を示すものと推測される。

詳細探査地３

29年度探査地４で捉えた遺構の続きとみられる高まり状の反射面と溝状の反射面を確認した。今年度当該域の側線データによって、29年度は未検出だった遺構南西部の状態が確認できるようになり、平面形の全容を推測することが可能となった。詳細探査地１で確認された遺構と同様に、マウンド状の高まりの周縁に巡る溝は、途切れず全周すると推測され、外径９ｍ前後となる。また、小型の竪穴建物跡と推測される竪穴状の反射面も検出した。これについては、北西－南東方向の側線データから、トレンチ調査で把握できなかった北西壁と南東壁の立ち上がりを確認し、四方の壁の存在が明らかになったことから溝（27年度見解）ではなく竪穴建物跡と推定される。

低位（水田）面の概査（第84図右 概査①・②）

引欠川沿いでは、27年度調査で調査対象範囲北西の４・５トレンチから人工（直線）的な下降傾斜面と斜面下に広がる平坦面を、28年度調査で調査対象範囲南東の第16・17トレンチの低位面から水田跡を検出した。４・５トレンチの傾斜面下に広がる平坦面は、引欠川沿いの試掘データを勘案すると、16・17トレンチの水田跡の広がりと考えられる。概査では、水田跡と推測した広がりの北西端を追跡した。

概査①では、旧地表面から直線的に下傾する反射面と斜面下の平坦な反射面を確認した。これらは、第４・５トレンチで確認した人工的な斜面と、斜面下の平坦面と見られる。一方、**概査②**では、旧地表面から「緩やかに下傾する反射面」と連続する「平坦な反射面」を確認した。高低差は0.5m程で、傾斜も緩やかで自然地形の可能性が高い。概査①・②ラインは、斜面下の平坦面の標高が0.8m程異なり、傾斜角も違うため、二つが同一面である可能性は低い。したがって、調査対象範囲南東端から続く低位面は、４トレンチ付近で立ち上がる可能性が高い。

（５）探査結果のまとめ

①平成29年度

ａ　確認調査検出遺構と新たな遺構の確認

探査の結果、確認調査で検出した竪穴建物の屋根痕跡の傾斜や竪穴建物跡の床面を確認したほか、窪地の状態となっていた竪穴建物跡や墳墓と推測される遺構等、新たな遺構が確認された。

ｂ　レーダー反応の差異と有効性の確認

降下軽石に覆われた旧地表面や火山泥流が浸入した竪穴建物の反応は良好であるが、十和田火山噴火前に廃棄・埋め戻された竪穴（探査地１等）の反応は不良である。この違いは、埋土の差と考えられる。今回の探査により、西暦915年の十和田火山噴火に伴う火山泥流発生時に集落を構成していた遺構群を把握するうえで、地中レーダー探査が非常に有効であることを確認することが出来た。

②平成30年度

ａ　墳墓と推測される遺構の分布域

墳墓と推測される遺構については、29年度探査で検出した分布域の北側と西側で、新たに４基検出した。これで分布域の南側は明らかになったが、北側はさらに広がる可能性が生じてきた。これまでに検出された数は、29年度の２基、30年度の４基、合わせて６基となる。規模は、溝の外径により大（13ｍ前後）、中（９ｍ前後）、小（６ｍ前後）の３つに分けられる。

ｂ　低位面の広がり

確認調査対象範囲の南東端付近で検出した低位（水田）面の広がりは、当初の予測よりも狭く、第４トレンチ付近までであり、３トレンチ付近で確認していた低位面は、この面よりも0.8ｍほど高いことが判明した。中位面ともいえるこの面は、灌漑用の池として機能していた可能性もある。

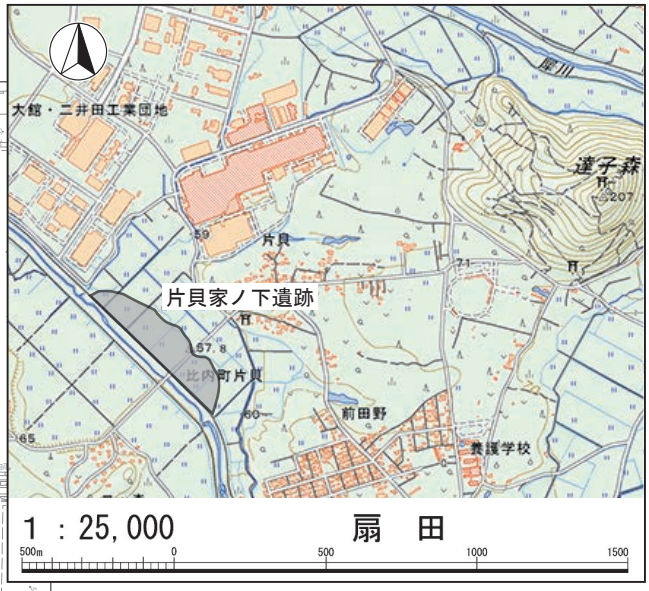
ｃ　新たな遺構の検出

墳墓と推測される遺構の他に、竪穴建物跡３棟や土坑、溝状の落ち込み、盛り土、微高地等と推測される反応を得た。このうち竪穴建物跡については、確認調査成果との検証結果から信憑性は高いと判断される。その他の遺構に関しては、現段階で機能や性格を特定することは困難である。

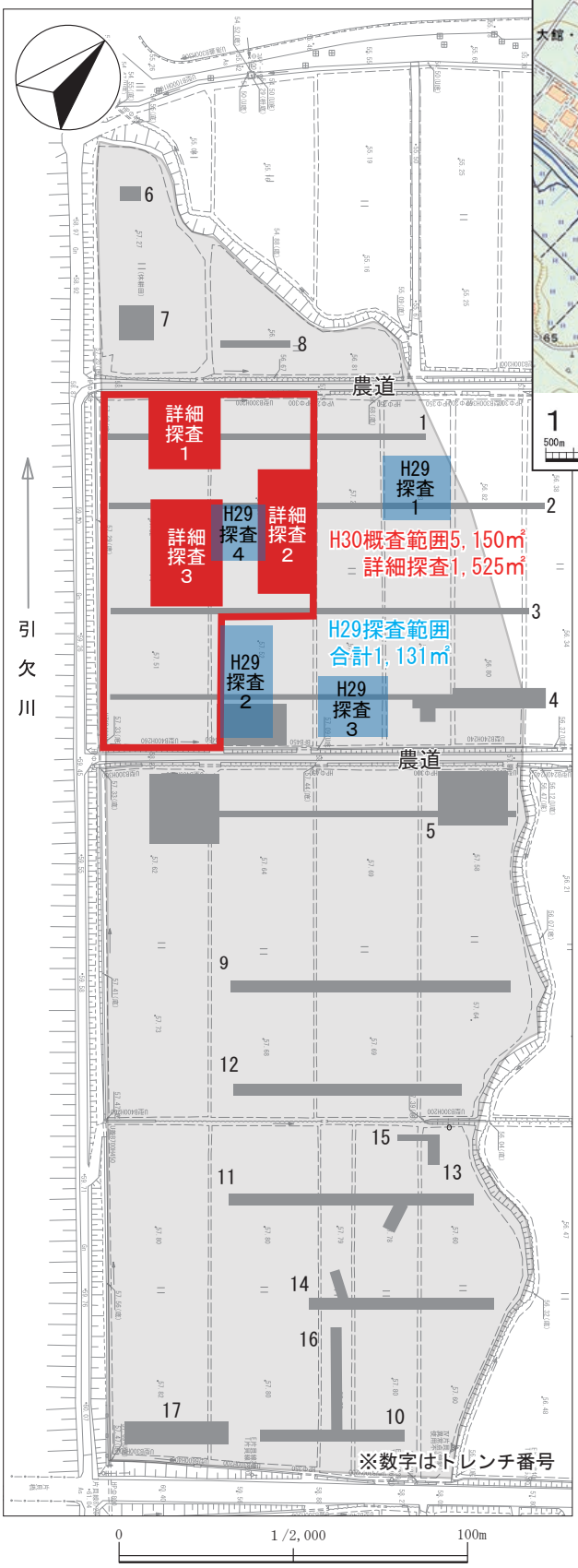
ｄ　地中レーダー探査の有効性の再確認

レーダー探査で得た複数の側線データの解析から遺構の平面形を復元することにより、トレンチ調査による所見を何点か改めることになった。大きな溝と推測していた遺構が竪穴建物跡の可能性が高いこと、別々の溝と認識していた遺構が同じ溝である可能性が高いこと等である。本遺跡において、レーダー探査は、トレンチ調査による遺構の解釈を補完する上で効果的といえる。

参考文献
秋田県教育委員会『遺跡詳細分布調査報告書』秋田県文化財調査報告書第502集　2016（平成28）年
秋田県教育委員会『遺跡詳細分布調査報告書』秋田県文化財調査報告書第507集　2017（平成29）年
秋田県教育委員会『遺跡詳細分布調査報告書』秋田県文化財調査報告書第511集　2018（平成30）年

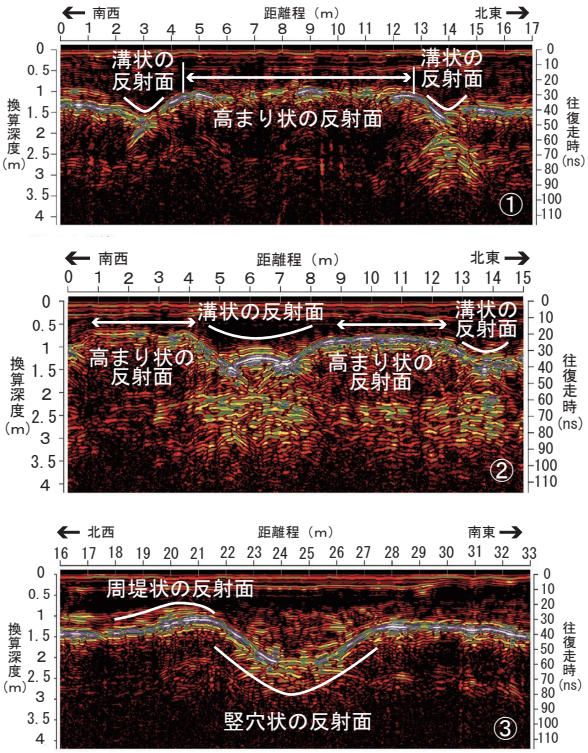


第 80 図　片貝家ノ下遺跡位置図

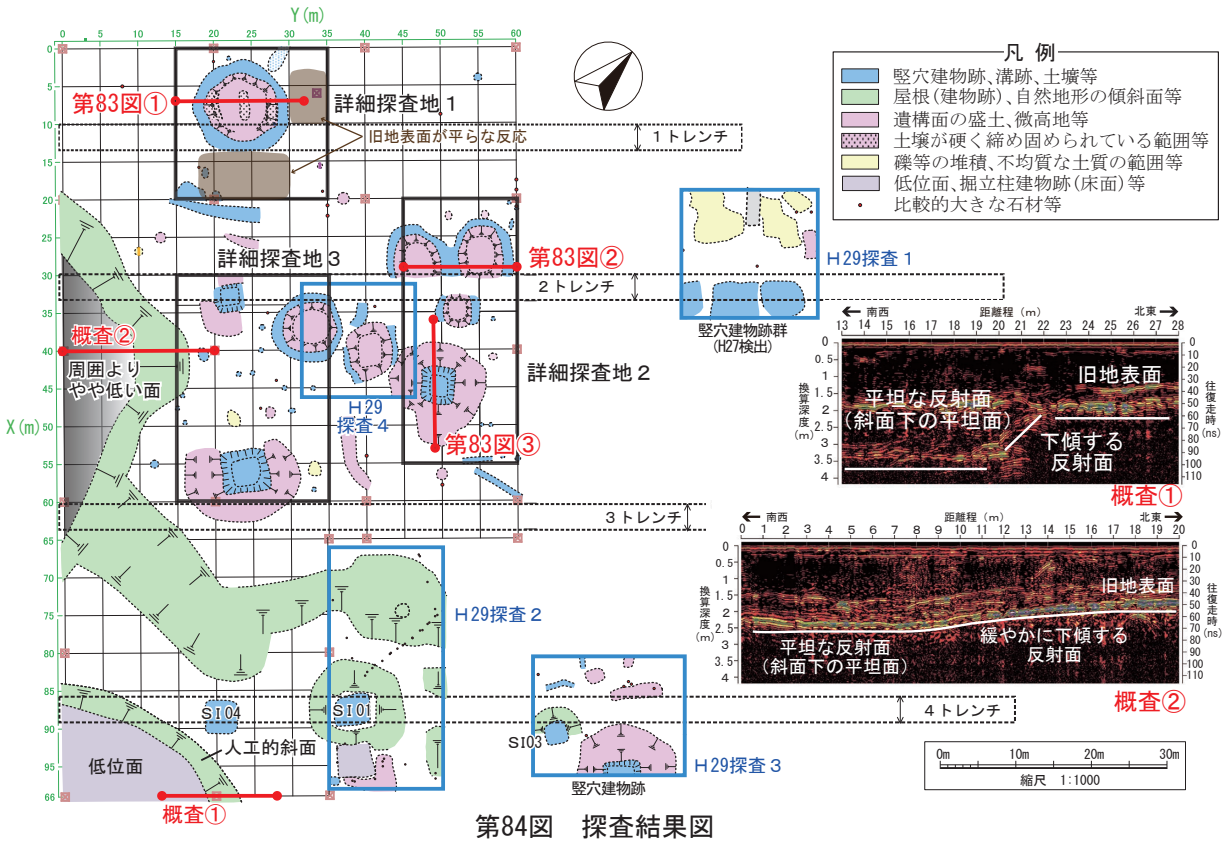


第81図　確認調査対象範囲と探査実施位置

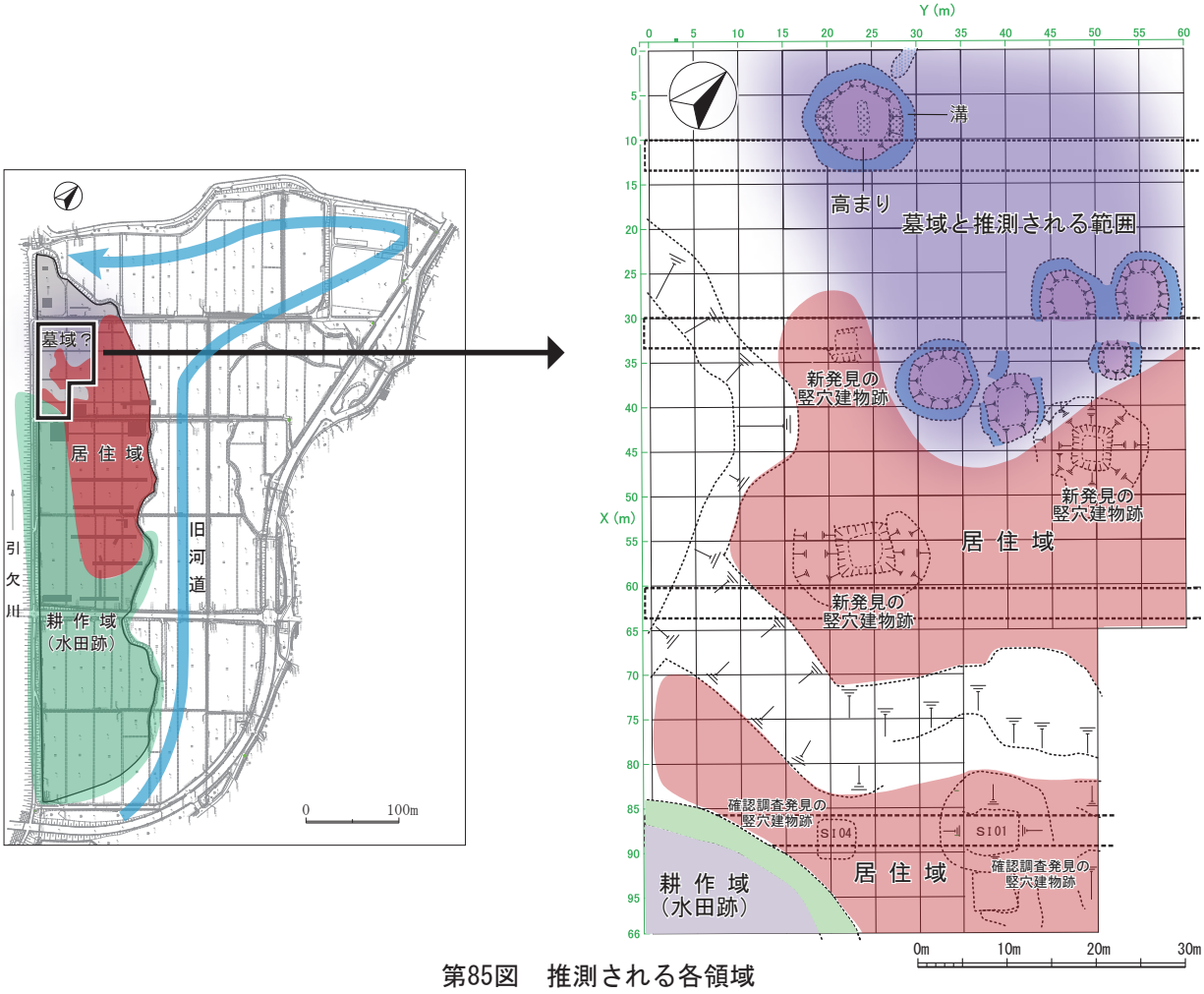
第82図　探査対象範囲（西から）



第83図　レーダー画像



第84図　探査結果図



第85図　推測される各領域

報 告 書 抄 録

ふりがな	いせきしょうさいぶんぷちょうさほうこくしょ
書名	遺跡詳細分布調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	秋田県文化財調査報告書
シリーズ番号	第515集
編著者名	秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室　秋田県埋蔵文化財センター
編集機関	秋田県埋蔵文化財センター
所在地	〒014-0802　秋田県大仙市払田字牛嶋20番地　TEL　0187-69-3331
発行機関	秋田県教育委員会
所在地	〒010-8580　秋田県秋田市山王三丁目１番１号　TEL　018-860-5193
発行年月日	西暦2019年３月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
くぼたじょうあと 久保田城跡	あきたけん あきたし 秋田県秋田市 せんしゅうめいとくまち 千秋明徳町 204ほか	05201	201-1217	39° 43′ 10″	140° 07′ 18″	20180205 ～ 20180208	11㎡ (対象面積 12,100㎡)	県・市連携文化施設整備事業
かんだ 神田遺跡	あきたけんにかほ 秋田県にかほ しきさかたまちあらいがま 市象潟町洗釜 あざかんだ 字神田30ほか	05214	241-37-09	39° 10′ 40″	139° 54′ 41″	20180717 ～ 20180731	530㎡ (対象面積 6,520㎡)	国道７号遊佐象潟道路事業
たかはな 高塙遺跡	あきたけんのしろし 秋田県能代市 あざたかはな 字高塙154-1	05202	202-2-112	40° 11′ 7″	140° 02′ 53″	20180706 ～ 20180709	68.45㎡ (対象面積 470㎡)	一般国道７号能代地区事故対策事業
あかつか 赤塚遺跡	あきたけんゆざわし 秋田県湯沢市 よこぼりあざあかつか 横堀字赤塚 174ほか	05207	207-66-70	39° 03′ 04″	140° 27′ 00″	20180925 ～ 20181004	628㎡ (対象面積 6,720㎡)	国道13号横堀道路改築事業
むかいだおもて 向田表遺跡	あきたけんあきたし 秋田県秋田市 ゆうわあいかわあざむかい 雄和相川字向 だおもて 田表204ほか	05201	201-34-67	39° 34′ 59″	140° 10′ 06″	20180528 ～ 20180601	45㎡ (対象面積 820㎡)	地方道路等整備工事(建設) 主要地方道 秋田雄和本荘線 (相川工区)

かたかいいえのした 片貝家ノ下 遺跡	あきたけんおおだてし 秋田県大館市 ひないまちかたかい 比内町片貝 あざいえのした 字家ノ下17外	05204	204-12-54	40° 13′ 17″	140° 33′ 05″	20180619 ～ 20180620	5,150㎡ (対象面積 39,000㎡)	大館工業団地 開発事業

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
久保田城跡	城館跡	近世	柱穴様ピット 性格不明遺構	近世陶磁器	整地地業の痕跡を確認した
神田遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴建物跡 土器埋設遺構 土坑 柱穴様ピット	縄文土器、石器、土製品	
高塙遺跡	集落跡	近世		近世陶磁器	確認調査範囲内は本調査の必要無し
赤塚遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴建物跡、 土器埋設遺構、 フラスコ状土坑 土坑、 柱穴様ピット	縄文土器、石器、中世青磁碗、近世陶磁器	
向田表遺跡	散布地	縄文時代		縄文土器、石器	確認調査範囲内は本調査の必要無し
片貝家ノ下遺跡	集落跡	平安時代	竪穴建物跡、性格不明遺構	縄文土器、石器	十和田火山による泥流に埋まった平安時代の集落跡
要約	平成30年１月から11月まで58件の詳細分布調査と６件の遺跡確認調査を行った。その結果、向田表遺跡、高塙遺跡については遺構が確認されず、確認調査範囲内は本調査不要と判断した。神田遺跡、赤塚遺跡、久保田城跡については本調査が必要と判断した。片貝家ノ下遺跡については、地中レーダー探査により墳墓と想定される遺構の分布域の南限が判明した。				

秋田県文化財調査報告書第515集

遺跡詳細分布調査報告書

印刷・発行　平成31年３月
編　　集　秋田県埋蔵文化財センター
〒014－0802　大仙市払田字牛嶋20番地
電話（0187）69－3331
FAX（0187）69－3330
発　　行　秋田県教育委員会
〒010－8580　秋田市山王三丁目１番１号
電話（018）860－5193